

紀要

第2号
2019年12月

目次

I	論文		
	<研究ノート>		
	学部留学生が書いた講義コメントの分析 —コメントの内容面に着目して—	濱田 美和	1
	<実践・調査報告>		
	日本人学生の自文化としての日本語との邂逅 —教職を目指す学生のグローバルマインド形成の 一つの取り組みとして—	副島 健治	14
	日本人学生と留学生を対象にした 「グローバル日本語」養成のためのワークショップ報告	中河 和子 濱田 美和	27
	フリー音声アシスタントを活用した自律発音練習の試み	水田 佳歩	45
II	年報（2018年4月～2019年3月）		
	1. 交流部門報告		51
	2. 教育部門報告		56
	日本語研修コース報告		57
	日本語課外補講報告		60
	ライデン大学短期日本語研修プログラム報告		67
	総合日本語コース報告		74
	日本語プログラム授業アンケート 初級クラス		81
	日本語プログラム授業アンケート 中級クラス		85
	日本語プログラム授業アンケート 上級クラス		89
	日本語学習支援サイトRAICHO報告		98
	3. 国際機構関連行事		99
	4. 国際機構教員等担当業務		103
III	資料		107

富山大学国際機構

紀要

第2号
2019年12月



I 論文

学部留学生が書いた講義コメントの分析 —コメントの内容面に着目して—

濱田 美和

An Analysis of International Undergraduate Students' Written Lecture Reflections: Focus on the Content of the Comments

HAMADA Miwa

要 約

学部留学生がどのような内容をコメントシートに書こうとするのかを把握するため、専門家によるオムニバス形式の講義が行われる教養教育「日本事情」で毎回課されるコメントシートを用い、留学生の書いたコメントの内容面に焦点を当て分析を行った。コメントシートに書かれた内容を、大きく〈講義内容〉、〈教え方〉、〈他国の状況〉、〈自分の状況〉、〈感想〉の5項目に分類して分析した結果、〈講義内容〉と〈感想〉の記載率が高く、華道や書道のように体験活動を含む講義では〈自分の状況〉の記載率も高かった。また、1件のコメントシートに書かれた項目数を見ると、複数項目記載したコメントシートが9割近くを占めたが、〈感想〉あるいは〈講義内容〉、いずれか1項目しか記載されていないものも1割強あった。そして、5項目について、それぞれの記載内容を詳しく見たところ、〈講義内容〉では具体的な内容が記述できていないものが一定数あること、〈他国の状況〉では母国との類似点に関する記述が中心であることなどがわかった。これらの結果をもとに、コメントシートの書き方に関する指導方法を提案した。

【キーワード】 学部留学生, 講義, コメントシート, コメント, 内容

1 はじめに

大学の授業ではコメントシート（レスポンスシート、リアクションペーパー、講義カードなどとも呼ばれる）を用いて、学生にその日の講義についての意見・感想、質問などを書かせることがよく行われる。留学生の場合、日本語でコメントを書くのに慣れていなかったり、また、授業中のわずかな時間で書くことが求められるため、一定の日本語力を有する留学生でも、講義コメントを書くのに苦労している様子がしばしば見られる。そこで、留学生が日本の大学に入って間もない時期に、コメントシートの書き方を学べるような指導方法および教材の開発を目的として、濱田（2017）では留学生がコメントシートを書く際に日本語の語彙・文法上どのような困難点があるかを把握するため、中～上級レベルの日本語力を有する留学生が書いたコメントシートにおける誤用の分析を行い、複数の留学生に共通して見られる誤用や、特に誤用が集中する語句や文法・表現形式をいくつか取り出すことができた¹⁾。本稿では、コメントの内容面に目を向け、留学生がどのような内容をコメントシートに書こうとするのかを把握することを目的に分析を行う。

近年大学では学部入学直後の段階で、大学での学習・研究を円滑に進めていけるよう、初年次教育としてノートテイキング、情報収集、レポートの書き方、プレゼンテーションスキルなどの指導が行われることが多く、そのための教材も多く開発されている²⁾。コメントシートの書き方を扱った教材は少ないが、由井他（2012）、深澤他（2018）にコメントに書くべき内容が提示されている。まず、由井他（2012）の中級レベル以上の日本語学習者向け教材では次の5つのポイントが挙げられている。

☆ まずは授業の内容を書きましょう。ただし、読み手は授業の内容を知っていますから、簡単にわかりやすく書くほうがいいです。内容をだらだら長く書かないようにしましょう。

- ☆ 内容のまとめりごとに段落を作って書きましょう。段落のない感想文は読みにくく、読み手に感想が伝わりません。
- ☆ 授業の内容から考えたことや気づいたこと、最後には「まとめ」を書きましょう。「まとめ」には、授業全体についての意見や今後の抱負などを書きます。最後にまとめを書くと、読み手はあなたの考えがよくわかり、印象に残ります。
- ☆ 授業のコメントシートは、手紙やメールのように読み手に話しかけるような書き方はしません。コメントシートは、自分の考えを書くものだからです。コメントシートには授業の内容についての要約や考えたこと、気づいたこと、疑問に思ったことなどを書きます。
- ☆ 授業のコメントシートには、「眠くなる」などのマイナスに評価する内容やねぎらう表現、先生をほめる表現を使うと失礼になります。内容には、授業内容とそれに対する意見を書きましょう。(由井他 2012: 140)

そしてコメントシートの基本構成として、①授業の内容(学んだこと)、②授業の内容から考えたことや気づいたこと、③意見のまとめ、今後の抱負など、という流れが示されている。

次に、深澤他(2018)の留学生向けのアカデミック・ジャパニーズ教材では『『授業の感想やコメントを書きなさい』という要求であっても、大学の授業のコメントシートですから、単に『面白かったです』とか『とても役立ちました』、『深く考えられました』などといった感想を書いても評価されません。何に対して、何を考えたのか、なぜそう考えたのかを述べます。また、他の授業で学んだことや読んだ本などとの関連で論じたり、疑問に思ったことを書いたりすると、自分自身の次の学習にも役立ちます。』(p.19)と、単に感想を書くだけでは評価されないことが注意点として紹介されている。

実際に筆者もこれらを参考に、学期はじめのオリエンテーションでコメントシートを書くときの注意点を指導しているが、授業の内容から考えたことや気づいたことについて十分に書けているコメントシートは多いとは言えない。日本の大学に入ったばかりでコメントシートを書くことに慣れない留学生に対しては、コメントにどのような内容を書くのか、どのような語彙や表現を使えばいいのかといった、より丁寧な指導が必要なのだと思う。コメントシートの書き方にかかわる指導方法および教材の開発には、日本語の語彙・文法上のような困難点があるだけでなく、実際に留学生がどのような内容をコメントシートに書こうとするのかを把握することが必要であると考え、濱田(2017)で語彙、文法上の困難点を調べる際に調査対象としたコメントシートを用い、今回は新たにその内容面からの分析を行うことにした。

2 調査の概要

富山大学で学部留学生向けに開講されている教養教育「日本事情Ⅰ」におけるコメントシートを分析の対象とした。「日本事情Ⅰ」は主に日本や富山の文化、歴史、芸術にかかわる講義をオムニバス形式で行っている。15週(1回90分授業)のうち10週を各分野の専門家10名が1回ずつ講義を行う。専門家10名のうち6名は学内の大学教員、4名は学外講師である。学内の教員による授業は講義形式で行われる。学外講師による授業は一部講義形式であるが、華道師範や書家の指導の下、留学生自身で生け花や書道の作品を制作したり、プロの落語家による生の落語を聞くなど実技・実演を含む内容となっている。コメントシートの配布・回収はコーディネーターである筆者が行っている³⁾。コメントシートは、講義の内容をメモする部分と、意見・感想を書く部分に分かれていて⁴⁾、意見・感想に書かれた内容をコーディネーターがまとめ、その週の講義担当者へ送付している。「日本事情Ⅰ」の第1週目のオリエンテーションで、コメントシートの意見・感想に書かれた内容については講義担当者も読むこと、そして、コメントシートも成績評価の対象となる⁵⁾ことを留学生に説明している。

本稿では、濱田(2017)の分析データと同じ2016年度後学期開講の「日本事情Ⅰ」を受講した留学

生 27 名⁶⁾ によるコメントシートを調査対象とした。そして、講義形式の授業と実技・実演を含む授業での違いを見るために、学内の教員による 3 つの講義「富山の歴史と観光」、「八尾とおわら風の盆」、「日本社会とマンガ・アニメ」と、学外講師による 3 つの講義「落語」、「華道」、「書道」を選び、これら 6 講義のコメントシート合わせて 157 件を対象に分析を行った。各講義の概要を表 1 に示す。

表 1 6 講義の概要

テーマ	講師	内容
富山の歴史と観光	学内の教員	富山を中心とした日本の歴史についての説明の後、立山連峰の風景写真、富山の観光パンフレット、地図、鱒の鮨（実物）といった生教材を用いて富山の観光名所、祭り、名物についての紹介がなされる。
八尾とおわら風の盆	学内の教員	富山市八尾町で 9 月に行われるおわら風の盆について、地域経済の観点から、おわら風の盆が行われるようになった経緯が紹介される。講義ではスライドと配布資料が用いられる。
日本社会とマンガ・アニメ	学内の教員	日本のマンガ・アニメの歴史、日本のアニメ市場、キャラクターを用いた地域復興、国際戦略としたクールジャパンについて映像とともに紹介される。講義ではスライドと配布資料が用いられる。
落語	学外講師（落語家）	留学生は講師による落語の説明（落語がどういうものか、どのようにして落語家になるかなど）を受けた後、講師による落語の実演（短い噺と長い噺を各一席）を観賞する。
華道	学外講師（草月流師範）	初めに講師が華道の流派や花材や道具について説明し、実演しながら生け方の基本を説明する。その後、留学生が 4～5 名のグループで 2 回花を生ける。最後にグループごとに作品をクラスで紹介する。
書道	学外講師（書家）	留学生は講師の指導を受けながら、各自半紙で練習した後、最後に色紙に書いて作品とする。留学生は書道をしながら、講師による書道の説明（書道の書体、漢字の成り立ち、海外の書道など）を聞く。

3 分析の手順

本稿で分析対象としたコメントシートに書かれた文章を、その内容から〈講義内容〉、〈教え方〉、〈他国の状況〉、〈自分の状況〉、〈感想〉の大きく 5 項目に分類した。

〈講義内容〉は講師が紹介した内容についての記述である。「落語」の講義では、落語家である講師が実演する落語を観賞する中で知ったこと、「華道」と「書道」の講義では、留学生自身で華道や書道を体験する活動を通して知ったこと、これらについての記述も含めた。

〈教え方〉は講師の教え方、授業方法についての記述である。ただし、「詳しい説明によってもっと富山のこと知りました。」や「富山の歴史と観光について、詳しく紹介しました。」のように、「詳しい」や「詳しく」としか記されていないものについては、講師の教え方が詳しいということよりも講義内容が詳しくあったことを述べようとしていると思われるので、これらについては〈講義内容〉として扱い、〈教え方〉には含めなかった。また、「先生の説明は分かりやすい。」のように、ただ説明のわかりやすさだけ述べたものも〈感想〉として扱い、〈教え方〉には含めなかった。

〈他国の状況〉は母国の状況など日本以外での状況についての記述である。

〈自分の状況〉は留学生自身の状況についての記載で、現在の状況やこれまでの状況、経験・知識・興味の有無についての記述である。授業中の自分を含めた留学生たちの様子についての記載も含めた。

〈感想〉は、講義内容（と関わること）への感想や自分の考え、講師の教え方への感想、華道・書道

体験への感想や体験中の気持ち、講義を受けて生じた感情や気持ち、講師への感謝・謝罪・質問である。講義前（講義で知識を得る前）の自分の考えも含めた。

そして、調査対象とした157件のコメントシートについて、〈講義内容〉、〈教え方〉、〈他国の状況〉、〈自分の状況〉、〈感想〉の5項目が含まれているかどうかを見ていった。たとえば、「近代化と伝統の創造について知りました。『おわら』祭りの初の形と作り替えについての話しがありました。実は、八尾町のおわらについて今まで何も知りませんでしたからとてもおもしろかったと思います。」というコメントには、「近代化と伝統の創造について知りました。『おわら』祭りの初の形と作り替えについての話しがありました」という〈講義内容〉、「実は、八尾町のおわらについて今まで何も知りませんでしたから」という〈自分の状況〉、「とてもおもしろかったと思います」という〈感想〉の3項目が含まれているとした。また、「授業前に落語が聞き取れないだろうと思いましたが、実は先生の真に迫る表演は分かりやすいです。初めてですが、とてもおもしろかったと感じます。」というコメントには、「授業前に落語が聞き取れないだろうと思いましたが、実は先生の真に迫る表演は分かりやすいです」、「とてもおもしろかったと感じます」という〈感想〉、「初めてですが」という〈自分の状況〉の2項目が含まれるとした。

4 結果と考察

4.1 5項目の記載状況

講義テーマ別に、〈講義内容〉、〈教え方〉、〈他国の状況〉、〈自分の状況〉、〈感想〉がどの程度記載されているかを整理したのが表2である。6講義合わせた結果（表2の「全6講義」）を見ると、〈感想〉が89.2%と最も高く、2番目が〈講義内容〉で85.4%となっている。講義テーマ別に見ても、〈感想〉と〈講義内容〉の割合が高く、この2項目は、広く講義コメントを書くときに記載されると言えるだろう。3番目は〈自分の状況〉43.9%で、〈感想〉と〈講義内容〉と比べるとかなり低くなるが、講義テーマ別に見ると、「書道」と「華道」で〈自分の状況〉が6割と高く、留学生自身の体験活動を含む講義コメントを書くときに記載されることが多いと考えられる。4番目は〈他国の状況〉12.7%で、6講義全体で見た場合の割合はかなり低いが、講義テーマ別に見ると、「日本社会とマンガ・アニメ」の講義では29.6%と、他の講義テーマと比べて高い。コメントに書かれた内容はいずれも日本のマンガ・アニメが世界的あるいは母国で人気がある、有名であるといったもので、学生が来日前からよく知っている分野かどうかということが影響していると推測される。5番目は〈教え方〉8.3%で、講義テーマ別に見ると、「富山の歴史と観光」19.2%と「八尾とおわら風の盆」14.8%の2つが他と比べてやや高い。「富山の歴史と観光」では5件のコメントシートで〈教え方〉が記載されていたが、いずれも写真の使用が良かったことが記されていた。この講義では、講師自身の撮影による立山連峰等の美しい風景写真が数多く紹介されるため、他よりも〈教え方〉に関する記述が多くなったと思われる。

表2 5項目の記載率 (%)

講義テーマ	講義内容	教え方	他国の状況	自分の状況	感想
富山の歴史と観光 [26]	92.3 [24]	19.2 [5]	3.8 [1]	46.2 [12]	92.3 [24]
八尾とおわら風の盆 [27]	92.6 [25]	14.8 [4]	18.5 [5]	14.8 [4]	85.2 [23]
日本社会とマンガ・アニメ [27]	96.3 [26]	0.0 [0]	29.6 [8]	37.0 [10]	77.8 [21]
落語 [25]	92.0 [23]	0.0 [0]	8.0 [2]	40.0 [10]	96.0 [24]
華道 [25]	92.0 [23]	8.0 [2]	12.0 [3]	60.0 [15]	96.0 [24]
書道 [27]	48.1 [13]	7.4 [2]	3.7 [1]	66.7 [18]	88.9 [24]
全6講義 [157]	85.4 [134]	8.3 [13]	12.7 [20]	43.9 [69]	89.2 [140]

【 】はコメントシートの件数を示す。

次に、1件のコメントシート内に何項目記載されているかを整理したのが表3である。6講義合わせた結果(表3の「全6講義」)を見ると、4項目5.1%、3項目41.4%、2項目41.4%となっており、全体の9割近くのコメントシートで2項目以上記載されていることがわかる。1項目のみ記載のコメントシートは12.1%だった。第1節で述べた由井他(2012)と深澤他(2018)で示されているように、ただ感想を書くのではなく、何についての感想かということをも明記してあるほうが良いコメントシートと言えるだろう。1項目のみ記載のコメントシートはいずれかの要素が不足していると考えられるため、1項目のみ記載の19件を詳しく見てみよう。19件中、〈感想〉のみが10件(「八尾とおわら風の盆」1件、「日本社会とマンガ・アニメ」1件、「落語」2件、「書道」6件)、〈講義内容〉のみが8件(「富山の観光と歴史」1件、「八尾とおわら風の盆」3件、「日本社会とマンガ・アニメ」4件)、〈自分の状況〉のみが1件(「書道」1件)だった。「書道」の講義で〈感想〉のみが6件と多く、表2からも1項目のみの割合が25.9%と他の講義と比べて高くなっているが、これにはコメントシートを書く時間が十分に取れなかったことも影響していると思われる。次に具体例を見てみると、〈感想〉のみのものは「面白かったです。」「とても勉強になりました。」「ありがとうございます。」「小学校の思出を浮べました。」「先生のように字を上手く書きたいのだ。」のように一言だけ述べたものが多く、やや長めのものも「先生の演出は大変素晴らしい!楽しかった!本当に面白いです!」「すごいですね!今はほんとに楽しかった!感想は少ないからどうもすみません。」のように短い感想を重ねて述べただけだった。一方、〈講義内容〉のみの例は「せんせいの授業を聞いたと富山に対する理解が深くなった。」や「このじゅぎょうに出て、おわらという伝統的な文化が分かっている。」のように短いものもあったが、「まずは富山のおわらの映像を見て、『おわら』という祭りはどのようなものですか、わかるようになりました。そして、おわらの歴史について、詳しく紹介して、100年前のおわらと今のおわらの違いを比較しました。おわらの作り替えの理由について日本の歴史の原因を紹介しました。伝統文化はただの伝統文化だけでなく、社会の人口、経済、政治など様々な方面とつなぐと、それらを反映しています。」のように詳しく書かれたものもあった。〈自分の状況〉のみの例は「『静』を書いた。きれいに書いた。」である。

表3 記載項目数 (%)

講義テーマ	4項目	3項目	2項目	1項目
富山の歴史と観光 【26】	3.8 【 1】	50.0 【13】	42.3 【11】	3.8 【 1】
八尾とおわら風の盆 【27】	3.7 【 1】	33.3 【 9】	48.1 【13】	14.8 【 4】
日本社会とマンガ・アニメ 【27】	11.1 【 3】	37.0 【10】	33.3 【 9】	18.5 【 5】
落 語 【25】	4.0 【 1】	36.0 【 9】	52.0 【13】	8.0 【 2】
華 道 【25】	8.0 【 2】	52.0 【13】	40.0 【10】	0.0 【 0】
書 道 【27】	0.0 【 0】	40.7 【11】	33.3 【 9】	25.9 【 7】
全6講義 【157】	5.1 【 8】	41.4 【65】	41.4 【65】	12.1 【19】

【 】はコメントシートの件数を示す。

以下、〈講義内容〉、〈教え方〉、〈他国の状況〉、〈自分の状況〉、〈感想〉の順に、具体例を挙げながら留学生がどのような内容を書いているかを詳しく見ていきたい。例文後の括弧内のアルファベットと数字は、講義テーマとコメントを書いた留学生を表す。tは「富山の歴史と観光」、yは「八尾とおわら風の盆」、nは「日本社会とマンガ・アニメ」、rは「落語」、kは「華道」、sは「書道」である。たとえば、(t7)は7番の留学生が「富山の歴史と観光」の講義を受けて書いたコメントシート内の文、(r7)は同じ留学生が「落語」の講義を受けて書いたコメントシート内の文を表す。また、例文中の[*]は、語彙や文法の間違いで文意が把握しにくいものに関する筆者の補足説明である。国名は書いた留学生が特定される可能性があるため〇〇と示した。

4.2 講義内容

〈講義内容〉は、講師が紹介した内容についての記述であるが、例1や例12のように詳しく書いたものもあれば、例2や例3のように講義テーマしか書いていないものもあった。そして、例1～例6のように「勉強した」、「情報を得た」、「勉強になった」、「分かるようになった」といった言葉を用いて学んだことや理解したことを表したり、例7～例9のように「教えてくれた」、「話があった」、「説明してくれた」といった言葉を用いて講師の教示を表したものが多かった。他には、例10と例11のように「興味を持つようになった」、「関心が増えた」というように講義を通して関心を持ったことを表したものもあった。例12～例15は学んだことや教示を受けたことや関心を持ったことを表す言葉はなく、講義内容を記しただけである。この後に例14は「しかしどちらも[*どちでも→どちらも]とてもおもしろいです。生き生きした表情とすぐれた[*すぐれた→すぐれた]演技は私に完全に物語に浸らせます。今夜うどんを食べたいです。」、例15は「生け花を作ったとき、みんなさんと一緒に考える過程はほんとうにおもしろいです。」という〈感想〉が後続して、全体的に見ると講義コメント的な内容となっているが、例12と例13はこの〈講義内容〉しか書かれておらず、講義コメントとしては不十分と言えるだろう。

例1. 詳しい説明によってもっと富山のこと知りました。例えば、立山の地獄谷は311大震災のせいで、毒ガスが出るので、行けません。本当に色々な勉強しました。(t21)

例2. 富山のさまざまな情報をたくさん得た。(t23)

例3. 日本のアニメについていろいろ勉強になりました。(n18)

例4. 今回の授業で、日本の伝統的な華道をすこし勉強し、(k7)

例5. 書道についていろいろ勉強しました。筆の持ち方や、文字の書き方なども勉強しました。(s19)

例6. 書道のいくつかの書き方があることが分かるようになりました。(s27)

例7. 先生が富山のことを詳しく教えてくれて、(t22)

例8. 近代化と伝統の創造について知りました。「おわら」祭りの初[*初→当初]の形と作り替えについての話がありました。(y26)

例9. 落語って何にか、分かりやすく説明もしてくれました。(r24)

例10. 立山とごか山のことを写真で見ることで、興味を持つようになった。(t26)

例11. アニメのことに感心[*感心→関心]が増えました。(n5)

例12. 1.今の日本の「伝統文化」は100年前のは違うところは多いです。2.「おわら」に参加する女性は数多くなります。女性の社会地位は高まった。3.日本近代化の特徴: 東京→人口集中、地方→人口停滞。(y14)

例13. 戦後日本のマンガとアニメはすごく多様である。それらの作品のキャラクター、日本は多くのもうけをもらった。(n8)

例14. 落語は短い演芸[*演芸→噺]がありますが、長い演芸もあります。(r20)

例15. 生け花は花、枝と葉と組み合わせてつくります。(k16)

なお、「落語」の講義については落語家である講師が実演する落語を観賞する中で知ったこと、「華道」と「書道」の講義では学生自身で華道や書道を体験する活動を通して知ったことについての記述も〈講義内容〉に含めた。例16～例18が「落語」、例19～例20が「華道」、例21が「書道」の例である。

例16. 落語を聞いて、日本人の性格もよく分った。(r12)

例17. 一人で二人、三人の角色[*角色→声色]を演じているが、ぜんぜん間違いません。(r22)

例18. 同じしせいで座っていて、(r23)

例19. そして、生け花の美しさも自分で作るとき体験しました。(k16)

例20. どのように置くか、どこに置こうか、考えて自分も芸術についてもっと分かるようになると思います。(k22)

例21. ①生徒が間違っただ字を直すため、赤い墨を使うこと、(s25)

4.3 教え方

〈教え方〉は、講師の教え方、授業方法についての記述であるが、例22～例25のように、写真やビデオなどの視聴覚教材があり、わかりやすかったという記述が多かった。講義スライドの日本語の英訳、書道の手本について記載したものもあった。例26は講師の説明のわかりやすさについて述べたもので、他にも説明のわかりやすさについて書かれたコメントはいくつもあったが、例26のように「難しい文章を簡単にまとめる」という具体的な方法が示されたものは例26だけだった。例27～例29のように、学生が主体的に参加する授業でよかったという記述もあった。今回対象としたコメントシートに書かれたものは、いずれも教え方を肯定的に評価する内容だった。

例22. 写真や地図などと一緒説明して、(t16)

例23. ビデオがあって、(y15)

例24. 分かりやすいのため、先生はパワーポイントでやさしく英語の翻訳をつけました。(y18)

例25. 先生から見本を書いてもらった。(s24)

例26. 難しい文章が出たが先生に簡単にまとめた。(y6)

例27. 学生と交流(質問)しながら進行する授業で、(y10)

例28. 体験が主になることが(s10)

例29. 生け花を作ったとき、みんなさんと一緒に考える過程は(k16)

4.4 他国の状況

〈他国の状況〉は、母国の状況など日本以外での状況についての記述である。母国の状況について記載したものと世界の状況について記載したものとがあった。まず、母国の状況については、例30と例31のように母国にも講義での紹介内容と類似のものや状況があることを書いたものが多く、日本と母国の違いを書いたのは1例(例32)だけだった。他には例33のように母国でも人気があることを紹介したもの、例34のように母国の状況を紹介したものがあった。次に、世界の状況については、例35と例36のように日本の文化が世界的に知られていることを述べたものが大半で、日本と同様の特徴が世界的に見られることを述べたものは1例(例37)だけだった。留学生の場合、母国の情報等を利用することでコメントの内容に独自性を出しやすいと思われるが、母国との類似点は気づきやすいが、相違点は気づきにくいのかもしれない。

例30. また、日本と同様に、〇〇[*国名]も人口集中すぎて、地方では人口は少ないです。(y12)

例31. 私の故郷[*故郷→故郷]もこのようなひとりの芝居があります。「蓮花落」といいます。(r1)

例32. 〇〇[*国名]の花のアレンジと大分違うと思いました。(k13)

例33. くまモン、ふなっしーなどゆるキャラは今〇〇[*国名]でも人気だ。(n24)

例34. 〇〇[*国名]では小学校の時、書道の授業が二週一回ですから、(s22)

例35. 日本の漫画・アニメが世界中に見られていると思います。(n9)

例36. 華道は日本発祥の芸術ではあるが、現代では国際的に広がってきている。(k11)

例37. 世界中の大部分の国は日本と同じ近代化の特徴があります。(y19)

4.5 自分の状況

〈自分の状況〉は、留学生自身の現在の状況やこれまでの状況についての記載と、授業中の自分を含めた学生たちの様子についての記載の2つに分けて見ていく。

まず、現在の状況やこれまでの状況、経験・知識・興味の有無についての記載例を紹介する。「富山の歴史と観光」では例 38 や例 39 のように富山や日本に来てどのくらい経つかについての記述、例 40 のように講義で紹介された立山に登った経験や、例 41 のように鱒の鮓を食べた経験があること、例 38 と例 42 のように富山のことを今まで知らなかったこと、これらについての記述が複数見られた。「八尾とおわら風の盆」では例 43, 例 44 のようにおわらについて初めて知った、見たことがないといった記述が主だった。「日本社会とマンガ・アニメ」では例 45 のように子どもの頃から日本のアニメを見てきたことや、マンガ・アニメに興味を持っていること、逆に例 47 のようにマンガ・アニメにあまり興味がなかったこと、例 46 と例 47 のようにマンガ・アニメの歴史に関する知識がなかったことを述べたものが複数あった。「落語」と「華道」では例 48 と例 49 のように初めて落語を聞いた、生け花をしたという記述が大半だった。「書道」では例 50 のように初めてという記述と、例 51 と例 52 のように以前したことがあるという記述、どちらも複数見られた。

例38. 富山に来た半年ぐらいになったが富山について全然分からないといってもいい過ぎてはない。(t2)

例39. 日本に来たばかりな私は、富山のことにぜんぜんわかりません。(t12)

例40. 自分自身は立山に登ったことがあるから、(t6)

例41. ますのすしをこの前食べたけど、(t24)

例42. 富山のことにについて何も知らなかったので、(t26)

例43. 9月1日の時富山におわら風の盆があるということはびっくりした。初めてきいたからだ。(y5)

例44. おわらを直接に見たことないので、(y8)

例45. 子供から、日本のアニメを見てきています。漫画とアニメにずっと大きな興味を持っています。(n15)

例46. 日本のアニメまたはマンガは非常に有名です。しかし、今までマンガの歴史についてはあまり知りません。(n16)

例47. 今までアニメとマンガに興味をあまり持っていなかったため、歴史までそんなに詳しく何も知らなかったです。(n26)

例48. 落語を始めて聞きました。(r24)

例49. 今日の授業で生け花を初めて体験しました。(k2)

例50. はじめて、書道を書きました。(s3)

例51. 私は小学校のとき、書道をやったことがあるけど、まだ若くて、十分な知識を持ってなかったため、あまり興味を持ってなかった。でも、生長しなから、だんだん書道の魅力が見つかった。日常生活に時間があるとき、家で練習している。字をうまく書けるようになっていく。(s11)

例 52. 久しぶりに少し書道をしてみて、(s13)

次に、授業中の自分を含めた学生たちの様子についての記載例を紹介する。華道・書道体験に関する記述が大半で、例 53 ~例 56 のようにどのような作品を作ったかを述べたもの、例 53 と例 57 のように努力したことについて述べたものが多かった。また、落語については、落語を聞いて噺の場面を頭に思い描けたことを述べた例 58, 落語を聞いてよく笑ったことを述べた例 59 があった。

例53. グループでみんなが頑張って、素晴らしい生け花ができました。(k3)

例54. ハートの形ができた。(雲龍柳から) (k6)

例55. 第一回目：あまりきれいではないのですがなんとかやりました。第二回目：よくできました。(k8)

例56. 「静」を書いた。きれいに書いた。(s8)

例57. 未熟だけど、がんばってみた。(s24)

例58. 落語を聞いて、想像できてよかった。(r8)

例59. きょう先生の授業は意外におもしろくて、よく笑っていた。(r11)

4.6 感想

〈感想〉は、講義内容への感想や自分の考え、講師の教え方への感想、華道・書道体験への感想や体験中の気持ち、講義を受けて生じた感情や気持ち、講師への感謝・謝罪・質問、講義前（講義で知識を得る前）の自分の考え、これら6つに分け、見ていく。

4.6.1 講義内容への感想や自分の意見

最も多かったのが講義内容(と関わること)への感想や自分の考えに関する記述である。6講義とも「おもしろかった」、「よかった」、「すばらしい」と短く感想を述べただけのものも多く見られた。講義テーマ別に見ると「富山の歴史と観光」では例60と例61のように富山や立山の美しさ、「八尾とおわら風の盆」では例62と例63のように伝統の作り替えや創造の必要性、「日本社会とマンガ・アニメ」では例64と例65のようにアニメやキャラクタービジネスへの称賛を記したものが複数見られた。「落語」では例66と例67のように講師の表情や演じ方のすばらしさ、「書道」では例68のように講師の字の美しさに関する記述も多く見られた。なお、「華道」と「書道」では、講義内容よりも4.6.3で見る体験への感想のほうが多かった。

例60. 富山はそんな有名などころではないけど、自分の特色が明るいと思います。自然的な景色がきれいです。東京に比べて、細やかな美があります。(t18)

例61. 立山は本当に景色が綺麗だと思います。(t22)

例62. やはり「伝統」は昔から、そのままもっているものだけではなくて、作り替えも必要だと思います。「伝統」はただやっていたことをやり続けることではなくて、深い意味あるはずだと思います。(y9)

例63. それは、近代化の社会にとって大事だと思います。近代化過程における再生のための伝統の創造しなければならないだと思います。(y18)

例64. 「ゆるキャラ」のように地方のとくちょうで人々をよんでくれるものはいいと思います。(n9)

例65. アニメで世の中に人々に日本のことを伝えるかということはすばらしいと思っています。(n11)

例66. 実は先生の真に迫る表演は分かりやすいです。(r15)

例67. 生き生きした表情とすくれた[*すくれた→すぐれた]演技は私に完全に物語に浸らせません。(r20)

例68. 先生の字は本当にきれいし、美しかった。(s24)

4.6.2 講師の教え方への感想

講師の教え方への感想については、例69～例73のように、理解しやすさや説明の詳しさについて書かれたものが大半だった。

例69. 理解する事が簡単でよかった。市役所の案内の様でおもしろかった。(t10)

例70. 本当におもしろくて、分かりやすいです。(t16)

例71. 先生の講義が面白かった。先生の説明は分かりやすい。(y6)

例72. 先生はとてもまじめです。授業の内容はとても詳しいと感じられます。(y15)

例73. 先生の説明が詳しくてやさしかった。(n23)

4.6.3 華道・書道体験への感想

「華道」と「書道」については、4.6.1の講義内容についてよりも、華道体験・書道体験への感想や体験中の気持ちについて書かれたものが多かった。例74～例80は「華道」について、例81～例85は「書道」について書かれたものだが、いずれも「おもしろかった」、「楽しかった」、「いい経験」、「難しかった」といった記述が多く見られた。例79、例80、例85のように自分達の作品について評価する記述もあった。

- 例74. とても楽しかったです。いい経験になりました。(k3)
- 例75. 自分で生け花を体験して面白かった。個人的な感想ではすこし花にもしわけない事をしたかな…と思います。(k10)
- 例76. 勉強じゃなくて、自分で花をつけることはおもしろかったです。思ったよりむずかしかったです。(k12)
- 例77. 自分でやってみるとなかなか難しかった。(k5)
- 例78. きれいな作品をすることが難しいです。(k26)
- 例79. 他のグループの作品もすばらしい作品だと思います。(k17)
- 例80. 私はずのグループの作品はよかったですと思います。この華道の体験は本当に珍しい体験と思います。(k21)
- 例81. 漢字を書く体験はおもしろかったです。(s12)
- 例82. 練習した時、とても穏かと感じておりました。この授業はとてもおもしろいと思います。(s15)
- 例83. 書道は難しいですか、とっても面白かったです。(s14)
- 例84. 楽しかったです。それともきれいに字を書くのが難しかったです。(s26)
- 例85. ○○[*国名]人として書いた字はみにくくて恥ずかしいです。(s2)

4.6.4 講義を受けて生じた感情や気持ち

「富山の歴史と観光」では講義の中で立山連峰の美しい風景が紹介されることから、例86～例88のように、立山に行きたいという希望が書かれたものが非常に多かった。他には、「富山の歴史と観光」では例87と例88のように富山名物のホタルイカや白海老が食べたいという希望、「八尾とおわら風の盆」では例89と例90のようにおわらをぜひ見たいという希望が書かれたものが多かった。「落語」と「書道」については例91～例94のようにもう一度聞きたい、体験したい、字の練習をしたいといった希望も書かれていた。また、「華道」と「書道」については例95～例97のように小学校時代を思い出したという記述も見られた。

- 例86. 立山に行きたいようになりました。(t13)
- 例87. その景色はとっても美しいを思って、一度行ってみたいと思う。そして、その名物も食べたいです。(t14)
- 例88. 来年の五月の「雪の大谷」を絶対見に行きたいです。そして、前回見逃した景色を見ます。また、5月に、ホタルイカが見に行きたいです。(t21)
- 例89. 来年の九月、ぜひ参加します。(y19)
- 例90. 私も9月1日頃に八尾に行っておわら風の盆おどりを見たい。(y24)
- 例91. いつかまた先生の話を知りたいです!!(r6)
- 例92. 昔の日本の風景を味わうことができるいい機会でした。もっと聞きたい!(r24)
- 例93. 機会があれば、もう一度やりたいです。(s15)
- 例94. 筆をかいているとき、平日と全然異なる感じがします。これからはしっかり字の練習をしたほうがいいと思います。(s16)
- 例95. 小学生以来に久しぶりの華道をして昔を思い出した。(k23)

例96. 小学校の思出を浮べました。(s1)

例97. 今回書道をして、小学校の時の思い出がでてきました。嬉しいです。(s22)

4.6.5 講師への感謝・謝罪・質問

数は少ないが、講師への感謝が2例、謝罪と質問が各1例あった。感謝の2例(例98と例99)はいずれも「日本社会とマンガ・アニメ」の講義でマンガ・アニメに関する詳しい知識を得たことへの感謝を述べたものである。謝罪の1例(例100)はコメントシートに書いた感想が少ないことに対する謝罪である。このコメントを書いた留学生は他の講義のときには講義内容等を詳しく書いているのだが、おそらく「書道」のときはコメントを書く時間が十分に取れなかったのだと思われる。質問の1例(例101)は落語家がどのように嘯をしているのかについて問うものであった。どの講義も授業の終わりに留学生が質問できる時間があり、授業終了後にも個人的に講師に質問している留学生の姿もよく見られる。このように直接講師に質問できる場があるため、コメントシートへの質問の記載はこの1例だけだったのだろう。ただ、「落語」については授業終了と同時に講師は着替えのため退室することから、講師に個人的にたずねることができず、コメントシートに書いたのではないかと思われる。

例98. ありがとうございます。(n2)

例99. 本当にありがとうございます。(n5)

例100. すごいですね！今はほんとに楽しかった！感想は少ないからどうもすいません。(s17)

例101. 先生のせりふは先に暗記したんですか？演じていた時自然と考えてきたか？知りたいです。(r17)

4.6.6 講義前の自分の考え

講義前(講義で知識を得る前)の自分の考えは、「日本社会とマンガ・アニメ」と「落語」と「華道」の講義で見られた。「日本社会とマンガ・アニメ」では、講義前はマンガはただの絵だと思っていたが、講義を受けて絵の中にはいろいろな意味が隠されていることがわかったことを述べた例102、講義前はゆるキャラがそれほど地域観光に利用できるとは考えていなかったことを述べた例103、マンガは現代のものだと思っていたが、講義を受けてもっと以前からあることを知ったことを述べた例104があった。「落語」では、講義前は落語はつまらない、聞き取れないだろうと否定的なイメージを思っていたが、実際に落語を聞いたらおもしろかった、わかりやすかったという例105と例106、「華道」では講師が生けているのを見ているときは簡単に思えたが、実際に自分達で花を生けてみたら難しかったことを述べた例107と例108があった。例文中の[*]に示したように、日本語学習者が苦手とする「る／た」と「ている／ていた」の使い分けに関する文法的間違いが多いことがわかる⁷⁾。

例102. ただ、絵、漫画だけだと思いました[*思いました→思っていました]が、その中に隠されているものが多いと思います。(n9)

例103. ゆるキャラの使う程度でびっくりしました。地域観光にもそのほど利用できるのは考えられません[*考えられません→考えていません]でした。(n13)

例104. 漫画は今のものだと思ったんですけど、実際に江戸時代から「絵巻物」というのものはもうありました。(n22)

例105. 私はいつも落語につまらない[*つまらない→つまらない]イメージを持っていたので、きょう先生の授業は意外におもしろくて、(r11)

例106. 授業前に落語が聞き取れないだろうと思いました[*思いました→思っていました]が、実は先生の真に迫る表演は分かりやすいです。(r15)

例107. 花をかざるのは簡単だと思います[*思います→思っていました]が、自分でやってみるとなかなか難しかった。(k5)

例108.見るだけ [*と違って] そんな簡単ではないです。自分でやりの時、さまざまな困難があります。(k19)

5 おわりに

本稿では、留学生の書いたコメントシートをもとに、どのような内容をコメントシートに書いているかを分析した。コメントシートに書かれた内容を大きく〈講義内容〉、〈教え方〉、〈他国の状況〉、〈自分の状況〉、〈感想〉の5項目に分類して分析したところ、全体的には〈講義内容〉と〈感想〉の2項目の記載率が高く、華道や書道のように体験活動を含む講義では〈自分の状況〉の記載率も高かった。いわゆる講義型の授業と、体験活動を含む授業とでは留学生がコメントに書こうとする内容が異なることが示唆される。

1件のコメントシートに書かれた項目数を見ると、2項目以上記載したコメントシートが9割近くを占めたが、〈感想〉あるいは〈講義内容〉、いずれか1項目しか記載されていないものも1割強見られた。〈感想〉だけではなく、何についての感想かを明記すること、そして、〈講義内容〉だけを詳細に書いても講義コメントにはならないことについて、これらは既存の教材（由井他2012、深澤他2018）でも留意点として示されているが、コメントシートの書き方を指導する上での基本として押さえておくべき点であることが改めて確認された。さらに、〈講義内容〉については講義テーマしか書いていない例、反対に講義内容をかなり詳細に書いた例もあった。単に詳細に書けばいいというわけではなく、〈感想〉と結びつけた具体的な記述ができるような指導が必要だろう。

また、中には〈講義内容〉と〈感想〉を書くことは理解していても、具体的に何を書けばいいのかわからないという留学生もいるだろう。そういった留学生へは、今回の分析で留学生の記載例が多かった母国との類似点や自身の経験や知識を紹介しながら書く方法を1つのサンプルとして示すことも考えられる。一方、ある程度コメントを書く力を有している留学生には、母国との類似点だけでなく相違点にも目を向けるようにさせるといった指導の可能性もある。これについては留学生がその分野のことをどの程度知っているかという、既存知識量も大きく関係すると思われるため、今後分析対象とするコメントシートを増やし、留学生の専門分野別にも分析を行いたいと考えている。

その後、本稿での分析結果を、先行研究で行った語彙・文法上の誤用の分析結果と照らし合わせ、どの内容を書くときに、どのような語彙・文法上の誤用が生じやすいのかを整理した上で、指導方法および教材の開発を進める計画である。

注

- 1) 他にコメントシートの記述を扱った先行研究として吉田（2017）がある。日本人学生対象の文章表現クラスにおいて、ディスカッションやピアレスポンスといった活動への学習者の受け止めと成長の自己認識を探るため、コメントシートの記述を9項目（①新しい知識の獲得、②驚き、③授業の楽しさや喜び、④課題達成の難しさや困難、⑤欠点の自覚、⑥成長目標の提示、⑦今後の作業の具体的な改善点・作業計画などの提示、⑧課題達成できた、⑨成長の実感）に分けて分析している。
- 2) たとえば北尾他（2005）、佐藤他（2012）、藤田（2006）などがあるが、いずれの教材もノートテイキングの項目はあるが、コメントシートについては取り上げられていない。
- 3) 筆者も留学生とともに講義に参加し、コメントシートの配布回収を行っている。回収したコメントシートは日本語の表記や語彙・文法などの誤りを添削して、翌週の授業で留学生に返却している。
- 4) コメントシートのサイズは、講義の内容をメモする部分と意見・感想を書く部分、それぞれ縦4.5cm×横7cmである。本稿で分析の対象としたのは、意見・感想を書く部分に書かれたコメントである。
- 5) 留学生にはコメントの内容を重視し、語彙・文法などの誤りについては評価の対象としないことを伝えている。

- 6) 留学生 27 名の在籍身分別の内訳は交流協定校からの短期留学生 15 名, 学部 1 年生 10 名, 日本語・日本文化研修留学生 2 名で, 国・地域別の内訳は中国 11 名, 韓国, ベトナム, マレーシア各 4 名, 台湾 2 名, フィンランド, ロシア各 1 名である。
- 7) たとえば高梨他 (2017) では上級学習者の修士論文の草稿に見られる誤用を調査し, 「た」と「ていた」の使い分けに関する誤用も学習者が気づきにくいものとして報告されている。

参考文献

- (1) 北尾謙治・実松克義・石川有香・早坂慶子・西納春雄・朝尾幸次郎・石川慎一郎・島谷浩・野澤和典・北尾 S. キャスリーン (2005) 『広げる知の世界—大学での学びのレッスン—』, ひつじ書房
- (2) 佐藤望・湯川武・横山千晶・近藤明彦 (2012) 『アカデミック・スキルズ—大学生のための知的技法入門— 第 2 版』, 慶応義塾大学出版会
- (3) 高梨信乃・朴秀娟・庵功雄・齊藤美穂・太田陽子 (2017) 「上級日本語学習者に見られる文法の問題—修士論文の草稿を例に—」 『阪大日本語研究』 29, pp.159-185
- (4) 濱田美和 (2017) 「学部留学生がコメントシートを作成する際の日本語の語彙・文法上の困難点」 『富山大学国際交流センター紀要』 第 4 号, pp.13-20
- (5) 深澤のぞみ・濱田美和・深川美帆・札幌寛子・藤井晶子 (2018) 『21 世紀のカレッジ・ジャパニーズ—大学生のための日本語で読み解き, 伝えるスキル』, 国書刊行会
- (6) 藤田哲也 (2006) 『大学基礎講座—充実した大学生活を送るために— 改増版』, 北大路書房
- (7) 由井紀久子・大谷つかさ・荻田朋子・北川幸子 (2012) 『中級からの日本語プロフィシエンシー ライティング』, 凡人社
- (8) 吉田美登利 (2017) 「大学初年次文章表現クラスにおけるアクティブ・ラーニングの実践報告—コメントシート「大福帳」から見た学習者の成長の自己認識—」 『アカデミック・ジャパニーズ・ジャーナル』 9, pp.19-27

日本人学生の自文化としての日本語との邂逅 —教職を目指す学生のグローバルマインド形成の一つの取り組みとして—

副島 健治

Encounters with Japanese language by Japanese students as their own culture : An attempt of global mind formation for the students aiming for the teaching profession

SOEJIMA Kenji

要 約

日本人学生が自文化である日本語を一つの外国語として見直し改めて学ぶことにより、自文化としての日本語に新たな多くの発見や気づきを得られた。特に、教職に就くことを希望している学生は、昨今の小中学校の教育現場には外国人の子どもたちが在籍していることが決して珍しくないことを思うとき、その子どもたちに思いを馳せ、日本語教育という観点からもその発見や気づきの重要性を同時に看取した。このように筆者らが行なった実践「国際交流活動論」の授業を日本人学生が受講することによって、彼らの内向き志向は払拭され、自文化としての「日本語」に対する再認識を通してグローバル感覚が沸き立つ傾向が認められた。

【キーワード】 教職志望の日本人学生 小中学校の教育現場 グローバルマインド 外国人の子ども
自文化としての日本語

1 はじめに

2019年秋、「ラグビーワールドカップ2019」が日本で開催され、日本代表チームの選手たちが「日本」を背負って強豪国チームと戦う姿は多くの人々を魅了した。そして、その日本代表チームには「外国人」も多く含まれており、その代表チームの編成¹⁾は、これまで一般的に思い込まれていた呪縛から解かれた感があり、先進的で新鮮である。

一方、日本を取り巻く昨今の国際的情勢は、憂懼^{ゆうく}すること大であることは誰もが認める所であろう。米中貿易戦争と言われる双方の追加関税実施、戦後最悪と言われる日韓関係など、具体的状況を挙げれば枚挙にいとまがない。今ほど世界の中の日本・日本人というセンシビリティと鋭敏さが問われる時代はないのではないだろうか。

本稿は、筆者が講じた2018年度および2019年度富山大学人間発達科学部の専門科目「国際交流活動論」の授業実践に基づく論考であるが、その実践を元に受講生らの変化について報告する。副島(2017)は、同様の実践を通して日本人学生が日ごろは気にも留めていなかった(自文化としての)「日本語」に改めて向き合い学ぶことによって、内面に変化が起き、グローバルマインド形成への契機になることを報告した。本稿はその検証と新たな実践で見た日本人学生、特に大学卒業後に初等、中等教育の教職に就くことを志望している学生の内省の同定である。

また、本稿では触れないが、義務教育の就学年齢にあたる外国人の子どもが、日本の小中学校にも外国人学校にも通っていないという不就学の子どもの問題も視野に入れておかなければならない。

2 本稿の背景と目的

昨今の日本の学校教育現場では、出自が日本ではない子どもたちが学ぶことが珍しいことではなくなった。今後はその傾向がますます強まることが予想される。その基本的要因は、日本の少子高齢化の状況における雇用環境の変化と見てよいであろう。つまり本稿の背景としての基本的要因として、まさに外国人²⁾が日本で働く環境が拡大されてきているということにある。

そのことは、その日本で働く外国人の子どもたちの教育をどうするかという課題を直接的に内包しており、外国人の雇用とその子どもの教育の問題は密接な関係があると言える。

2.1 SDGs, 労働者受入れ拡大, CJ (クールジャパン戦略)

1980年代以降、いわゆるニューカマーと呼ばれる来日する外国人が増えてきた。その結果、居住する外国人の日本滞在のケアが重要になっている。また、日本の少子高齢化を背景として、外国人労働者なくしては日本の産業は成り立たなくなっている現実はいまもまったく否めない。

日本における雇用環境の変化を醸成させるものとして、国連サミットで採択された国際目標であるSDGsの雇用に関わる取り組みの目標³⁾、「特定技能」という在留資格を創設した労働者受入れ拡大のための出入国管理法改正⁴⁾、日本のクールジャパン戦略においては「CJ」の観点から必要な外国人の長期滞在を促す⁵⁾（内閣府知的財産戦略推進事務局 2019年9月より）ことを掲げており⁵⁾、今日の日本社会の諸所に要因が見える。

2.2 日本語教育推進法の施行

上記のような背景において、議員立法という形で「日本語教育推進法」（「日本語教育の推進に関する法律（令和元年法律第48号）」）が令和元年6月28日に公布、施行された。これは、日本国内で暮らす日本語教育を希望するすべての外国人への日本語教育を推進することを国、自治体などの責務としたものである。本稿において、特に注視すべきは、日本語を非母語とする外国人等である幼児、児童、生徒等に対する日本語教育も明確に挙げ、国が必要な施策を講ずること、子どもへの日本語教育の重要性を保護者に啓蒙することを謳っている（同法第12条）ことである。

したがって、これからの学校教育に携わる現場の教員等は、自ずと日本語教育に関する十分な素養と見識が求められる社会的要請があろうことは明らかである。

2.3 日本語指導が必要な外国籍の児童生徒

2.3.1 日本語指導が必要な外国籍の児童生徒数（文科省の調査）

文部科学省の調査によれば、全国に日本語指導が必要な外国籍の児童生徒数は34,335人、日本語指導が必要な日本国籍の児童生徒は9,612人とあり、外国籍・日本国籍の両者を合わせると43,947人となる（「日本語指導が必要な児童生徒の受入状況等に関する調査（平成28年度）」の結果について⁷⁾より引用）。現在はこの数字以上であると思われ、今後さらに増えることが容易に予想される。

さらに、同省の「外国人の子供の就学状況等調査結果（速報）」（令和元年9月27日）によれば、2019年5月の時点で住民登録がある小学生および中学生相当にあたる6歳から14歳までの外国人の子どもは合わせて12万4049人で、このうち小学生校や中学校あるいは外国人学校などに通っていない「不就学」の子どもが1000人いることが分かった。さらに「不就学の可能性があると考えられる外国人の子供の数」は約2万人と報告されている。

2.3.2 富山県の学校教育現場の状況

『北日本新聞』（2019年9月17日（火）朝刊）によれば、富山県内の小中学校に376名の日本語指導が必要な子どもがおり、しかも富山県内の小中学校の外国人の子どもを支援する日本語教育の体制は不十分であるという。⁶⁾

冒頭にも述べたが、このような状況は不就学を生みかねず、その子どもたちの将来に暗雲をもたらすと言える。今日における教育現場の現実であり、このような現実において、本学の教職を目指す人間発達科学部の学生たちは、卒業後教職に就き、各々の教育現場に赴くことになる。

2.4 本稿の目的

本稿の目的は、このような背景において、この現実を直視し昨今の学校教育の現場を意識して、筆者らが「国際交流活動論」の授業において日本語、日本語教育について講じ、その授業を受けた教職志望の学生たちの内省を捉えて報告することである。そして、この実践が少しでもグローバル人材育成の見地から寄与できたかを検証する。

3 「国際交流活動論」の授業について

3.1 概要

「国際交流活動論」は人間発達科学部の専門科目で、2018年度、2019年度いずれも集中講義として以下のように実施された⁷⁾。受講した学生は一部を除きほぼ全員が教職に就くことを希望する人間発達科学部の日本人学生であった。受講者の数は開講時期によってまちまちであるが、教育実習等の都合もあったと思われる。以下、集中講義の筆者の担当した2018年度の10コマ、2019年度の11コマ(1コマは90分)の概要を示す。

〈2018年度〉

授業日程(筆者が担当した部分(以下同様)):

2018年12月26日(水)[1限~4限], 2019年1月9日(水)[3限・4限],
1月16日(水)[3限・4限], 1月23日(水)[3限・4限] (計10コマ)

実施場所: 共通教育棟A 33教室

受講者: 27人(内訳: 4年生13人, 3年生4人, 2年生10人)

〈2019年度〉

授業日程:

2019年7月17日(水)[3限・4限], 7月24日(水)[3限・4限], 7月31日(水)[3限・4限],
8月7日(水)[3限・4限], 8月9日(金)[3限~5限] (計11コマ)

実施場所: 国際機構棟2階 講義室3

受講者: 13人(内訳: 4年生1人, 3年生3人, 2年生9人)

3.2 講義内容

講義内容⁸⁾は、(外国語としての)日本語、日本語教育についての導入に始まり、日本語教育で一般に扱われるところの日本語の品詞(形容詞、動詞(自動詞・他動詞)、助詞)、連体修飾、副詞句、「そう」「よう」などの文末表現、構文・文法(受身、使役、可能、アスペクトなど)、「と・たら・なら・ば」、日本語の音声「促音・撥音・長音、アクセント、プロミネンス、モーラ、母音の無声化など」等々を、日本語話者である日本人学生に今一度見つめさせ確認させた⁹⁾。また、外国語母語話者が日本語学習上の困難な点をいくつかの学習者の母語別に取り上げて整理した。

2018年度は1つの試みとして、外国人の子どもに「日本語」を教えることを想像して指導項目を1つ立てて、「教案」を作成する取り組みも行なった。これは、あくまでも教職を目指す受講生たちが近い将来において小中学校で教壇に立つであろうことを想定しての強い意識付けとしての活動である。

2019年度の1つの試みとして、日本に居住する外国人の子どもの心情を想起するための活動として、1コマを使って留学生(大学生)との交流の場を設けた。その意図は、日本人学生たちが留学生を通して日本に住む外国人の状況を推し量ることであった¹⁰⁾。この活動は日本人学生4人から5人にグループ分けし、その中に1人または複数の留学生に交代で入ってもらうという形で進めた。(写真1)

また2018年・2019年の両年度ともに1コマを使って、グローバル感



写真1

覚を触発する活動として、JICA（国際協力機構）富山デスクの国際協力推進員の方に講演¹¹⁾をしていただき、グローバル感覚の涵養として、受講生たちに大きな刺激になった。（写真2）

以上のように、多岐の内容を盛り込み、筆者以外の講師陣もそれぞれの経験と専門の立場から、グローバル社会における外国語の習得、異文化理解等について講義がなされた。これらの講義の中で、時宜を捉えて、学生たちに問うた。¹²⁾



写真2

4 日本人学生たちに問うたこと

4.1 日本人として日本語を見つめる

「国際交流活動論」の受講生には、日頃あまり意識せずに使っている日本語について、改めて見つめさせそれぞれが感じることを問うた。そして学生の感じたことや思ったことを下のように分類した。

- (1) 改めて「日本語」を見つめなおした「発見」のコメント
- (2) 日本語教育に触れ、自らの将来の仕事と結び付けたコメント
- (3) その他

4.1.1 改めて「日本語」を見つめなおした「発見」

日本語を外国語として初めて学んだという経験による振り返りから来る謙虚でポジティブなコメントが多く見られた。以下は文体をそろえて要約・簡略化し抜粋した学生のコメントである。

- ・日本語がもっと好きになった。
- ・多くのことに気づいた。
- ・日本語の奥深さを感じた。
- ・日本語の美しさを実感した。
- ・分かっていなかった、知らなかったことがたくさんあった。
- ・自分が当たり前に使っていた日本語の当たり前を見直す機会になった。
- ・社会に出る前に、このような機会に触れることができよかったと感じる。
- ・日本語教育に関する興味がより深くなった。
- ・分かっているつもりで全く分かっていないことに気づき、日本人として恥ずかしく感じた。
- ・外国人からすれば日本語も外国語であるということに気づかされた。
- ・日本人でも日本語についてもっと勉強しなければならないことを実感した。
- ・日本語話者として、もっと日本語について学ぶのもいいなと感じたので、日本語の特徴や発音についてこれからも学んでいきたい。
- ・日本語の発音を学んでいく中で興味深いと感じたのは、外国語母語話者によって日本語の発音はもちろんのこと聞き取りにも、それぞれの母語の音韻関係や音声特徴の影響が現れるということだ。
- ・日本語という言葉が面白い言語であると感じた。
- ・日本語に対する新たな発見をすることができ、とても勉強になった。良い機会だった。
- ・「日本語って意外と面白い！奥が深い！」と感じた。日本は島国でフランス語や英語・ポルトガル語と違い日本にしかなく、80億人いる中で1億2千人ほどしか母語話者がいない貴重なものだと感じた。
- ・日本語が難しいとは決して思わなかった。むしろ、学べば学ぶほど面白い、楽しいと思った。
- ・日本語教育は必ずしも外国の人が受けるものではなく、日本人も受けるべきものであると思った。
- ・普段使っている日本語に少し誇りを持った。

これらのコメントから、日本人は日本語が母語なので、(外国語としての)日本語の学習経験はほとんどないため、この授業を通して、上に示したように、言語としての日本語そのものに面白みを感じるとともに、「普段使っている日本語に少し誇りを持った。」のように、自分の母語を再認識し自らのアイデンティティー確認の契機となったということが見える。2019年度の受講生のコメントは巻末資料として付けた。(巻末資料1)

4.1.2 日本語教育と自らの将来の仕事と結び付けたコメント

受講した学生たちは、ほとんどが卒業後富山県内外の小中学校の教員になることを希望していることから、近い将来赴任する教育現場に在籍しているであろう外国人の子どもを想起したコメントが多く見られた。一般企業への就職を目指している学生もいたが、日本の企業が多くの外国人を雇用していることを知っており、そういった現場でのコミュニケーションや交流のあり方を想起してコメントしている。以下は文体をそろえ要約・簡略化し抜粋した学生のコメントである。

- ・学校以外の世界も見たいという思いから民間企業への就職を決めたので、すごく良い機会になった。
- ・教員になった際には外国籍児童・生徒などの日本語教育を必要とする児童・生徒と関わる機会も出てくると思うので、今回学んだことを生かしていけるようにしていきたい。
- ・自分の母国語が人のためになるなんてすばらしい職業だと思った。いつか日本語を教えるような職業につきたいと思うようになった。
- ・高校の教師を目指している。日本語教育の教師にならなくても、必要最低限の常識を少しでも身につけようとこの授業を受けさせてもらった。
- ・これから教員になるが、その現場で、少しでも子供たちに日本語の面白さを伝えていけたらいいなと感じた。一人の日本人として、誇るべき日本語を教えていきたいと思った。
- ・外国人の子どもが自分の担任するクラスにいる可能性もあるので、その子どもとの関わり方が大切だと思ったし、自分自身がしっかり日本語を教えようという気持ちでいることが大切なのではないかと考えた。
- ・学校現場では、外国国籍の子どもに日本語を教えるときに、自信をもって、そして、一番は学習者の子どもに寄り添って一緒に学ぶという姿勢も大切である。日本人としての感覚を大切にしていきたい。
- ・学校現場で少しでも日本語を学ぶ上での手助けになるように努めていきたい。
- ・多国籍の生徒がいる場合、様々な教育方法があると思った。もし教師になってクラスに外国語母語話者の生徒がいた場合、日本語を楽しく教えてあげることができたら理想だと思った。
- ・教員を目指し、外国籍児童に日本語を教える機会に出会ったときに、日本語がどうして難しいと感じるのか、私自身がまず実感しておくことは大切だと思った。
- ・日本語をわからない生徒に教える立場から考えてみると、その児童が日本語を理解できるように説明する能力が教師には必要とされる。
- ・日本語により関心が持てるようになった。これらの関心や疑問を通して、確かで深い知識を身につけることで、指導要領にもある「言語活動の充実」にもつながるのではないかと考えた。また、児童にとって慣れない日本語を話したり、勉強したりすることが苦にならないよう、日本語に適應させることに専念するだけでなく、逆にあいさつなど簡単な言葉でも外国籍児童の母国語を私が勉強する姿勢も持ちたいと思った。このようなことを目標にして生徒がこの先生となら日本語を頑張れそうと思ってもらえるように、日本語の学習を深めていきたい。

- ・教師にとって日本語教育を受けることの必要性を感じた。現在、学校教育の現場には外国人の子供がたくさん在籍している。そのような子供たちに学校教育を行うためには、日本語はどういった所が難しいのか、どうすれば日本語を学びやすいのかなど多くの知識と教えるための技術を身に付けておく必要があると思う。
- ・学部で教員免許を取れる科目は国英数理者体育家庭なので、日本語の先生という発想が今までにはなかったが、そういった道もあることがわかり、視野が広がった。
- ・自分達が教える担当のクラスに外国人の子どもがいることもあるかもしれない。日本語教育を必要とする子どもに対して、何もできない教師ではなく、寄り添って共に学習することで、子どもとの信頼関係を築きあげられる教師を目指したいと思った。
- ・小学校の教員になってどうなるかは今まだわからないが、時間があれば日本語教育とまではいかずとも、各教科の中に日本の良さを伝える機会を設けたいと感じた。
- ・日本人として、そして国語科教員の視点から、日本語教育を見つめてきたつもりだ。私は日本人なのだから、日本語教育の勉強は容易いものだろうと思っていた。しかし、その真髄は実に奥が深いものだと思った。教員として、また一人の日本人として一皮も二皮も剥けたことを大変嬉しく思う。
- ・教育の現場で外国人の子どもたちと接するという機会も、これからますます増えていくのだと考えられる。日本にいるからといって、必ずしも日本語を流暢に話せるとは限らないし、日本語の上達が困難な生徒も出てくるであろう。しかし、それは生徒の学習能力が低いのではなく、外国語を習得するということが、いかに難しいことであるかということを知っているだけで、その生徒に対する対応や指導も変わってくると考えられる。教員を志す者として、より正しく、美しい日本語を使えるように心がけたい。
- ・外国人の人や子どもに出会った時に活用できるように、これからも日本語教育を少しずつ学んでいきたいと思った。

(2018年度受講者コメントより。)

これらのコメントから言えることは、近い将来教職に就いたときのことをイメージして、その現場に外国人の子どもがいるであろうことを想定したものが多く見られたということである。そして、日本人の受講者にとっては当たり前の日本語だが、外国人の子どもにとっては異文化の言語であり、習得が必要な生活のための言語であり、かつ学校で様々なことを学習するために必要な言語である。そのことについて思いをめぐらし、教師志望者としての自覚と覚悟を述べたコメントが多く述べられている。受講生は自覚がないと思われるが、これは教師を目指す日本人学生として、日本人である一定の目線から脱して一つのグローバル感覚と視点を持ち得たと見てよいのではないだろうか。2019年度の受講生のコメントは巻末資料として付けた。(巻末資料2)

4.1.3 その他

上の「改めて「日本語」を見つめなおした「発見」や「日本語教育と自らの将来の仕事と結び付けたコメント」以外にも、率直に述べたコメントが見られた。講義の一環として行なった講演から受けた印象など、「国際交流活動論」の講義全体から受けた感想で、いずれも異文化に対するまなざし、国際交流などに対する前向きなコメントが多かった。¹³⁾ 以下は2018年度の「国際交流活動論」を受講した学生のコメント(文体はそろえた。筆者)である。

- ・私たちは勝手な先入観でアフリカの国は貧しい、貧困といったようなイメージを持っているが、実際に現地に行き目で触れることで、違うものが見えてくるであろうし、よいと思える部分も多くあることに気付けるのではないかと考えさせられた。グローバル社会と言われている

今、自分の今後の生き方を考える機会になった。

- ・言語はその国の文化と切り離すことのできないものであり、より深い国際理解を促すものではないだろうか。国際的なつながりが広がっているなかで、相手の文化を受け入れる姿勢、自分の文化をひらく姿勢が相互理解に欠かせない。日本人らしさを象徴する言語も異文化交流の際にはひらいていきたいと感じた。日本語に対する深いまなびは、決して外国人だけに必要なものではなく、日本人だからこそ必要になるのではないだろうか。
- ・外国語で話す場合、やはり最低限の知識と、相手とコミュニケーションをしたい、相手を尊重し、自分のことも分かってほしいという態度が必要不可欠だと思う。ただこうした気持ちや、やる気よりもペーパーテストなどで身につけた知識などのほうが重要だと思うので勉強の大切さを実感した。
- ・入管法の改正により、より多くの外国人労働者が入ってくることで、日本語教育のさらなる充実が必要だと考えたからである。それは決して学校でその労働者たちの子どもたちだけを見据えたのではなく、自身が一般企業に勤めた時に出会う彼らへの教育もあり得ると考えた。
- ・国や人種を超えて、相手を知る努力を自ら積極的に行うことが大切だと気づかされた。日本人として国際交流が何かを考えたうえで「誰もが楽しめる日本語」を発信そして吸収するように努めていきたい。
- ・日本で学ぶ外国人留学生達の気持ちや苦勞を少しだけ感じることができたように思う。外国人留学生が日本語を学ぶことが日本語を母語とする私たちが日本語教育を受けることと比べて、大変難しいことであることは誰でもわかるだろう。しかし、日本語教育について全く知識を持たない日本人ばかりだったら、片言の日本語を一生懸命話す外国人に対して、心ない一言を突き付けることがあるかもしれない。そんなことがあってはならないし、日本に来た外国人にそんな思いをしてほしくない。そのため私たちに求められていることは、日本語を学ぶ外国人の気持ちを知り、学校教育の世界で日々の学習と関連付けをすることを通して、子どもたちに伝えることが求められている気がする。
- ・日本語を母語としない外国人留学生達にとっては、日本語の至る所に疑問を持ち、その疑問を解決したいと思うだろう。そうした時に相手の立場に立って、どういう説明をしたらわかりやすいかを考えて説明することが求められる。

(2018年度受講者コメントより。)

これらのコメントに共通していることは、少なくとも内向きな日本人といった枠から脱却し、枠を超えたところの先に「外国(人)」を位置づけ、その立場を理解しようと努めており、そしてその上での優しい配慮のコメントがなされていることにある。2019年度の受講生のコメントは巻末資料として付けた。(巻末資料3)

筆者らが「国際交流活動論」の授業で受講者に求めていた形がここに見える。

5 結語

「国際交流活動論」という授業の第一目標は「[外国語としての日本語]および「日本語教育」に関する理解を深め、日本語非母語話者の児童生徒などを想定した「日本語教育」の実践について学ぶ」(シラバスより)ことであるが、真の狙いはまさに科目名の通り、そのことを通して日本・日本語の文化を客観化して見ることが出来、その上で外国、外国人に向き合うグローバルなセンスを培って外国の異文化との交流を日本人としての誇りを持ってなし得る力を養うこと、すなわちグローバル人材育成に寄与することにある。

この「国際交流活動論」の実践の中で、受講した学生たちのコメントを概観するとき、学生たちの

心にグローバルマインドが芽生え、あるいはすでに持っていたそのマインドを伸ばすことが出来たのではないか、総じて、本実践に一定の成果があったと言えるのではないだろうか。

今後も学生たちが自文化を認識しその上でグローバルマインドを身に付けて、さらに外の世界へ目を向ける態度を伸ばしていくことを追究したい。

謝辞

本稿に関わるテーマ等について常に議論し、多くの有意な示唆を与えてくださった同僚のバハウ・サイモン・ピーター教授（国際機構交流部門）、「国際交流活動論」の実践の機会を与えてくださったコーディネータの橋爪和夫教授（人間発達科学部）、講演を快諾くださった青年海外協力隊OG・独立行政法人国際協力機構北陸センター富山県デスク国際協力推進員の吉田詩甫子氏、そして吉田詩甫子氏を講演者として派遣してくださった（公財）富山国際センター様、「国際交流活動論」受講生との交流活動に参加してくれた留学生の皆さん、データ整理を手伝ってくれた根路銘梨乃さんに感謝いたします。

巻末資料 1：2019 年度受講者コメント（原文のまま）

- ・日本語教育とは何かあまり理解していなくて、日本語教育とは、日本語を教えることなので日本語を母語として話せる人なら誰もがすぐに日本語教育をできるものだと勘違いしていました。ですが、実際には全くそんなことはなく、日本人が感覚的に理解したり無意識に使っている文法のルールなどがあり、日本語についてしっかりと勉強しなければいけないということが分かりました。
- ・「雨」と「飴」のように発音の違いでその語は何を示しているか表すことについて今まで生活していてそれが常識であったため改めて考えてみると確かな違いなどがあり驚きました。この授業から、もう一度日本語を勉強しなおす必要があると感じました。
- ・日本語の微妙なニュアンスの違いの面白さである。例えば、「ホタルが目の前で/を/に 二つ三つ。」のように助詞一つ違うだけで、イメージする情景が変わってくるし、ニュアンスが少しちがってくる。しかも、私たち日本人はそのニュアンスの違いを自然に使い分けしているというのが非常に興味深かった。本講義を受けるまでは意識していなかったが、いざその違いを考えてみると、なかなか上手く表現することが出来ない。その表現ができないような、微妙なニュアンスの違いに日本語の良さがあるようにも感じた。少し難しい言語のようにも感じるが、このような素敵な言語を話せるということに感謝しなければならないと痛感した。
- ・「しますか。」と「するんですか。」も聞いている意味は一緒ですが、少しニュアンスが違います。それを私たちはその時の感情によって使い分けしているということに気が付きとても感動しました。また、「目の前に蛍が一匹二匹」と「目の前で蛍が一匹二匹」と「目の前を蛍が一匹二匹」も私たちは違う情景を思い浮かべます。それは、私たちの感覚でなんとなく使い分けられています。副島先生は私たちのなんとなくの日本人の感覚を非常に大切にしてくださり、私も私自身の感覚を大切にしていきたいと思いました。
- ・日本語の一つ一つにはそれぞれ意味があり、その一つ一つが日本語の良さを作っているのだと感じました。言葉の少しの違いでその時の状況や感情の違いを表すことができちゃう日本語はとても素敵な言語だと思いました。日本語を使う日本人に生まれて良かったと、私は日本人であることを誇らしく思えました。このような素敵な日本語がずっと語り継がれるよう、本来の日本語を大切にしていきたいです。
- ・今まで考えもしなかったことを考えるのはとても面白く、せっかく日本語が母語なので、これからは日本語一つ一つに興味を持っていきたいと思いました。日本語は難しいけれど、直接的ではなくても人の感情も表すことの出来る奥の深い言語だと改めて感じ、以前より日本語が好きになりました。この講義を受けて本当に良かったと思うことができました。
- ・ほとんどの助詞が一文字や二文字である。例えば、道具・手段や、原因・理由、動作の場所という「で」と

いう文字だけでも、その文章の意味によって、様々な用法があった。このように一文字や二文字だけであるのに、「で」という助詞だけでも多くの用法があるということを改めて意識することができた。ここから、言葉とは面白いものだと感じた。

- ・日本語の文法だけでなく、日本語は発音や舌の位置についてもグループ分けできるということを知った。私はこれらについて今まで意識したことがなく、なぜ外国人の方が日本語を話すとき、しばしば舌足らずであるかのように話していたり、話しくそうだったりしているのだろうかと思っていたが、外国にはない発音の方法が日本語にはあるのだと分かり、驚いた。そして、外国人の方に今まで私が感じていたことについて申し訳なく思い、社会に出る前にこのことを知ることができたため安心した。
- ・これだけ日本人はあいまいに言葉を使っているのに、これを外国の方に教えようとするなら、日本語について詳しく勉強する必要がある。「ん」は日本人にとって全部同じものだが、「ん」を使い分けている言語の人たちにとっては、どの「ん」なのか教えてくれないと、もやもやしてしまう。「で」にも、手段を表す場合や、原因を表す場合など、さまざまなものが存在している。これを一度に教えてしまったら、日本語とは別の言語を使っている人は、全部混乱させてしまって分からなくなってしまう。教える人はそれはどんな「で」なのか、用いる例は適しているのかなど、とても細かく正確に日本語を理解している必要がある。
- ・今まで半ば直感的に日本語を使ってきた身としては、日本語文法や用法、アクセントの効果などをあまり意識したことがなかったので、授業で解いた問題は簡単に分かるものもあったが、半分以上はパツと思いつくようなものではなく、とても苦戦した。しかし、改めて日本語を客観視することで、日本語の独自性や、他言語との共通点が分かったり、他言語話者にとっての難点を知ること、留学生や外国人労働者の苦悩の一端を知ることができた。

巻末資料2：2019年度受講者コメント（原文のまま）

- ・第二言語として韓国語を一年間大学で学習したのですが、韓国語には「か」一つ取っても濃音や激音があり、日本語の清音と濁音の区別が難しいということがすんなり理解することができました。しかし、何の知識もないと、正しい発音がなぜできないんだと責め立ててしまう場合も考えられるため、やはり学習者の気持ちを理解するために日本語教師も学習者に近づく努力をする必要があると思った。また、日本語教師は、日本語の使い方だけでなく、日本のことについても何でも知っている外国人学習者から思われるそうなので、日本語、外国語、日本の文化についてなどたくさん勉強をして知識を蓄える必要があるとわかりました。
- ・今まで、「これだけ学校で英語を習っていて喋れないのは文法ばかりしているせいだ」と考えていたため、日本語を習う外国人も同じだろうと感じていた。しかし、感覚ではどうにもならない発音の違いやアクセントの機能などがあり、教えることは大切なのだと知った。
- ・この授業を通じて「外国出身の子どもにどう対応したらいいか」を学ぶことができました。「富山県の外国人移住者」がかなり増加していることを受けて、このまま外国人移住者が増えるとやはり外国から来た子供が多くなると考えます。その子どもたちにいかに日本語を覚えてもらうかが大切であると考えました。
- ・言語ごとの特徴を抑えることも重要であると考えました。特に発音についてはフランス語がhの子音がないため発音で困ることがあるなど、その言語ごとの特徴を抑えておくことで子どもたちに教えやすいのではないかと考えました。日本語の特徴と外国語の相互理解が大切であると考えました。
- ・自分が一方的に日本語を教えるだけでなく、その外国出身の子どものその国の言語や文化を教えてもらいお互いが一緒にお互いの言語を勉強することが大切だと思うからです。一方的に日本語を教えるのはよくないと私は考えます。理由はその子どもに日本語を押し付けているように考えるからです。相手の国の文化や言語を押し殺している感じがします。そうではなく、相手の国の文化や言語を活かしながら子どもたちが日本語を安心して学べる環境が理想だと考えました。そのためには子どもの出身の国の言語や文化を学

ぼうという姿勢、教師が日本語を正しく教えられるように勉強することが大切だと考えました。

- ・他言語との違いを知るということである。日本語では、確実にちがうように聞こえる語でも、国によっては区別しづらかったり、混同させてしまったりというのが興味深かった。また、この言語間での違いを理解することは、教育でもいかせることだなと感じた。近年増加してきている外国人の子どもたちを教育する上で、その子どもの言語自体を理解し、その子の発音しづらい言葉を把握しておけば、ベストな授業を提供することが出来ると思う。
- ・無声音と有声音は合唱の時にもよく言われることなのでとてもよく分かった。日本語学習者に有声音と無声音の違いを教える時はのどに手を当てるとわかり、すぐに分かるので教えやすいと思った。
- ・教師になったら、私も日本語のすばらしさを伝えていけるようになりたいです。相手のことをよく理解したうえで、正しい日本語を教えてあげられるように日本語を教える側の方は学習者の倍以上学ばないといけないのだと分かりました。私が将来教師になって外国の子どもに日本語を教える可能性は高いです。そのときは異文化を理解しつつ、日本語を教えていきたいと思います。
- ・私が教師になったときに「を」と「で」は何が違うのかと質問されたときは、自分のイメージをかみ砕いて言葉として教えてあげなければならない。私はそのような点に日本語の難しさを感じた。動詞には否定形にしたときに「ら」が入るものと入らないものがあることや、活用する形容詞と活用しない連体詞というものがあるということなどである。これを混ぜて教えてしまうと、「大きい物」「大きなもの」の言葉の区別がつかなくなったり、「つもらない」を「つもない」と言ってしまうたり、困ったことが起こるのだ。生徒がそれを混同しないように、教員が日本語の品詞を理解し、仲間分けをしっかりと行って教えなければならない。また、話し言葉と書き言葉の違いや、女言葉と男言葉の違いも言ってあげるとより生徒たちの日本語での会話を自然なものにしてあげることができる。
- ・難しいのはその生徒の母国語にはない言い方を教えるときである。だから、その生徒の母国語を利用しながら教えるのには限界があるのだ。教師はそれも理解しておかなければならない。母国語を他国の人に教える際にはたくさんの困難がある。私たちがもつその日本語へのイメージを、どのような言葉にして伝えるかが大事であると分かった。私が教員になることができたなら高い確率で、外国人の子どもを担任することになる。その時にはこの講義で学んだことを活かして、しっかりと正しい日本語のルールを教えてあげたいと思う。また、その子どもの言語や文化によりそい、まずは自分がその子の言語を理解し、寄り添ってあげられるように、できる限り勉強したいと思った。
- ・現代では、クラスに一人か二人、外国人の子どもがいても不思議ではないこと、英語圏から来た子どもばかりではなく、多くが英語を使えない子どもである可能性が高いことを学んだ。そんな場面に直面したとき、教師としてどのように支援し、教育をしていくかをしっかりと考えておかなければならないのだと感じた。副島先生は、その日本語の感覚を大切にして、その感覚を意識化し考えることが大切であるとおっしゃっていた。もし、将来、教師になり、自分の受け持つクラスに外国人の子どもがいたとき、そのことを意識して、日本語を教えることができたなら良いと思う。自分自身で磨き、海外からの子ども、親への支援に役立てられたら良いと思う。
- ・何語が母語かによって抱える困難が違うというのは、日本語を教える側にとっても難しさであるということだ。韓国語の話者は日本語の清音と濁音の弁別が難しいことや、スペイン語の話者はヤ行とジャ行の区別が難しいなど、どの人にも一様に教えたのでは効果がないということが分かった。これを知らずにみんなに同じように教えても話せるようになる人は少ない。発音しづらそうにしている原因をきちんと分かった上での確なアドバイスをして、ようやく話せる喜びを感じてもらえる。それぞれの生徒のことを知っておくというのは外国人に対する日本語教育でも、日本人に対する教育でも同じように大切だと感じた。
- ・日本語の中には「雨と鉛」「箸と橋」のように音の高低によって意味が変わる言葉もある。発音もきちんとできなければ、正しく自分の思っていることを伝えられない。学んだことが、これからの彼らの日本での生活に関わってくるという意識が日本語の教育者には必要だと分かった。

- ・どのようにして外国人の子どもとコミュニケーションをとったり、どのように日本語を教えたりすればよいのかが分からなかった。しかし、普段私たち日本人は学ぶ機会があまりない日本語について改めて学んで、日本語について今まで以上知ることができたと感じることができ、また、外国人に向けての日本語教育を受けたため、将来外国人の子どもに出会ったときに、どのように日本語を教えたらよいのかを、少し理解することができた。よって、将来教師として働いているときに外国人の子どもと出会った際、どのように日本語を教えるなどの対応を、この集中講義で日本語教育を受ける前に比べて、明確に想像できるようになった。
- ・教師になったとしたら、日本語教育の教師にならなかったとしても、日本語を教える機会はあるだろう。そのときに、今回この講義で習ったことを生かして、日本語を正しく理解して、外国から来た子どもたちに教えてあげること、子どもたちの大きな助けになることができるだろう。正しく日本語を教えることができたなら、授業を理解できずにおいて行かれ、勉強をしなくなるという現状を少しでもなくせることができる。この講義のことを生かして少しでも多くの子どもたちの助けになればと思う。
- ・学級や学校に外国人の子どもが一人以上いることが予想されます。そのとき、私がどのような対応をすればいいのか考える機会にもなりました。自分では理解できてもそれはいままで日本語とふれあってきたからこそのわかる感覚だということが多くあるので、子どもたちにその感覚を無自覚で押しつけることがないように、こっちがしっかりと日本語を理解し、伝えていきたいと思いました。また、この日本語を大切に使う、守っていききたいです。
- ・留学生との交流で、大学間でも留学生に向けた日本語教育の充実度に差があることを聞き、県内の日本語教員の不足のニュースと合わせて、日本語教育が未だ完全に普及していないのだと感じた。現状では、将来僕が教員になった時に、外国人の教え子が現れる可能性が低い。先の課題で答えたように、その子に寄り添うべく、その子の母国語を勉強するのが重要だと今でも感じている。それに加え、今回の授業で培った日本語教育に関する知識・技術を参考に、少しでも効果的に日本語を教えてあげられるようになりたいと思うようになった。

巻末資料3：2019年度受講者コメント（原文のまま）

- ・普段なにげなく使っている日本語ですが、外国人学習者にとってはよく理解できない部分もあり、学習者がどこでどんな理由で詰まってしまうのか把握することはとても大切なことであると思いました。そのためには、外国人学習者の母国語のことを少しでも勉強して、発音の特性などを知ること、少しでも学習者に近づき、その上で、発音の注意をするととても効果的であるということがわかりました。
- ・努力が実らず悔しい思いをしている外国の人が、日本語で悩んでいるのなら周りにいる人がその都度その都度、助けてあげられるような国でありたいと感じる。日本語を意識化することは難しいが、外国人の身近にいる人全員が日本語教師になり得るのだと感じた。
- ・異文化、他言語での違いを乗り越えるきっかけとなるのは、相互理解であると感じた。異文化に少し抵抗を抱くこともあるとは思いますが、徐々に受け入れていくことが相手を理解することであり、平和に上手く生きていくコツなのではないかと感じた。
- ・日本語学校で扱われている問題が、日本語を学ぶ外国人の日本語に対する疑問をまとめたものなのではないかと感じた。実際に自分が問題を解くことで、日本語を学んでいる外国人のつまずきを理解しやすくなるかもしれないと思った。
- ・日本人に日本語を教える場合と外国人に日本語を教える場合は少し異なっており、外国人に日本語を教えるときのほうが内容をわかりやすいものにしてもらえると考えられる。これは、日本語は外国人にとって学ぶのが非常に難しい言語だと言われているため、少しでも分かりやすく理解しやすいように工夫しているからだと感じた。

注

- 1) 主催の国際競技連盟「ワールドラグビー」の代表資格規定では、他の国の代表になったことがないということが前提で、次のうち1つを満たせばその国の代表になる資格が得られる。(1) 出生地がその国, (2) 両親, 祖父母のうち1人がその国出身, (3) その国で3年以上, 継続して居住。または通算10年にわたり居住している。
- 2) 本稿においては「外国人」に、たとえ日本国籍であっても日本語を母語または第一言語としない日本国籍の人も含めることとする。
- 3) SDG グローバル指標 (SDG Indicators) 「ターゲット 8.8」: 移住労働者、特に女性の移住労働者や不安定な雇用状態にある労働者など、全ての労働者の権利を保護し、安全・安心な労働環境を促進する。
Protect labour rights and promote safe and secure working environments for all workers, including migrant workers, in particular women migrants, and those in precarious employment
- 4) 今後ますます深刻化する労働力不足に対応するため、政府は4月から入管法を改正し新たに「特定技能」という労働者として外国人を受け入れる在留資格を創設した。5年間で最大34万5000人を受け入れの見込み。
- 5) 内閣府の「クールジャパン戦略(概要版)」には「CJの観点から重要なのは、日本として、世界中の才能ある外国人を受け入れ、活用する意思があることを前向きなメッセージとともに示すことで、外国人材が日本に集まり、クリエイティブな活動などが行われる環境を整備することである。このため、各省が進めている情報提供の取組について浸透を図るとともに、外国人材の受入れや運用の改善等についても、関係省庁と連携しつつ検討する必要がある。」とある。
https://www.cao.go.jp/cool_japan/about/pdf/190903_summary.pdf (2019年10月4日閲覧)
- 6) Webun 北日本新聞社 2019年7月28日 報: <https://webun.jp/item/7584873> (2019年10月4日閲覧)
- 7) コーディネータは橋爪和夫教授(人間発達科学部)。授業担当者は、コーディネータを含む3人(コーディネータ、バハウ・サイモン教授(国際機構)および筆者(国際機構))であった。
- 8) 教材としては『全養協日本語教師検定準拠問題集日本語教師の実践力』(有限責任中間法人 全国日本語教師養成協議会) 2006を参考にした。
- 9) 日本人として自文化である母語の日本語を再認識するという作業なので、いわゆる日本語教師養成講座とは性質が異なる。
- 10) この活動を行なう前に、事前にどのようなことを留学生たちに尋ねるかを念入りに考えさせておいた。
- 11) 2019年度の講演は公開授業とし、国際機構と人間発達科学部共催の「国際交流セミナー」と位置づけて、「国際交流活動論」の受講生以外の参加を認めた。
富山大学国際機構 HP: <http://www.ier.u-toyama.ac.jp/>
- 12) 問いは、口頭で問いメールで返事を求めたり、「レポート」のような形で提出させたりした。
- 13) 他にも「日本人なら誰でも日本語が教えられると勘違いしていた」「日本語教育は難しい」「もし外国の子どもに日本語を教えることになったら?」と不安になった」などのコメントもあった。本取り組みと無関係のものやピントのずれたコメントなどは割愛した。

参考文献

- (1) Simon Peter BAHAU, Kenji SOEJIMA (2018) “Empowerment for Nurturing of Global Thinking in Japanese University Students: A Practical and Provocative Approach in Utilizing Courses for Study Abroad Preparation and International Understanding and Exchange Activities”, Journal of the Organization for International Education and Exchange, University of Toyama, (Vol.1), pp.12-18.
- (2) 副島健治 (2017) 「日本人学生の「日本語」の学びと日本語再発見 ―グローバルマインド形成への1つのアプローチとして―」『富山大学国際交流センター紀要』第4号, pp21-29.

- (3) 副島健治 (2004) 「日本語学習の発達の過程としての「メディア日本語」の試み — 基礎日本語を乗り越えるための学習活動を目指して —」 『ポリグロシア』 第9巻,立命館アジア太平洋大学言語教育センター, pp.169-180.
- (4) 副島健治 (2005) 「学習者の「主体性」と「考える」ことを基本にした日本語教育の試み — APUにおける専修日本語『応用日本語』の教育現場から —」 『教師づくり教材づくり日本語教育』河原崎幹夫先生古希記念論文集実行委員会編. 凡人社, pp.168-181.
- (5) 文化庁HP「日本語教育の推進に関する法律の施行について（通知）」（2019年9月30日閲覧）
http://www.bunka.go.jp/seisaku/bunka_gyosei/shokan_horei/other/suishin_houritsu/1418260.html
- (6) 内閣府知的財産戦略推進事務局, 「クールジャパン戦略について 令和元年7月」
 Webサイトに公開（2019年9月30日閲覧）
https://www.cao.go.jp/cool_japan/about/pdf/190903_cjppt.pdf
- (7) 文部科学省総合教育政策局男女共同参画共生社会学習・安全課「外国人の子供の就学状況等調査結果（速報）」（令和元年9月27日）
 Webサイトに公開（2019年9月30日閲覧）
http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/31/09/_icsFiles/afieldfile/2019/09/27/1421568_001.pdf
- (8) 実業之富山Web版, 2019年2月15日報：「外国人労働者数, 過去最高を更新 富山県では技能実習, 製造業が約半数」 <http://webmaga.j-toyama.jp/2019/02/15/> （2019年10月4日閲覧）
- (9) 文部科学省HP「「日本語指導が必要な児童生徒の受入状況等に関する調査(平成28年度)」の結果について」（2019年9月30日閲覧）
http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/29/06/_icsFiles/afieldfile/2017/06/21/1386753.pdf
- (10) 文部科学省HP「外国人の子どもの不就学実態調査の結果について」（2019年9月30日閲覧）
http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/clarinet/003/001/012.htm
- (11) 朝日新聞DIGITAL, 2019年3月1日記事「（社説）外国人の就学 等しく学びの保障を」
 Webサイトに公開（2019年9月30日閲覧）
<https://www.asahi.com/articles/DA3S13914393.html>
- (12) NHK NEWS WEB 2019年4月2日公開記事「“見えない”子どもたち」（2019年9月30日閲覧）
<https://www3.nhk.or.jp/news/html/20190402/k10011870201000.html>
- (13) 殿村琴 (2008) 「子外国人子女の「不就学」問題について」 『ライフデザインレポート2008.7-8』, 第一生命経済研究所, pp35-37
 Webサイトに公開：<http://group.dai-ichi-life.co.jp/dlri/ldi/watching/wt0807b.pdf>（2019年9月30日閲覧）
- (14) 外務省HP：SDGグローバル指標(SDG Indicators「8: 働きがいも経済成長も」
<https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/statistics/goal8.html>（2019年9月30日閲覧）
- (15) 厚生労働省HP「外国人雇用対策 Employment Policy for Foreign Workers」
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/koyou_roudou/koyou/gaikokujin/index.html
 (2019年9月30日閲覧)
- (16) 富山大学人間発達科学部専門科目「国際交流活動論」シラバス2018年度版, 2019年度版
- (17) 北日本新聞社『北日本新聞』（2019年9月17日(火)朝刊）1面記事

日本人学生と留学生を対象にした 「グローバル日本語」養成のためのワークショップ報告

中河 和子
濱田 美和

A Report of the Workshop to Cultivate “Global Japanese” for Japanese Students and Foreign Students

NAKAGAWA Kazuko
HAMADA Miwa

要 約

本稿は、富山大学国際機構教育部門で2018年度後期と2019年度前期に実施した日本人学生向けワークショップ「国際人としてのグローバル日本語—外国人とわかり合うための日本語コミュニケーション—」の報告である。本ワークショップは、上級レベルの日本語能力を有する留学生を対象とした「日本文化」の授業に数回日本人学生が参加し、留学生と対話活動を行い、授業終了後にふり返りを行うという内容である。ワークショップ終了時に実施した学生へのインタビューおよびふり返りでは、対話活動への肯定的評価がほとんどだった。特に日本人学生に「自身の今後のためにも対話力≒グローバル日本語力の成長が必要である」という認識と、「対話の維持・促進には、ホスト社会の母語話者側が言語的文化的配慮をすることが必要である」という気づきが観察され、日本人学生と留学生の対話活動は、日本人学生への教育的意味が強いことが示された。留学生からは、深い話題について日本人と語り合うときの「援助の必要性の認識」と「深い話題を語り合える日本人の友人への希求感」が観察され、留学生対象の「日本文化」、「日本事情」授業にこのような対話活動を組み込むことの有効性が示唆された。

【キーワード】 日本人学生、外国人留学生、グローバル日本語、対話活動、異文化調整力

1 はじめに

日本人学生がグローバルに活躍する必要性を否定する人はいないだろう。では、グローバルな場で機能する日本語とは何だろう。筆者らはそれを「異なった文化・言語を持った人とも意思疎通や相互理解がしやすい日本語」とした。それは意思疎通のしやすさのため言語形式が簡略化され、内容も単純になった日本語ではない。そして、そのグローバル日本語を操るには、異なった文化（同国人における世代・階層などの異なりも含めて）・異なった価値観の人と、建設的に意見を交わし合い調整できる力、すなわち異文化調整力が必要と考える。これは外国語ができる以前に、母語でもその力が獲得されていなければならない。つまり外国語がいくらできてこの異文化調整力がなければ、ただの翻訳機人材になるからだ。

はじめに、なぜグローバル日本語が日本人学生にとって必要なのか、またグローバル日本語と対話活動の関連について述べる。

1.1 実践の背景

文化は国や民族だけで共有範囲をくくられるものではなく、日本社会における異なる世代間や異なる職業間における文化的差異も異文化だが、学生時代には異なった国、社会、言語圏の異文化に触れるべきだとし、海外留学を奨励している大学は多い。今の社会で日本人学生に特に求められているグ

ローバル性は、異なった国、社会、言語圏にまたがるものと言えるだろう。しかし、大学というところは国内に居ながらにして異なった国、社会の異文化と接触できる格好の場でもある。それは外国人留学生（以下、留学生）の存在があるからである。

日本の大学の多くは、留学生の受け入れを進めており、留学生と日本人学生が共に学ぶ機会も増えているが、彼らは同じ大学という空間に身をおけば、自然に接触・交流を始めるわけではない。それよりも、留学生と接する機会の多い日本語教師がしばしば耳にするのが「日本人学生の友人がなかなかできない。あまり話もしない」という留学生の嘆きである。例外もあるだろうが、留学生と日本人学生の接触の頻度が少なく、その深度が深くないことは、日本語教師の多くが感じていることである。

これは、留学生にとってもまたホスト側の日本人学生にとっても大きな損失である。学生時代に異なる社会、文化圏から来た者同士が接触し意見を交わすことは、それぞれに大きな収穫があるからだ。彼らの接触の機会のセッティングも多くされているが、どんな「場」を設定されても、留学生・日本人学生双方に、人間関係を構築し深化させるコミュニケーションの力がなければ、両者に一定の密な関係は生まれない。

ここ数年「日本人学生のコミュニケーション力の欠如」がある種の社会的問題として取り上げられている。日本人学生が「日本語で」コミュニケーションする力が弱いのでは、という日本社会の危機感を裏付けるものとして、企業人事担当者が新卒採用時にどのような力を重視するかという日本経済団体連合会（以下、経団連）の調査結果があげられる。企業人事担当者に行った経年調査（2018年度）¹⁾では、新卒採用にもっとも重視した力は16年連続でコミュニケーション能力がトップである。82.4%の会社がトップに選んでおり、2位の主体性（64.3%）を大きく引き離している。ちなみに語学力をもっとも重要とした企業は6.2%である。企業担当者がコミュニケーション能力を新卒者に強く求めているということは、その力の欠如を痛切に感じているということの表れだろう。

では、ここで人事担当者が言うコミュニケーション力とはどのような力を指しているのだろうか。経済界が求めるコミュニケーション力と相互に密接な関係がありそうなものに、文部科学省の中央教育審議会が、経済界始め各界の意見をもとに学校教育におけるキャリア教育の在り方を示した「平成23年（答申）今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」がある。そこでは、キャリア発達に関わる4つの能力として「人間関係形成能力」「情報活用能力」「将来設計能力」「意思決定能力」をあげている。その「人間関係形成能力」を構成するのが、自他の理解力を含むコミュニケーション能力で、その能力とは「他者の個性を尊重し自己の個性を發揮しながら、様々な人々とコミュニケーションを図り、協力・共同してものごとに取り組む」力だとしている。また同じく経済界が企業人材の指針とする経済協力開発機構（以下、OECD）は、3つのキーコンピテンシー（主要能力）をあげている²⁾。その1つに「多様な集団における人間関係形成能力」をあげ、その能力は「他人と円滑に人間関係を構築する能力」「協調する能力」「利害の対立を御し、解決する能力」から成っているとしている。

キャリア教育でその養成が必要とされる「人間関係形成能力」とOECDの「多様な集団における人間関係形成能力」は、筆者らがグローバル日本語に込める「異なった文化（同国人における世代・階層などの異なりも含めて）・異なった価値観の人と、建設的に意見を交わし合い調整できる力」と通じるものがある。

1.2 本実践と対話活動

平田（2012b）は、近年の特に若者のコミュニケーション力欠如が指摘されている現象を取り上げ「コミュニケーション能力とは何か」を探っている。それを「わかりあえないことから」という問いから出発し、「対話」に言及している。会話と対話を対比し、会話を「価値観や生活習慣なども近い親しい者同士のおしゃべり」とし、対話を「あまり親しくない人同士の価値や情報の交換、あるいは親しい

人同士でも、価値観が異なるときに起こる価値の摺りあわせなど」としている。そして、日本には歴史的に対話の言葉がなく、対話の政治がなく、対話の国語教育がなかったことが問題であると指摘する。

日本語教育では、1990年代からFreire (1979)、Bakhtin (1988)などの理論を援用し、また近年では上述の平田の説と実践を参考にし、「対話活動」や「対話力の養成」の重要性が唱えられてきた³⁾。学校教育や医学・看護などの場からも「対話教育」の必要性の声が多くあがっている(多田2006、堀越2015など)。対話とは何かについて、学校教育における対話教育の第一人者の多田(2016)は、対話の機能に次の3つをあげている。1つ目は「お互いの考えや感想、情報などを伝達し合う」こと、2つ目はそれにとどまらず「意思や感情を伝え合うことを通して『人と人とのかかわりづくり』をする」こと、最後に「自己との対話や他者との対話を通して、新たな解や智慧を創発していくこと」としている。そして、筆者らの言う「グローバル日本語」の根幹には、この対話力がある。

筆者(中河)は、留学生始め外国人への日本語教育においても、日本語教育の目的を「日本語という外国語を操る技能の伸張」のみとして捉えず、対話力を獲得することだという立場を取っている。日本留学の機会に関係を取り結ばない留学生と日本人学生の問題の要因の1つには、両者の対話力の欠如があると考えており、そのような問題意識から、自身の担当する留学生対象の授業、富山大学国際機構日本語プログラム「日本文化C」の場を用い、日本人学生・留学生協働の対話力養成を目的とするワークショップ「国際人としてのグローバル日本語—外国人とわかり合うための日本語コミュニケーション—」を、日本語プログラムのコーディネーター(濱田)と共に企画・実施した。中河は地域日本語教室で、外国人住民と日本人住民による対話活動を2006年より現在まで行っている。富山大学医学薬学教育部(杉谷キャンパス)でも2011年後期より2018年後期まで、日本人市民ボランティアに参加してもらい、対話活動の授業を通年にわたって行った。しかし、「日本文化C」ではカリキュラムなどの関係で通年の対話授業は尚早と考え、また日本人学生の参加しやすさにも配慮して、1学期15週の授業のうち3週を対話活動に充てることとした。

本稿では、2018年度後期と2019年度前期に実施したワークショップについて報告し、ワークショップ最終回終了後に行った「振り返り」の結果をもとに、日本人学生・留学生双方の視点からのワークショップの有効性と課題を述べる。以下、本稿で対話活動と述べているものは、このワークショップで行った「対話活動」であり、時に対話活動とワークショップは同じ意味で用いられる。

2 「日本文化C」授業概要

まず、ワークショップの場となった留学生対象授業の「日本文化C」について概要を述べる。

「日本文化C」は、富山大学国際機構で開講する日本語プログラム上級クラスの科目の1つである⁴⁾。上級クラスは各期(15週)9科目をすべて選択科目として提供している。2018年度後期と2019年度前期は、いずれも水曜日4限(14:45～16:15)に開講し、中河が授業を担当した。

2.1 受講者

受講者の多くは日本語能力試験N1、N2レベルの日本語能力を有するが、N3レベルの留学生も受講している。2018年度後期は9人(国・地域別:中国5人、ロシア2人、台湾、ベルギー各1人、学部別:人間発達科学部3人、人文学部2人、経済学部、芸術文化学部、人間発達科学研究科、経済学研究科各1人、在籍身分別:特別聴講学生、研究生各3人、日本語・日本文化研修留学生、修士課程1年生、特別研究学生各1人)、2019年度前期は15人(国・地域別:中国7人、台湾2人、インドネシア、タイ、チリ、フィリピン、ベルギー、ロシア各1人、学部別:人文学部4人、人間発達科学部3人、経済学部、人文科学研究科、経済学研究科、理工学教育部各2人、在籍身分別:特別聴講学生4人、日本語・日本文化研修留学生3人、科目等履修生(県費)、修士課程2年生、研究生各2人、修士課程1年生、特別研究学生各1人)が受講した。

2.2 授業の目的と達成目標

授業の目的は、留学生として日本社会をできるだけ分析的に観察する試み（情報の読み取り・整理など）を、様々なメディア（テレビ番組、アニメ映画、漫画、新聞・雑誌記事、自治体広報など）を用い、そこから得たものを日本語で情報発信する力を養成することである。

達成目標は、1つのテーマをなるべく多角的に捉え、日本社会に対して既に持っている知識や、自文化への固定的な見方を洗い直す力をつけることである。日本語の面からは、自身の述べたいことをまとめた談話として構成する力を養うことを目標としている。

2.3 達成目標実現の問題点

この授業目的と達成目標を支える教育目的は「必要十分な日本社会への一般教養知識のもと、健全な批判精神を持って、自他の文化を見直し、自身の考えを表明できること」である。そのために、狭義の日本語力（文法運用の正確さや語彙の多さ等）は、重視しないとしている。

留学生には、授業1回目のオリエンテーション時に「自身のコミュニケーションのあり方を見直す」として「会話と対話の違い」「どのような姿勢が対話を可能にするか」などについて考えさせ、対話力養成を企図している。留学生同士の意見交換やディスカッションの時は、対話力養成のきっかけとなるような仕かけをするが、留学生同士の場合、日本語力の狭義の能力観、すなわち文法運用の正確さ、語彙の多さなどにとられる傾向がぬぐえず、上述の教育目的の達成には少なからず課題を感じていた。

2.4 授業スケジュール

授業スケジュールを表1に示す。第1週にオリエンテーションを行った後、第2週～第15週までは、2～3回で1つのテーマを取り上げ、そのテーマを題材とした映像・読解資料をもとに、現代日本社会を観察し、グループでディスカッション、発表を行う。そして、最終週にまとめを行い、各自レポートを作成するという流れである。

表1 「日本文化C」授業スケジュール

	2018年度後期	2019年度前期
第1週	オリエンテーション, 対話力について	オリエンテーション, 対話力について
第2週	本授業で扱う文化について	本授業で扱う文化について
第3週	日本の企業文化－新人社員研修事例－(1)	日本文化って？
第4週	日本の企業文化－新人社員研修事例－(2)※	今, 興味あること ※
第5週	ステレオタイプ(1)	憲法と日本人(1)
第6週	ステレオタイプ(2)	憲法と日本人(2)
第7週	今, 興味あること ※	憲法と日本人(3)
第8週	日本の若者－草食男子－(1)	ステレオタイプって？ ※
第9週	日本の若者－草食男子－(2)	若者意識(1)
第10週	ジェンダー ※	若者意識(2)
第11週	現代日本の流れ(1)	若者意識(3)
第12週	現代日本の流れ(2)	留学生と日本人は, なぜ親しくなりにくいのだろう※
第13週	公害	現代日本の流れ(1)
第14週	期末試験	現代日本の流れ(2)
第15週	自分を知る－ストレスパターン－	まとめ

※はワークショップを実施した回を示す。

3 ワークショップ概要

富山大学国際機構教育部門ワークショップ「国際人としてのグローバル日本語—外国人とわかり合うための日本語コミュニケーション—」は2018年度後期に初めて開催し、2019年度前期も継続して行った。活動内容は、留学生対象の授業「日本文化C」に参加して留学生と日本語で対話活動をした後、授業担当教員である中河とその日の活動を振り返るというものである。ふり返りの時間は授業終了後の30分とし、濱田も同席した。いずれの学期も「日本文化C」の授業15回のうち3回を日本人学生が参加する形とした。

広報は、2018年度後期は学内の掲示板でワークショップの案内を掲示する方法で行った。2019年度前期はポスター掲示に加えて、富山大学学術情報システム（ヘルン・システム）の掲示板にも掲載し、システムからメールでの通知も行った。2018年度後期に参加した学生からの助言を受けて行ったもので、2019年度前期はヘルン・システムからのメール通知で情報を得てオリエンテーションに参加したという学生が多かった。ポスターには、「富山大学の外国人留学生と『日本語で』さまざまなテーマについてちょっと深い話をしてみませんか？」という呼びかけで、次の3つの力、(1)さまざまな価値観、考え方に触れる→調整力アップ、(2)自分の日本語を外から見直す→わかりやすく魅力的な日本語コミュニケーション力アップ、(3)日本語を客観的に見るスキル→外国語学習にも役立つ、これらが身につくことをアピールした。ポスターの内容についても、「ちょっと深い話」だけではわかりにくいという2018年度後期の参加学生からの助言を得て、2019年度前期には「さまざまなテーマ:仕事観、教育、サブカルなど」と具体例を加えた。

ワークショップに参加した日本人学生は、2018年度後期は2人（学部別：人文学部2人、学年別：2年生1人、3年生1人）、2019年度前期は10人（学部別：経済学部、理工学教育部各3人、人文学部2人、人間発達科学部、理学部各1人、学年別：学部1年生1人、学部2年生4人、学部4年生2人、修士課程2年生3人）だった。

4 ワークショップ実践

4.1 実施日と対話のテーマ

実施日と対話のテーマを表2に示す。対話活動のテーマは、「自己と社会」と「自己と他者」と「自己と自己」の大きく3つに分類され、自己を軸にして社会を、他者を、自己内部を見つめ直すことを意図した。この3つは重なり合うものであり、便宜上の分け方である。1学期に15回対話活動を行う富山大学医学薬学教育部のクラス（1.2参照）では、この分類を使ってテーマのバランスを取ってきた。さらに対話活動においては、最終的にメンバーシップを培うことが重要だと考えているので、序盤はアイスブレイキング的なテーマ、そこからクラスの「場」の特徴を考えながら、それぞれが自己表現しやすいもの・クラス全体を成長させやすいものに移行させてきた。

本ワークショップは、1学期に3回のため、富山大学医学薬学教育部での1学期通しての対話活動クラスのやり方の原則を取り入れながら、テーマのバランスを考え、アイスブレイキング的なものから、場の変化を観察して、学生それぞれが自己表現しやすいものを探り決めていった。

表2 実施日と対話のテーマ

2018年度後期		2019年度前期	
実施日	対話のテーマ	実施日	対話のテーマ
10月24日	オリエンテーション	5月8日	オリエンテーション
10月31日	日本企業の新入社員研修の事例について	5月15日	今、興味あること
11月28日	今、興味あること	6月12日	ステレオタイプって？
12月19日	ジェンダー	7月10日	留学生と日本人は、なぜ親しくなりにくいのだろう

4.2 日本人学生へのオリエンテーション

オリエンテーションでは、以下に示した資料に基づいて目的を伝え、その重要性の説明と動機付けを試みた。また、ごく簡単にだが、対話を維持するための「言語面・態度面」の留意点の理解を促した。(巻末資料1)

また、ワークショップの前日までに日本人学生全員に、対話活動のテーマ、対話をする際の簡単な留意点、前回の対話活動での留学生の反応の簡単な報告などを書いたメールを送った。このメール送信は、テーマを知らせる目的や、留学生との対話に自信が持てないだろう学生へのエンカレッジメント等の目的が主だったが、参加のリマインドの意味もあった。日本人学生が、まだ留学生との対話活動にどれくらい意義や楽しみを見出しているか不明な上に、バイトやサークルで多忙な彼らは月に1度のワークショップにメンバーシップを感じにくいかもしれないと思ったからである。このメールが日本人学生の参加姿勢にどのような影響を与えたかは調査していないが、全3回とも欠席者は1～2名で全て欠席理由について連絡があった。

【日本人学生対象のオリエンテーション資料：抜粋】

1. ワークショップの目的

- 1) さまざまな価値観・考え方に触れる→調整力アップ
- 2) 自分の日本語を外から見直す→わかりやすく魅力的な日本語コミュニケーション力アップ
※日本人とのコミュニケーション力もスキルアップします
※コミュニケーション力は、日本企業が採用時にもっとも重視する力です
(経団連調査 2017 より)

3) 日本語を客観的に見るスキル→外国語学習にも役立つ

いろいろなことを対話することで、日本人学生・留学生が共に日本語力をつけていくことをめざします。

さらに、外国人・日本人共に日本社会・母国社会で自分が持っていた既成概念や思い込みを見直す機会にします。

このクラスでは、留学生ではない学生を「サポーター」と呼びます。

2. 対話力とは

3. 活動の流れ 講師の役目 日本人学生の役目

4. 対話するときに注意すること 1) 態度・心理面で 2) 言語面で

4.3 対話活動の実際について

対話活動では実にさまざまなことが起こっているが、紙幅の関係上、いくつかのポイントについて簡単に述べる。まず対話活動の流れはいくつかあるが、主な流れは、序盤に問題提起、ブレインストーミング、対話の動機付け等が行われ、中盤は留学生と日本人学生の原則ペアによる⁵⁾対話活動、終盤は各ペアによる発表が行われるというものである。発表はインタビュー、ドラマ、独話など各ペアが工夫をこらす(巻末資料3)。

教師の主な役割は、ペアのマッチングと、序盤の問題提起やブレインストーミング、中盤のペア活動への教育的介入、全体の時間管理である。筆者(中河)はペアのマッチングが対話活動の成否を決めると考えているが、このマッチングのポイントの1つは日本人学生の日本語調整力と留学生の日本語力、もう1つは双方の対話構築力である。対話構築力は日本語レベルとは、原則関係しない。日本人学生でも対話構築力の不足により話を進めるのが不得手な者も多く、日本語力が高くない留学生でも対話構築力によって話を展開・深化させる者がしばしば見られる。1～2回の対話活動で、日本語調整力・日本語力、対話構築力のかかなりの部分は見えてくるが、10組以上のペアを1人で観察するのは

容易でなく、教師の補佐役がいることが望ましい。

ペアの対話活動の場面を見ると、それぞれ活発ににぎやかに話を進めており、クラス全体が活気づいている様子だったが、詳細に観察すると、対話なのかおしゃべりなのかという、いわゆる対話の質の面で問題と感じるものが多々あった。そこに教育的に介入するのが対話活動における教師の役目と考えている。例えば、もっぱら日本人学生からの質問に留学生が答えるのみで、日本人学生だけが話のイニシアチブを取り、さらにそれが深化せず表層的に終わっている例である。また上級クラスで意外によく起きるのが、日本人学生が言っているキーワード的なものが実は理解できていないのに留学生聞き返しができず、そのことに日本人学生も気づかず、互いに理解しないまま話が進んでいる例などである。教師がどのように介入するのが効果的なのかその後の学生の対話力の成長につながるかは、今後も実践・研究を重ねながら検討していきたい。

5 学生の評価

2018年度後期については人数が少なかったのでワークショップ最終日にインタビューを、2019年度前期についてはワークショップ終了後に日本人学生・留学生ともにふり返しシート⁶⁾でふり返しを行った。ふり返しシート(巻末資料2)を、留学生には紙媒体で配布・翌週回収し、日本人学生には電子ファイル(Word文書)をメールで配布・回収した。回答数は、日本人学生は10人中8人、留学生は15人中13人であった。

5.1 2019年度前期学生の評価

ふり返しシートは学生自身が対話活動から何を感じ学び取ったかをふり返ってみるのを目的として行ったものだが、本稿ではそれをもとに、2019年度前期に参加した日本人学生と留学生が本ワークショップをどのように評価しているかを見る。

5.2 ふり返りの視点(項目)

ふり返りの項目を以下に示す。

1. 対話を楽しむことができたか〔5点～1点で、できた・できなかったを自己評価する〕
その際に印象に残ったことは何か〔記述式〕
2. 対話を維持させることができたか〔5点～1点で、できた・できなかったを自己評価する〕
維持の成功・困難の要因について設問にそって、記述式で答える
3. 対話のスキルについて〔できた○ まあま△ できなかった×で、自己評価する〕⁷⁾
 - ①「聴く姿勢」になっていたか(目線、体の向き、姿勢など)
 - ②話し手が考えている間、少し沈黙があっても待つことができたか
 - ③うなずきやあいづちなど、相手の話にしっかり反応を示していたか
 - ④話を聴いている間は、次に自分が話すことや別のことを考えたりしないで、相手の話に集中していたか
 - ⑤自分の興味一関心に引きつけて聞かず、相手が伝えたいことが何かをじっくり考えようとしたか
 - ⑥相手の伝えたいことと自分の理解が合っているか、質問や繰り返しをして、時折確認したか
4. このワークショップに参加しての感想・コメント〔記述式〕

5.3 日本人学生・留学生のふり返りの結果と考察—数値から—

まず数値化されたものの平均点を見る。

表3 日本人学生・留学生のふり返り結果

	日本人学生	留学生
1. 対話を楽しんだか	4.6	3.7
2. 対話を維持できたか	3.0	3.2
3. スキル		
① 聴く姿勢	4.8	4.7
② 待つ姿勢	4.5	4.4
③ あいづち等による反応	4.5	4.5
④ 相手への集中	4.5	3.6
⑤ 正確な理解への姿勢	4.5	3.9
⑥ 理解の手立ての実行	5.0	4.1

日本人学生は「対話を楽しむことができた」は5点中4.6で非常に高い。それに比して留学生は3.7点で、日本人学生より1点ほど低い。5.4節で述べるように、留学生のワークショップへの感想・コメントは肯定的なものがほとんど⁸⁾であることから考えると、留学生にとって日本語での対話は言語的ハンディが大きいので、母語話者の日本人学生ほど楽しむ余裕がなかったという解釈が成り立つだろう。

一方「対話を維持できたか」は日本人学生3点、留学生3.2点と、共に低くはないが、高くは自己評価できないということだろう。後述のふり返りの記述から、日本人学生は対話の維持の責務は母語話者である自分達により強いと感じているようで、このことが日本人学生の自己評価の厳しさにつながった可能性がある。

対話のスキルとも言える傾聴や、相手が話しやすくなるような言語・非言語での合図（あいづち、ターンの交替を急がないなど）、理解確認の実行などに関しては、日本人学生は非常に数値が高い。これも、先に述べたように、対話を維持・促進させるのはホスト社会の母語話者だという責任感の高さがふり返りの記述から窺われ、とにかくその手立ては間違いなく実行したということだろう。では結果的に「対話の維持に成功したか」という自己評価になると前述したように、高くない。これは自己評価の厳しさとも言え、対話維持の意識の高さと考えられる。一方留学生は対話のスキルの中で「相手への集中や、正確な理解の姿勢、理解の手立ての実行」は他と比べて数値が低めである。これは言語的ハンディのためなのか、対話を維持させようという意識の高低に関わるものなのかは、さらなる分析・調査が必要だろう。

5.4 ふり返りの結果と考察—記述から—

5.4.1 日本人学生のふり返りの結果と考察

日本人学生の、このワークショップ（留学生との日本語対話活動）への評価は非常に高いと言える。まず、ふり返り項目1.の「印象に残ったこと」は、ほとんどが肯定的⁹⁾なことで、多くは次のコメントに集約される。「自分では考えられない新しい発想を得た」, 「日本語レベルの高低に関わらない、留学生の個性、思考レベルの多様さへの気づき」である。項目4.のワークショップ全体へのコメントでは、「この対話活動の意義の認識」と、「自身の対話力の成長と課題」に関して述べたものが多かった。（以下は、学生の記述のまま。傍線筆者。Jは日本人学生、番号が同じものは同一学生のコメントを表す。）

J1: 相手の日本語、自分の日本語、相手と対等に対話することについて考えさせられました。
また、話す姿勢、聴く姿勢などは、外国人に限らず誰と話す時にも大切なスキルだと思うため、勉強になりました。

J2: 対話をする難しさやそれを克服するための対策などについても考えながら活動できたと実感

しているため、今後の生活でも生かしていきたいと思います。

J3：留学生自身の思考レベルは高いので相手の意見の深堀ができると対話が続いた。

J3：1対1ならまだしも2対1の対話は個人の性格や言語レベルのこともあり調整が大変で、留学生に不愉快な思いをさせてしまった場合もあると思っており、サポーターとしては力不足も感じました。

回答者8人のうち、卒業を間近に控えた2人を除く6人の中で5人が来期のワークショップ参加を望んでいる、とコメントしたことも、このワークショップへの肯定的評価とできるだろう。

5.4.2 留学生のふり返りの結果と考察

留学生が、設問1.の「印象に残ったこと」で多くあげたのは、日本人学生が対話維持のためにしてくれたさまざまな手立てへの感謝である。(Fは留学生を表す。)

F1：日本人学生はいつも私/私たちの言いたいことを理解できるまで聞いた。

F2：相手は非常に親切だと思います。私たちはどのように表現することができない時、私たちが助けることができます。

F3：初対面にもかかわらず、彼は正直に自分の考え方を話し合ってくれて、その誠意がしみじみ感じられます。

このワークショップの留学生は日本語が上級・中級レベルの学生である。彼らは日常会話では、すなわち12節の平田(2012b)で言うおしゃべりのレベルであれば、通常助けは必要としない。しかし、彼らはこの言語的援助に感謝している。その感謝の背景には、下記のふり返り項目4.のコメントに見られるように、「日本人といろいろな問題を話すこと＝日本文化・社会への(リアリティのある)情報」, 「日本人の友人作りの機会」への希求感があり、今回それが多少なりとも満たされたことがあるのだろう。

F4：私たちは日本に留学に来たと言っても、日本人とある話題について考えたり、話し合ったりすることはめずらしいです。この活動を通して、すこしでももっと日本人の考え方がわかるようになり、貴重な体験だと思っています。

F5：友達できるし、日本人と話し機会が増えてきた。いろんな問題も対論できる。いい活動だと思う。

F3：(普段はほとんど日本人と接触がない)・・・「対話活動」のおかげで、近い距離で日本人と考える、意見を交換することができて、大変いい勉強になりました。

F6：日本人と友達になりたい!

F2：先生が私たちに与えてくれた機会を感謝します。この授業をきっかけに、日本人と会話することができます。・・・他国の文化や価値観を知り、視野を広げることができます。日本人と友達になりたい。

本対話活動では、上級話者と言えども、いや上級者だからこそ深い日本文化・社会への理解のためには、このようにホスト社会側(この場合は日本人学生)の適切な言語的さらには文化的援助が必要だということが示された。言い換えれば、対話活動は日本人学生にホスト社会側のなすべきことを考えさせるという教育的意味がある。

6 まとめと今後の課題

本ワークショップの学生評価（学生のふり返り）から、対話活動は日本人学生側が、自身のコミュニケーション能力の質を問い、さらにホスト社会側のなすべきことを考えるという教育的意味があることが示された。それには、日本語が技能としてできることが優位に立つ枠組みを取らない本ワークショップの対話活動の仕かけやオリエンテーションが功を奏したのではと推察される。対話活動の仕かけの一例としては、ホスト社会側の言語や文化を完全にマスターしなければ、参入者をその社会の成員と見なさないというような自文化中心主義に通じる考え方への疑問の提示（巻末資料3）などがある。他の例として、オリエンテーションや対話活動では、日本語をネイティブとして操れることと、コミュニケーション力との差異を自覚させるような事例の提示などを折に触れ行った。ただ、ワークショップで行ったどの部分が、日本人学生にホスト社会側の気づきを促したかは、さらなる証左と分析が必要である。

このような対話活動には、ホスト社会側の日本人学生へのオリエンテーションや事後ミーティングによる指導は不可欠だと教師（中河）は考えていたが、ふり返りからそのような示唆も得られた。「授業後の振り返りも今後、対話をする上で気を付けなければならない点を知ることができ、学びになり有意義でした」(J3)である。

本ワークショップは、上述のように参加した日本人学生の多くにとって、自身の日本語コミュニケーション力のふり返りの契機となり、自身の今後のためにも対話力≒グローバル日本語力の成長が必要であるという認識と、対話の維持・促進にはホスト社会の母語話者側が言語的援助をし文化的配慮をする必要があるという気づきをもたらしたことが観察された。ワークショップは、一定の成果を上げたと言えるだろう。

またこの対話活動を「日本文化C」の留学生のほとんどが今後も望んだことや、対話活動から得た日本文化・社会に関する多面的な情報が、さらに深い理解につながる可能性から、留学生対象の「日本文化」や「現代日本事情」と呼ばれる授業に、日本人学生との対話活動を組み込むことの意義と効果を示したと言える。

「日本文化」という名の授業を、イノベティブな視点と仕かけで2002年度後期より続けてきた。試行錯誤の部分も多いが、今後も本ワークショップを活用して、日本文化の枠を越えてグローバルに意義のある授業を模索し続けていきたい。

注

- 1) 新卒採用の際にもっとも重要視したことを25項目の中から5項目選ぶ。
- 2) このキーコンピテンシーはPISA調査（国際的の学習達成度調査）の概念枠組みになっている。
- 3) 日本語教育における対話活動の実相の整理や対話力とは何かについての議論は、まだ半ばと言えるだろう。
- 4) 国際機構の日本語プログラムの科目は、単位認定は行っていないが、交流協定校からの短期留学生と日本語・日本文化研修留学生に対しては富山大学で単位認定を行う科目と同様の基準で成績評価を行い、学生の帰国時に国際機構長名で履修証明書を発行している。
- 5) 日本人学生、留学生の人数配分によって、日本人学生1人に留学生が2人ということもある。その場合、日本人学生にはさらなる力量が必要になってくる。
- 6) ふり返りシートの設問は日本人学生・留学生とも同じだが、留学生のもののみ振り仮名をふった。
- 7) 項目3は数値化に当たって、項目1の評点にならない、○を5点、△を3点、×を1点とした。今回×を付けた学生は1人もいなかったため、○と△を、それぞれ5点と3点で数値化した。ただし、このやり方は4点、2点の存在をどうするかという点において不正確であり、今後改善していく予定である。
- 8) 肯定的でない感想コメントとしては、「3回はすくなくったと思います。そして、毎回日本の学生がちがいましたから、対話の始めはむずかしいです。」というものが1件あった。

- 9) 否定的ではないが、肯定的とは言えないコメントとして、「日本語を全く話せない状態で富山大学に来た方がいて、とても驚いた。」というものが1件あった。

参考文献

- (1) Freire, Paulo (1979) : 被抑圧者の教育学, 亜紀書房 (小沢有作・楠原彰・柿沼秀雄・伊藤周 訳)
- (2) Bakhtin, M. M.(1988):ことばのテキスト ミハイル・バフチン著作集8, 新時代社 (新谷敬三郎 訳)
- (3) 中河和子・深澤のぞみ・濱田美和 (2003) : 留学生の現代日本事情理解のツールとしての映像と「映像読解教育」の試み, 富山大学留学生センター紀要, 第2号, 33-44
- (4) 多田孝志 (2006) : 対話力を育てる－「共創型対話」が拓く地球時代のコミュニケーション－, 教育出版
- (5) 平田オリザ (2012a) : 対話への指針, 鎌田修・嶋田和子編, 対話とプロフィシェンシー—コミュニケーション能力の広がりともまりをめざして, 凡人社, 28-45
- (6) 平田オリザ (2012b) : わかりあえないことから—コミュニケーション能力とは何か—, 講談社現代新書
- (7) 鎌田倫子・中河和子・後藤寛樹 (2013) : 日本語教育プログラムとエンパワメント評価—困難な日本語プログラムを如何に支援できるのか—, 日本語教育 155号, 95-110
- (8) 堀越勝 (2015) : ケアする人の対話スキル ABCD. ケアする人の対話スキル ABCD, 日本看護協会出版社
- (9) 多田孝志 (2016) : グローバル時代の対話型授業の研究, 兵庫教育大学大学院連合学校教育学研究科 (博士論文)
- (10) 中央教育審議会 (2011) : 今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について,
http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afiedfile/2011/02/01/1301878_1_1.pdf
2019年8月27日
- (11) 一般社団法人 日本経済団体連合会 (2018) : 2018年度新卒採用に関するアンケート調査結果,
<https://www.keidanren.or.jp/policy/2018/110.pdf> 2019年8月27日
- (12) 文部科学省 : OECDにおける「キー・コンピテンシー」について,
http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/039/siryo/attach/1402980.htm 2019年9月3日

サポーターの皆さんへ

富山大学 総合日本語コース/日本語課外補講
18 後期「日本文化C」

担当講師 中河和子 ×××××@×××××.×××

2018/10/24

1. ワークショップの目的

- 1) さまざまな価値観・考え方に触れる→調整力アップ
- 2) 自分の日本語を外から見直す
→わかりやすく魅力的な日本語コミュニケーション力アップ
※日本人とのコミュニケーション力もスキルアップします
※コミュニケーション力は、日本企業が採用時にもっとも重視する力です
(経団連調査 2017 より)
- 3) 日本語を客観的に見るスキル→外国語学習にも役立つ

いろいろなことを対話することで、日本人学生・留学生が共に日本語力をつけていくことをめざします。

さらに、外国人・日本人共に日本社会・母国社会で自分が持っていた既成概念や思い込みを見直す機会にします。

このクラスでは、留学生ではない学生を「サポーター」と呼びます。

■トピック例

新入社員研修、ジェンダー（草食男子）、ステレオタイプ（多角的に見る）、私の〇〇（自己表現）・・・

トピックは、個人的/社会的ニーズや、人間関係の深まり、留学生の日本語レベルによって決めます。

2. 対話力について 活動をする前に考えてみましょう。

1)

問題 次の①と②のどちらが会話、どちらが対話の説明ですか。

- ①あまり親しくない人同士の価値や情報の交換、あるいは親しい人同士でも価値観が異なるときに起こる価値のすり合わせなど
- ②おしゃべり。価値観や生活習慣なども近い、親しい人同士のものが多い。

2)

問題 今、現代人に必要とされているのは①と②のどちらだと思いますか。

問題 日本の企業が、新人社員を採用する時に最も重要とした力についての調査です。
経団連調査（2017年）による

コミュニケーション力（対話力）を一番重要とした会社 （ %）
語学力 を一番重要とした会社 （ %）

3) 対話力には、いろいろな力が必要ですが、本時は基礎力の初めの3つだけあげます。

- ①積極的な姿勢で聞く力
- ②自分の意見を持って、それを効果的に表現する力
- ③相手の意見を、正しく理解するためのさまざまな努力をする

4) どんな場だったら、話やすく自分の力を出しやすいですか。
クラスのルールを考えてみる

3. コマの活動の流れ

活動の流れとサポーターの役割

毎回1つのトピックがあり、そのトピックを展開していくための流れがあります。

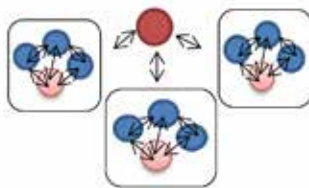
講師の役目

全体を進行する。個々の活動を活性化していくファシリテーター（facilitator）。
全体での活動とグループでの活動を交互に繰り返しながら、話題を広げたり、深めたりしていきます。

サポーターの役目

グループ内で対話を援助し、相手の言いたいことを引き出す。
最後に、まとめの活動を行う。

教室内のイメージ



4. 対話するときに注意すること

(1) 態度・心理面で注意すること

主体的に聞く・話す

- ・相手に関心をもつ ⇒ 楽しむ・おもしろがる
- ・全身でしっかりと聞き(傾聴)、相手の気持ちに共感し、受け入れる(受容)
- ・相手の話を引き出す、話と話をつなぐ
- ・自分のこと、意見も話す。ただし、「日本事情など教えてあげる」姿勢ではない。

(2) 言語面で注意すること

・やさしい日本語で話す

*ただし、相手のレベルに応じた話し方をする⇒これには経験が必要ですが。

・伝わりやすい言葉・表現を使う

意外と難しい表現の例：漢語、敬語、カタカナ

・筋道を立てて話す

(3) その他の注意点

・身近で具体的な例を挙げる

・「おいてきぼり」を作らない。グループ全体にも配慮する。

(4) よくある質問

Q1：相手がこちらの言ったことをわかっているかどうか、どうやったらわかるか

Q2：相手が何か言おうとしているが、日本語にならない、あるいは十分な日本語にならないとき、どうすればいいか

Q3：相手が間違ったときどうすればいいか

資料2 ふり返りシート

富山大学 総合日本語コース／日本語課外補講「日本文化C」 担当：中河和子

「国際人としてのグローバル日本語」ワークショップ＝対話活動 ふり返りシート

名前 _____

◆できるだけ1～3回全体（5/15, 6/12, 7/10）を思い出して書いてください。

1 対話を楽しむことができましたか。（できた 5 4 3 2 1 できなかった）
特に、印象に残ったことは何ですか。

2 対話を続ける（維持する）ことができましたか。（ 5 4 3 2 1 ）

・できたと思う人：なにがあったからできたと思いますか。

・あまりできなかったと思う人：それは、どうしてですか。何が大変でしたか。

・相手の言っていることがわからなかった時、その内容を理解するための工夫や努力をしましたか。
それはどのようなものですか。

・自分の言っていることが理解されなかったとき、理解してもらおうという工夫や努力をしましたか。
それはどのようなものですか。

3 対話のスキルについて

今回は「聴くスキル」についてのみ、ふり返ってください。

（できた○ まあまあ△ できなかった×）で答えてください。

①「聴く姿勢」になっていましたか？（目線、体の向き、姿勢など）（ ）

②話し手が考えている間、少し沈黙があっても待つことができましたか？（ ）

③うなずきやあいづちなど、相手の話にしっかり反応を示していましたか？（ ）

④話を聴いている間は、次に自分が話すことや別のことを考えたりしないで、相手の話に集中していましたか。（ ）

⑤自分の興味・関心に引きつけて聞かず、相手が伝えたいことが何かをじっくり考えようとしていましたか。（ ）

⑥相手の伝えたいことと自分の理解が合っているか、質問や繰り返しをして、時折確認しましたか。（ ）

4 その他、このワークショップ＝対話活動に参加しての感想・コメントを何でも書いてください。

*実際に配布した資料には、一部の漢字にふりがなをつけてある。

考えてみよう 留学生と日本人学生

2019/07/10 中河和子

1. 留学生 A さんの相談

留学生センターの事務スタッフの田中さん（45才）は、留学生のAさんから、次のような相談を受けました。

「日本人学生と、なかなか親しくなれない。せっかく日本に来たので日本の事を色々学んだりするためにも、日本人の仲のいい友達がほしいのに。」

2. 留学生と日本人学生、それぞれの立場から「率直に」考えてみてください。

◆今回は、「自分の日本語が上手じゃない」という障害は、大きく考えないことにしましょう。

「自分の日本語が上手じゃないことが一番大きな障害だ」と言う外国人がいます。本当にそうでしょうか。この「日本文化」のクラスくらい日本語が話せる外国人と日本人の仲良し（親しい友人）は、多くはないけれど、確かにいます。また反対に、日本語が上手だけれど、日本人の友達がほとんどいない外国人も多くいます。日本語の上手さは、実はそんなに大きな問題ではないと、言えます。

今回は、「自分の日本語が上手じゃない」という障害は、大きく考えないことにしましょう。

参考：自文化中心主義（ethnocentrism）＝その国の言葉や文化が全部わからなければ一人の市民・人間として認めない人々、すなわち自分の国が一番えらい、正しいと思っている人々は、自文化中心主義（ethnocentrism）と呼ばれます。

3. まず、あなたにとって、友人の「大事な条件・ポイント」を考えてみましょう。

現代は、同国人同士でも、親しい友人はできにくい時代と言えます。あなたの友人経験から、あなたにとっての友人の「大事な条件・ポイント」をあげてください。

最初から「明るい人」「積極的な人」という形容詞をあげるより、自分の友人経験を話して、そこから「自分が友人に選んだ人/選ばなかった人は、こんな人だった」と、ボトムアップ（bottom up）で考えた方が、はっきりポイントが見えます。

*実際に配布した資料には、一部の漢字にふりがなをつけてある。



3. で考えた「条件・ポイント」に合う人は、留学生にも日本人学生にもたくさんいるはずなのに、留学生と日本人学生の仲良し（親しい友人）は、まだまだそんなにいないように思います。

何が障害になっているのでしょうか。何が理由でしょうか。

4. それぞれの立場から、考えてみてください。

留学生へ

1) あなたは、留学生のAさんの相談のようなことを感じたことはありますか？あるとしたら、どうしてなかなか親しくなれないと思いますか？ 以下の点を参考にして、考えてみてください。

①考えられる理由

- ・自分個人に関わる理由
- ・知り合う機会の少なさや、習慣や制度（しくみ）に関わる理由

②その他

2) あなたは、留学生のAさんのようなことを感じたことはありますか？

ないとしたら、どうしてですか？ 何でも言うてみてください。

例：同国人という方が気が楽だから。

お互い忙しくて、友人を作る暇がない。

日本に来たのは、友人を作るためではなく、研究と学位（Master's Degree, PhD. など）を取るためだから。

日本人学生へ

3) あなたは、「日本人学生と留学生がなかなか親しくなれない」という留学生Aさんの意見を、どう思いますか。それに関して、以下の点を参考にして、考えてみてください。

①考えられる理由

- ・自分個人に関わる理由

②その他

4) グループで、外国人と日本人が仲良しになるときに、障害になっていると思うことを皆であげてください。

*実際に配布した資料には、一部の漢字にふりがなをつけてある。

5. 発表に向けて

1) か2) を話し合っ、発表してください。

1) どんな人だったら、友達になりやすい？

外国人と日本人が、友達になることは、そんなに簡単なことではないかもしれません。あなたは、どんな話し方、態度、考え方の人だったら、まず話ができ、それから友達になっていけると思いますか。

外国人は日本人について、日本人は外国人について、今まで話したことや自分の経験などをもとに考えてください。

2) あなたが、留学生センターの田中さんだったら、留学生 A さんの相談を受けて、どんなことをやってみますか。または、個人としての行動でもいいです。

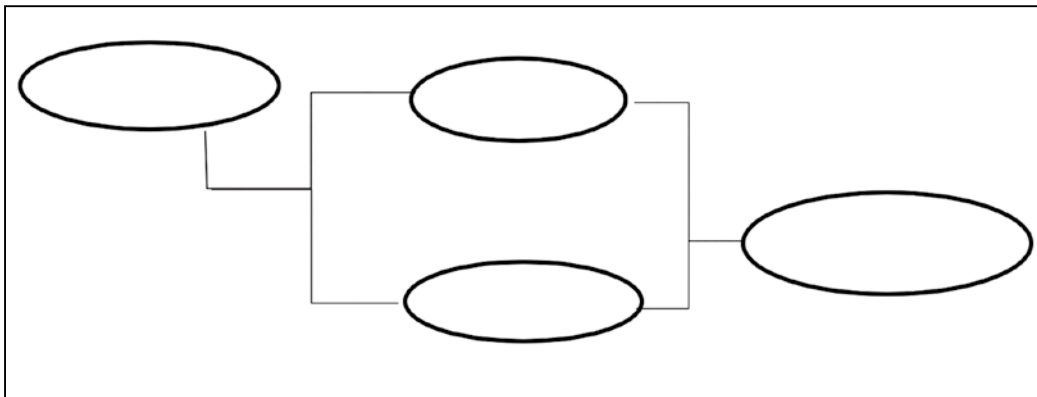
発表に際して

★下のように構成 (structure) を考えましょう。

○ は、キーワードの付箋紙が入ります。

これが小さい話題にもなります。

構成例：



*実際に配布した資料には、一部の漢字にふりがなをつけてある。

フリー音声アシスタントを活用した自律発音練習の試み

水田 佳歩

Foreign Language Voice Training with a Speech Recognition System

MIZUTA Kaho

要 約

本稿は、スマートフォンの音声認識アプリを用いた自律発音練習で得られた課題を基に、初～中級の日本語学習者および中国語学習者を対象に、「siri」や「Google アシスタント」等のフリー音声アシスタント機能を活用した自律発音練習の実践活動を紹介するものである。音声アシスタントという身近なスマートフォンの機能を活用することで、操作に躓くことがなく、学習者自らの音声認識されたか否かわかりやすい指標で、学習者の発音に関する自己課題発見・解決を支援するだけでなく、教師側にも文節・プロソディーの指導成果が得られやすい手法であることが分かった。また、日本語のみならず中国語でも成果が得られたことから多言語への汎用性が期待される。今後は音声アシスタント機能を活用した自律発音練習の成果を定量的に評価していくため、量的・質的調査を実施していくこととしている。

【キーワード】 発音, 自律発音練習, 学習方法, フリー音声アシスタント機能

1 緒言

筆者および共同研究者たちは、中級日本語学習者にスマートフォンの音声認識アプリを発音正誤判断ツールとして学習者に自律発音練習を行ってもらい、自ら課題を発見し改善する実践に取り組んできた。しかし、アプリの操作方法そのものに戸惑い、本来の練習活動が巧くいかなかった学習者が多くいたため、手応えを感じつつも、期待する練習効果には達していなかった。そこで、今回は実践方法を改善し、フリー音声アシスタント機能を自律的かつ継続的に発音矯正を行うツールとして活用し、発音指導の時間が乏しいプログラムの中で学習者がこれを用いて自らの発音に対する自己課題を発見し、その改善を目指す実践を試みた。さらに、本手法が中級学習者のみならず、初級日本語学習者および多言語学習への汎用性について検討した。

2 実践対象・方法

2.1 先行研究での課題と改善方法

以前早稲田大学日本語教育研究センター「総合日本語4（中級）」クラス在籍者15名を対象に、プレゼンテーション発表原稿の読み上げ練習において、スマホ音声認識アプリを用いて、アプリで生成された文を発音正誤判断の目安とした原稿読み上げ練習を行い、自ら課題を分析・発見するよう指導し、課題に対する改善を促した。

授業の事後アンケートの結果から、どの程度の距離でスマホを持てば巧みに認識するのかなどスマホ音声認識アプリの操作方法に戸惑う学習者が多かったことがわかった。そこで、次の改善方法を検討した。

- ① クラス内で最も使用されていたスマートフォンを対象に、日本語のインストール、キーボード

の設定、音声アシスタントの使い方の手順を図示すること。

- ② ピアワークで事前準備をしてもらい、学習者間で協力し合い準備をさせること。
- ③ 母語で音声アシスタントを使用する時間を設け、音声アシスタントの使用に慣れてもらうこと。
- ④ 母語での使用に慣れてから、あいさつ（例：「こんにちは」）→定型文（例：「○○と申します。どうぞよろしくお願ひします。」）→短いセンテンス（学習者に自由に考えてもらう）という順で日本語の音声アシスタントの使用に慣れてもらうこと。
- ⑤ 携帯電話を所持していない学習者学習者のため、パソコンで使用可能な音声アシスタントの使用方法等についても同様に準備し、必要に応じて配布すること。

2.2 実践対象

2019年春学期、筆者は自ら担当した留学生を対象とした日本語クラスにて実践を行った。

初級	総合日本語	4クラス	44名
	口頭表現（技能）	5クラス	57名
中級	総合日本語	1クラス	17名

初級日本語学習者 103名、中級日本語学習者 17名、計 120名を実践対象とした。

2.3 実践方法

2.1で提示した改善点を踏まえ、それぞれの授業において自律発音練習を行う方法を次の3ステップに基づき実践した。

ステップ1：準備段階

母語での音声アシスタントの使用を踏まえ、教師の説明および提示したインストール手順の図示に従ってペアまたはグループで日本語音声アシスタントの準備をしてもらう。音声アシスタントの使用に慣れてもらう。

ステップ2：指定文章での共通練習

まず、教科書の本文を扱う。フリー音声アシスタントを用いて、各自に教師の指定した教科書の本文を音読させ、認識率を確認した。次に、その認識率を基に、CDのモデル発音を聞かせ、教師より文節・プロソディーを意識した音読指導を行った。その後、各自がCDのリピートやシャドウイングし、文節・プロソディーを意識した音読練習を行い、音声アシスタントを用いて再度認識率を確認した。

ステップ3：個人化した自律練習

教科書での練習に習慣化してから、期末発表に向け学習者各自に発表原稿を作成させ、オンライン日本語アクセント辞書(OJAD)の「韻律読み上げチュータズキクン」機能を用いてモデル発音の作成・再生方法を紹介したうえ、各自にOJADおよびフリー音声アシスタントにより認識率の確認を行う自律発音練習を行った。

なお、今回の実践で任意テキストのモデル発音を提示する際、使用したオンライン日本語アクセント辞書(通称OJAD <http://www.gavo.t.u-tokyo.ac.jp/ojad/>)は日本語教師・学習者のために開発されたオンライン日本語アクセント辞書である。約9,000の名詞と3,500の用言の基本12活用、約42,300のアクセントを調べることができる。更に任意のテキストに対して、特定の語に強いフォーカスを置かず読み上げた際に予想されるピッチパターンを表示することもできる。現在、日本語を含め、16言語での全文説明が対応できる。



図 1 : OJAD 扉ページ

OJAD に「単語検索」「動詞の後続語検索」「任意テキスト版」「韻律読み上げチュータスズキクン」という 4 つの機能がある。

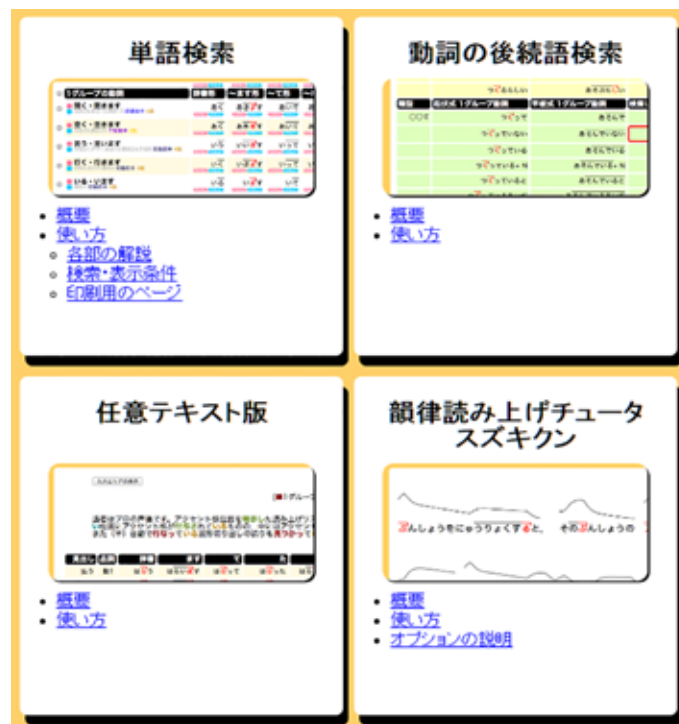


図 2 : OJAD 4 機能の紹介

今回の実践で使用したのは「韻律読み上げチュータスズキクン」（略称「スズキクン」）という機能である。テキストボックスに任意テキストを入力し、デフォルト表示のまま「実行」すると、下記の図3のように出力される。アクセント型が自動的に付けられ、図の右上にある「作成」をクリックして音声を聞くこともできる。また、聴覚のみならず、視覚的にもアクセントやイントネーションが把握できる。自動生成した音声は、図3の右上の「話者」のところで女性2名（F 1 と F2）、男性2名（M1 と M2）から、話速は3種類（Slow, Normal, Fast）から選べる。また、自動生成した音声を PC に保存してから聞くこともできる。



図 3：OJAD 任意のテキストの用例

ただし、開発者の紹介によると、「スズキくん」は機械が学習して推定したアクセントを付与しているため、精度は約 90～95% とのことである。なお、読み方が複数ある語彙・感情表現の識別能力が欠けていること、多少機械音声の不自然さが残ること、自動的に句切ることができないので使用者が自ら句切りを入れないといけないことといった弱点があるので、使用する際、教師から詳細な説明と使用指導が必要である。今回の実践では、個人差はあるが、参加者全員が OJAD の機能および使用方法を把握するのに、30 分前後必要だった。

3 実践結果・考察

授業での発音指導および学習者の自律学習を経て、各学習者に聞き取り調査を行ったところ、次のことがわかった。

まず、教室活動においては、学習者が自らの音声音声アシスタントを通して正しく認識されか否かに興味を持ち、誤認識された際にはその原因を内省する意識を強く感じることができた。また、初級クラスで漢字が苦手な学習者から「Google 翻訳」の評価が高かった。その理由として「音声アシスタント機能」と「翻訳機能」を併用することで、母国語や英語訳を付けることができ、漢字がわからなくても自分の発音が正しく認識されたかどうかの回答が得られた。

そして、スマートフォンの方が自宅でも手軽にできるという回答が多数得られた。前回の実践と比べ、フリー音声アシスタントがより身近なツールになっていることがわかった。このことから音声アシスタントは自律発音練習のツールとしてより広範囲での活用が期待される。

また、今回、音声アシスタントによる文節・プロソディー指導前後の認識率を比較することで、文の区切りの重要性を確認し、文節を意識した練習に取り組む学習者が増加した。さらに、音声アシスタントに認識されたかどうかといったわかりやすい指標のおかげで、指導者側も指導の効果を実感しやすい手法であると感じた。

学習者の協働によって、クラスメイトから母語によるインストール方法等の説明を受けることができ、初級日本語学習者でもスムーズに事前準備ができるようになった。また、母語でフリー音声アシスタントを使用することによって、フリー音声アシスタントに慣れることができ、日本語での操作が従前の実践方法よりスムーズに進行できたように見受けられた。今回の実践からは、初級段階からフリー音声アシスタントを用いた自律発音練習の実施が可能ということがわかった。

ただし、今回実施対象とした初級日本語学習者と中級日本語学習者の人数に差があったため、両者の学習効果等の比較には至らなかった。

4 多言語学習への汎用の可能性

なお今回、日本語のみならず、中国語学習者にもフリー音声アシスタントを用いた自律発音練習の指導を行い、多言語学習への汎用性の検討を試みた。

実践対象は筆者が担当した中国語講座の受講者で、中国語初級クラス 2 クラス、計 21 名、中級クラ

ス1クラス13名である。社会人対象のクラスであるため、受講者は10代から60代までと日本語クラスに比べ幅広い年齢構成である。フリー音声アシスタントの使用について、年齢やスマートフォンへの習熟度合いにより所要時間が少々長くなったが、教師および学習者間の協働によって最終的に解決できた。

実施方法は日本語とほぼ同様であるが、学習者が各自に作成した発表原稿について、OJADのようなフリーテキスト認識機能を持つ無料発音学習ツールが見つからなかったため、教師より発表原稿を録音し、モデル発音として提示した。

フリー音声アシスタントによる学習者の発音の認識率は、日本語に比べ、中国語の認識率は若干低かった。これは、文節・プロソディーの改善のみでは認識率を改善できず、単音レベルの発音指導と練習が日本語より重要であるためと考えられる。そして、中国語にはOJADのように、アクセントとイントネーションを図示する音声学習ツールがないため、学習者は発音およびイントネーションを練習する際、視覚的ヒントが日本語学習者より少なかった。使用可能なツールの制限により自律学習への応用難易度が高いことが分かった。

学習者は年齢を問わず、日本語学習者を対象とする実践と同様、自らの発音が音声アシスタントに正確に認識されるか否かに興味を示し、誤認識された際にはその原因を探るよう内省しようとする意識を強く感じ、本手法の中国語学習への応用に手応えが得られた。日本語のみならず、他言語学習への汎用性が期待される。

5 今後の課題

今回の実践結果から、音声アシスタントを活用した自律発音練習は身近なスマートフォンを活用したことで、前回の実践と比較して操作面で躓くことがなく、学習者自身による課題の発見と解決に一定の成果が見られた。今回は学習者への口頭による確認や筆者自らの主観的な感覚に基づくため実践紹介に留めるが、今後、より具体的音声アシスタントを活用した学習効果を明確にするためアンケート調査の実施および音声アシスタントを用いた自律学習前後の音声認識率の変化について定量的に評価したいと考えている。

さらに、各授業終了後、継続的に音声アシスタントを用いた自律発音練習を行ったかについても併せて追跡調査を行い、継続的な自律発音練習を実施するための要点や注意点を調査・整理したい。

なお、現在無料で入手できる音声アシスタントおよびオンライン日本語アクセント辞書(OJAD)には共通する欠点があり、感情音声については対応していないため、会話文への応用は教師からの個別指導が欠かせないと考えられる。音声認識ツールの改善を期待しつつ、初級学習で欠かせない会話文の自律的発音練習の方法を引き続き探していきたい。

参考文献

- (1) 中川千恵子・中村則子・許舜貞(2009)『さらに進んだスピーチ・プレゼンのための日本語発音練習帳』ひつじ書房
- (2) 杉本美穂・水田佳歩・奥村恵子(2017)「スマホ音声認識アプリを用いた自律発音練習—自己課題発見から自律練習への試み—」『早稲田日本語教育実践研究』第5号



年報

2018年4月～2019年3月

1. 交流部門報告 (2018年4月～2019年3月)

バハウ サイモン ピーター
副島 健治

1 はじめに

富山大学留学生センター(1999年4月1日設置)が発展的に解消して、2013年10月1日に国際交流センターと名称を変え、従前の留学生センターの富山大学に在籍する外国人留学生に対する日本語教育、日本での生活と修学に関わる指導に加えて、外国人留学生と日本人学生との交流、地域との交流、富山大学の学生を海外に送り出すことなど、その役割や機能、特に専任教員の業務は大きく拡大した。そして、2018年4月の改革によって、現在の「国際機構」となり現在に至っている。

本報では、2018年4月～2019年3月における交流部門に関わる報告をする。

2 外国人留学生に対する修学・研究上、生活上及び異文化適応上の指導・助言、および富山大学の学生の海外留学にかかる支援

コンサルテーションアワーを毎週火曜日と木曜日に設定し、富山大学で学ぶ外国人留学生、海外留学を目指す学生への指導・助言を機構教員が行った。また、設定した日以外においても、学生の事情を考慮し相談を受けた。相談内容によって、必要があれば、各学部、留学支援課や学生支援課の「学生相談窓口」等と連携して対処した。

相談者数は125人で、面談の件数はのべ255件であった。255件の内訳は、外国人留学生に対する指導・助言(55件)、日本人学生に対する指導・助言(181件)、その他(富山大学教職員、卒業生、地域住民等から)の相談への指導・助言(19件)であった。

海外留学相談については、機構棟1階の「談話室」に資料を置いて海外留学を希望する学生に情報の提供を行うとともに、海外への留学を希望する学生の相談にのっている。

海外留学を希望する学生の相談における主な希望留学先は、アメリカ、カナダ、イギリス、オーストラリア、ニュージーランド、アイルランド、フィンランド、スイス、フランス、オランダ、タイ、フィリピン、マレーシア、韓国、台湾、中国、南アフリカ共和国等であった。

相談者の内訳は以下の通りである。

相談者数：126人

(内訳) 人文学部(48人)、人間発達科学部(15人)、経済学部(19人)、理学部(11人)、工学部(10人)、理工学教育部(9人)、医学薬学教育部(14人)

3 異文化間理解教育にかかる活動および外国人留学生と日本人学生の交流推進にかかる活動

(1) スタディ・エクスカージョン

国際機構が主催して、毎学期、日本文化あるいは富山の文化への理解を深めるとともに外国人留学生と日本人学生との交流をはかる目的で、県内の文化施設等を見学するスタディ・エクスカージョンを実施している。2018年度は、以下の通りである。

・前期のスタディ・エクスカージョン

<実施日・見学場所>

2018年4月20日(金) 天気：晴れ

砺波チューリップ公園

移動手段：バス

<参加者数>

外国人留学生	28人	
日本人学生	4人	
教職員	6人	合計：38人

<実施日・見学場所>

2018年5月18日（金） 天気：晴れ
富山市民俗民芸村
移動手段：バス

<参加者数>

外国人留学生	4人	
日本人学生	2人	
教職員	2人	合計：8人



2018年5月18日（金）（富山市民俗民芸村にて）

・後期のスタディ・エクサカーション

<実施日・見学場所>

2018年11月22日（木） 天気：雨
富山市民俗民芸村
移動手段：バス

<参加者数>

外国人留学生	8人	
日本人学生	1人	
教職員	2人	合計：11人



2018年11月2日（木）（富山市民俗民芸村にて）

砺波チューリップ公園へのエクサカーションには、主にチューリップ花卉栽培とゆかりの深いオランダのライデン大学からの留学生たちをはじめとして多くの留学生たちが参加した。

富山市民俗民芸村へのエクサカーションでは、施設のボランティアの方の案内（説明）を受けることができることがあり、2018年度は2回とも案内していただくことができた。参加者数は、その時の大学の授業や他のイベントの実施と重なるなどした場合は少なくなってしまうが、2018年度の富山市民俗民芸村へのスタディ・エクサカーションのように、参加者数が少ないときは少ないなりに、案内の方の説明を間近に聞いて質問したりすることができ、中身の濃いものとなった。また、エクサカーションでは、出来るだけ日本人学生と外国人留学生が交流しやすい友好的な雰囲気大切にされた。

スタディ・エクサカーション実施後にアンケートを実施したが、アンケートの結果を見ると、「とても楽しかった」「また参加したい」などの感想が多く、「不満」と答えた者はゼロであった。また「他にいきたいところ」として立山などを提案する意見も見られた。

(2) ホームビジットとホームステイ

国際機構では、日本語研修コースで学ぶ研修留学生を対象として、異文化体験学習の一環として、日本の家庭に滞在するホームビジット（日帰り）またはホームステイ（1泊2日）を実施している。2018年度は、6月2日（土）-3日（日）に射水市のご家庭でホームステイが実施できた。

(3) 外国人留学生と日本人学生の交流のためのパーティー

国際機構棟1階の談話室は外国人留学生と日本人学生が休み時間に昼食を食べながら語り合うなど、日常的な交流の場となっている。加えて、外国人留学生のサポートを活動の目的とする大学の学生サークル「パートナーズ」(後掲)が、日本人学生との交流のために下のような「交流会」を企画し実施した。

<日時・参加者数>

2018年 4月25日(水)15:30～17:30	Welcome Party	参加人数:45人
2018年 6月27日(水)15:30～17:30	Farewell Party	参加人数:25人
2018年10月24日(水)15:30～18:00	Welcome Party	参加人数:40人
2018年12月19日(水)15:30～18:00	クリスマス Party	参加人数:35人

4 関係団体との連携と協力

(1) 地域における各種行事への協力

県内の教育機関で行われている異文化理解教育や自治体や公的機関等が主催する国際交流行事、地域の各種団体等が主催するその他の行事等において、その要請に基づき、講演や参加依頼・協力依頼があった場合は、教員あるいは留学生が協力をしている。

2018年度国際機構教員が直接参加した主な外部団体の国際交流行事

国際交流行事	期日	主催団体	内容
国際交流フェスティバル	11月11日(日)	富山市民国際交流協会	参加
新年交流会	2019年1月20日(日)	富山市民国際交流協会	参加

学生の参加協力した国際交流団体および行事内容については、本誌の「2018年度外国人留学生と地域との交流状況」を参照されたい。

(2) 関係団体等との連携

国際機構と関係諸団体との連携と協力の関係は大変重要であり、そのような意味において、必要に応じて適宜情報交換している。

5 各種情報の提供

全学の留学生を対象に、留学生活に関わる情報を提供し、地域の交流団体等が主催する行事等の案内を国際機構棟1階の談話室に掲示している。

6 オリエンテーション

(1) 新規来日新入留学生のためのオリエンテーション

学部、総合情報基盤センター、国際部留学支援課、学務部学生支援課等の協力により、各学部のオリエンテーションとは別に、新規来日留学生のためのオリエンテーションを実施した。学部新入留学生だけではなく、大学院留学生、さらに在學生で過去に本オリエンテーションに参加していない外国人留学生も対象とした。

[前期]

<実施日時・場所>

日時:2018年4月3日(火)9:30～(部局ごとに終了)

場所：(五福キャンパス) 共通教育棟D 11 教室
(杉谷キャンパス) 看護学科研究棟 11 教室
(高岡キャンパス) B 1 棟 116 教室

<対象者>

2018年4月入学新入外国人留学生(非正規生含む全員)

※ただし、過去にオリエンテーションに参加した学生(内部進学者等)を除く。
在学生在で、過去にオリエンテーションに参加していない外国人留学生も対象。

<参加者>

学部生： 27人(うち11人は非正規生)

大学院生： 41人(うち8人は非正規生) 計： 68人

<オリエンテーションの主な内容>

<全体> 9:30～10:50

- 1) 生活上の留意事項について(国際機構)
- 2) コンピュータ・ネットワークの不正利用, 知的財産等の取扱いについて
(総合情報基盤センター)
- 3) 学生相談窓口について(学生支援センター)
- 4) 授業料納入, 授業料免除制度, 学研災等について(学務部学生支援課)
- 5) 各種奨学金, 国民健康保険料補助申請について(国際部留学支援課)
- 6) その他

<学部ごと> 10:50～12:00

[後期]

<実施日時・場所>

日時：2018年10月17日(水) 16:30～(部局ごとに終了)

場所：(五福キャンパス) 共通教育棟D 11
(杉谷キャンパス) 看護学科研究棟 11 教室

<対象者>

2018年10月入学新入外国人留学生(非正規生含む全員)

※ただし、過去にオリエンテーションに参加した学生(内部進学者等)を除く。
在学生在で、過去にオリエンテーションに参加していない外国人留学生も対象。

<参加者>

学部生： 41人(うち40人は非正規生)

大学院生： 36人(うち8人は非正規生) 計： 77人

<オリエンテーションの主な内容>

内容は前期のオリエンテーションとほぼ同様。

(2) 学部新入生のための時間割作成オリエンテーション

入学後間もない学部新入留学生のために、時間割作成の支援として、学部ごとの先輩の留学生が各新入留学生に履修の仕方を個別にアドバイスするという形式でオリエンテーションを実施した。

<実施日・場所>

2018年4月6日(金) 17:30～19:00 共通教育棟1階 C11 教室

<対象者>

学部に新入学した留学生

＜参加者数＞

新入留学生 12人, 協力した先輩留学生 13人 (計: 25人)

7 日本人学生の留学に関する啓発にかかる活動

(1) 「留学のための教養講座」開講

2015年度においては、海外留学を目指している富山大学の学生を対象として、国際交流センター（当時）主催の夏季セミナーを2回開催し海外への留学の啓蒙をはかった。その実績を踏まえ、2016年度、2017年度に教養教育のコロキアム科目（水曜日3限目、単位は出ない）として「留学のための教養講座」を開講した。2018年度前期においてもコロキアム科目「留学のための教養講座」を実施し、後期には国際機構の交流部門の講座として国際機構棟2階の講義室3において「留学のための教養講座」（水曜3限）、「多文化交流活動講座」（水曜4限）を開講した（いずれも単位は出ない）。講師は国際機構の交流部門教員が担当し、受講者数は、前期5人、後期5人であった。

(2) 人間発達科学部の専門科目「国際交流活動論」

2016年度、2017年度に続き、2018年度も後期において人間発達科学部の専門科目「国際交流活動論」（コーディネータ：人間発達科学部 橋爪和夫教授）の講義を国際機構の教員が担当した。時期は冬休みから1月にかけての集中講義とした。

講義内容は平成30年度のシラバスに詳しいが、いずれもグローバル人材育成に視点を置いた「日本（語）文化」「留学」「異文化理解」をキーワードにしたものであった。また、「国際交流活動論」においては、特に卒業後、初等・中等教育に携わる可能性のある学生が多かったため、昨今の教育現場に外国人子弟が少なくないという状況を鑑みて、日本語教育の視点から講義する部分も多かった。

「国際交流活動論」の受講者数および内訳は以下の通りである。

27人（全員が人間発達科学部の学生であった。）

学年内訳：4年生（13人）、3年生（4人）、2年生（10人）

8 その他

(1) 国際交流の学生団体への助言

富山大学の国際交流の学生団体（名称「Partners」）の活動への助言を行った。

9 おわりに

国際機構は、その役割を果たすために本学の関係者をはじめとして、学外の諸団体、地域の方々の温かい理解と協力、多大な支援を頂いており、そのことについて、まずはこの誌面を借りて篤く感謝の意を表したい。

また、冒頭に述べたが、1999年4月に設置された富山大学の留学生センターは、大学の組織改革により発展的に解消し、2013年10月に国際交流センターとなり、さらに2018年4月に全学的機能拡充のため国際機構と名称を改めた。留学生センターと呼ばれていた時期の従来の役割だけでなく、富山大学の学生の海外への送り出し、外国人留学生と日本人学生との交流、地域との交流など、さらには全学的意味においての大学の国際戦略の中心的役割を担うものとして位置付けられた。今後の国際機構に課せられたミッションは大変重いと言える。ただし、配置教員数は従前のままで予算的にも漸減傾向にあり、その役割を果たすための課題も見えてきている。限られた人材で限られた予算等と向き合いながら、富山大学のグローバル化を見据え、未来に向かって全学的な見地から地道な努力をしていかなければならないといえる。

2. 教育部門報告 (2018年4月～2019年3月)

田中 信之
小木曾 左枝子
濱田 美和
副島 健治

国際機構では、富山大学に在籍する外国人留学生・外国人研究者のための日本語プログラムとして、日本語研修コース、日本語課外補講、総合日本語コース、日韓共同理工系学部留学生プログラム、これら4つを提供している。2018年度は、前期、後期ともに日本語研修コースと日本語課外補講と総合日本語コースを開講した。日韓共同理工系学部留学生プログラムについては、2018年度は学生の配置がなかったため、開講しなかった。

2018年度の日本語プログラム全体の受講者数は、前期が79人、後期が86人だった。各日本語プログラムでは専任教員がコーディネーターを務め、受講登録や成績に関わる業務を行った。また、日本語プログラムの科目の大部分は複数プログラムの合同授業となっているため、初級、中級、上級クラス別の担当者（専任教員）を設け、クラス運営を行った。毎日の授業内容と学生の出欠状況を記録・閲覧できる「授業記録システム」を活用して受講者の学習の進捗状況を把握し、日々の授業に取り組んだ。学期末にはクラス別に授業アンケートを実施し、日本語プログラム講師ミーティングにおいてアンケート結果を共有することにより、授業改善を進めた。日本語プログラム以外には、留学生の日本語学習を支援するためのサイト「日本語学習支援サイト RAICHO」の運営を行った。

2018年度より、新たに教養教育院と連携した英語授業が開始された。短期留学プログラム事前英語研修と、留学を考えている学生を対象とした「留学試験対策講座」と「留学準備コース」が国際機構の科目として開講された。また、「異文化間コミュニケーション」も教養教育院との連携科目として開講された。

以下、日本語研修コース、日本語課外補講、ライデン大学短期日本語研修プログラム、総合日本語コース、日本語プログラム授業アンケート、日本語学習支援サイト RAICHO の順に活動状況を報告する。

日本語研修コース報告（2018年4月～2018年9月）

田中 信之

1 はじめに

大学院入学前予備教育日本語研修コースは、主として、文部科学省によって配置される大使館推薦国費研究留学生および教員研修留学生を対象とした日本語集中コースで、毎年4月と10月に開講し、各期15週間75日のコースを提供している。1999年10月に富山大学国際機構の前身である留学生センターが開設され、第1期日本語研修コースが開講した。2013年10月に留学生センターが改組、国際交流センターが設置された。2016年度から2017年度は大使館推薦国費研究留学生および教員研修留学生の配置がなかったため、日本語研修生は在籍しなかった。2018年には国際交流センターが改組、国際機構が設置され2018年9月に第34期生を送り出した。2018年度後期は教員研修留学生が配置され、日本語研修コースが開講されたが、コース開始直後、一身上の都合により辞退、帰国することとなった。本稿では2018年前期の第34期について報告する。

2 受講者

第34期は大使館推薦の国費研究留学生1人が受講した。修了者は表1のとおりである。

表1 日本語研修コース修了者（第34期）

期	名 前	国 籍	指 導 教 員
34	バットセンゲル ノミン エルデネ	モンゴル	富山大学 森田 洋行 教授

3 コース担当者

国際機構専任教員5人（小木曾左枝子，副島健治，田中信之，バハウ サイモン ピーター，濱田美和）と、非常勤講師4人（中野香保里，藤田佐和子，要門美規，横堀慶子）が授業を担当し、田中信之がコースのコーディネートをを行った。

4 コーススケジュール

第34期は、2018年4月10日（火）に授業開始、同年9月28日（金）に修了式を行った。授業は15週間75日の集中授業である。各期の主なスケジュールは以下のとおりである。

<第34期>

2018年 4月 4日（水） コースオリエンテーション，ひらがな練習
4月10日（火） 授業開始
4月20日（金） スタディー・エクスカージョン（となみチューリップフェア）
5月18日（金） スタディー・エクスカージョン（富山市民俗民芸村）
6月 2日（土）～6月 3日（日） ホームステイ
7月30日（月） 授業終了
9月28日（金） 修了式

5 コース内容

授業は月曜日から金曜日まで1日3コマ、あるいは2コマであった。レベルは初級で日本語の授業は「文法 A1」「聴解・会話 A1」「漢字 A1」の計3科目である。これらは日本語課外補講の授業と合同で開講される授業である。日本語科目は、基本的な日本語文法を習得し、運用できるようになること、文字についてもひらがなやカタカナ、基本的な漢字を習得することを目的として授業を行った。また、独自開発教材を用いて、正しい日本語の発音を身に付けるための指導も行った。

[使用テキスト] (主なもののみ)

<初級クラス>

- 文法 A1 『みんなの日本語初級 I, II』第2版 (スリーエーネットワーク)
『みんなの日本語初級 I, II 書いて覚える文型練習帳』(スリーエーネットワーク)
『毎日の発音練習』(独自開発テキスト)
- 聴解・会話 A1 『みんなの日本語初級 I, II 聴解タスク 25』(スリーエーネットワーク)
- 漢字 A1 『(新版)BASIC KANJI BOOK VOL.1 基本漢字 500』(凡人社)

また、通常の授業の他に、学生の個人の習熟度やニーズに合わせた指導を行うために、「特別指導 A1」も行った。専任教員5人がリレー方式で授業を担当した。表2に第34期の時間割を示す。

表2 第34期日本語研修コース時間割

	1 (8:45 ~ 10:15)	2 (10:30 ~ 12:00)	3 (13:00 ~ 14:30)
月	文法 A1 (横堀)	文法 A1 (横堀)	漢字 A1 (小木曾)
火	文法 A1 (中野)	文法 A1 (中野)	聴解・会話 A1 (藤田)
水	文法 A1 (要門)	文法 A1 (要門)	特別指導 A1 (田中・濱田・小木曾)
木	文法 A1 (田中)	文法 A1 (田中)	特別指導 A1 (副島・バハウ)
金	文法 A1 (横堀)	文法 A1 (横堀)	

※網かけのクラスは日本語研修コース専用クラス、それ以外は日本語課外補講との合同クラスである。

6 成績評価

文法 A1 ではメインテキスト (『みんなの日本語』) に基づく定期試験を7回実施した。この定期試験は筆記試験 (文法, 作文, 読解), 聴解試験, 会話試験から構成されるものである。また、漢字 A1 のクラスでは期末試験を実施した。コース修了時に、コース全体の成績判定を行い、コースへの出席率も含めた成績表を作成して、受講者本人と指導教員へ通知した。

7 コース評価

日本語研修コースでは、コース改善に役立てるため、学期終了時にアンケート調査を実施している。実施前に、成績等には全く影響しないことを伝えた上で、アンケート調査票に記入してもらった。調

査項目はコース全体、日本語の授業の内容、テスト、宿題、特別指導、スタディ・エクサカーション、ホームステイの6項目である。回答方法は、5段階で評点をつけるものと、与えられた選択肢から該当する答えを選択するものがある。また、自由意見は日本語または英語で記入させた。

これまでアンケート調査の結果は公開してきたが、第34期生は1人のため、公開は差し控えたい。

8 おわりに

日本語研修コースは2018年9月に第34期生を送り出した。これまでに文部科学省からの配置学生等206人がこのコースを修了している。しかしながら、ここ数年、日本語研修コースの予備教育生は配置されない学期が続いた。今後は、文部科学省の方針次第だが、増えてゆく見込みは限りなく小さい。日本語研修コースにおける日本語科目数も減少したが、予備教育生が配置された場合には手厚く指導できる体制を維持していきたい。

日本語課外補講報告 (2018年4月～2019年3月)

小木曾 左枝子
田中 信之

1 はじめに

日本語課外補講は、富山大学に在籍する外国人留学生及び外国人研究者であれば誰でも受講できるプログラムである。日常生活や大学での学習・研究活動に必要な日本語の習得を目指して、初級、中級、上級の3つのレベル別クラスを開講している。2018度は、前期(2018年4月～9月)と後期(2018年10月～2019年3月)にそれぞれ15週間開講した。

以下、2018年度の日本語課外補講の実施状況について報告する。なお、富山大学で実施されている日本語課外補講は、五福キャンパスにおいて国際機構が実施するものと、杉谷キャンパスにおいて医学部所属の日本語・日本事情担当教員が中心となり実施するものがある。本稿では2018年度に五福キャンパスで国際機構が実施した日本語課外補講について報告する。

2 受講者

前期は、初級クラスが19人(うち4人は中級クラスも同時に受講)、中級クラスが37人(うち4人は初級クラス、4人は上級クラスも同時に受講)、上級クラスが30人(うち4人は中級クラスも同時に受講)、計78人が日本語課外補講(ライデン大学短期日本語研修プログラム、総合日本語コースを含む)を受講した。78人の在籍身分別の内訳は、大学院生22人、特別聴講学生33人、研究生8人、特別研究学生6人、科目等履修生(県費留学生、日本語・日本文化研修留学生)7人、特別研究員1人、外国人研究員1人である。国・地域別の内訳は、中国30人、オランダ13人、台湾7人、韓国6人、タイ4人、ベトナム、ロシア各3人、フィリピン、インド、インドネシア、各2人、バングラデシュ、イタリア、モンゴル、ブラジル、ウクライナ、ドイツ各1人である。また、所属別の内訳は、理工学教育部22人、人文学部15人、人間発達科学部14人、経済学部11人、経済学研究科8人、医学薬学教育部2人、工学部、理学部、薬学部、医学部、人間発達科学研究科、人文科学研究科、各1人である。

後期は、初級クラスが28人、中級クラスが19人(うち4人は上級クラスも同時に受講)、上級クラスが38人(うち4人は中級クラスも同時に受講)、計81人が日本語課外補講(総合日本語コースを含む)を受講した。81人の在籍身分別の内訳は、研究生28人、大学院生19人、特別聴講学生14人、特別研究学生10人、科目等履修生(県費留学生、日本語・日本文化研修留学生)6人、研究員2人、研究留学生2人である。国・地域別の内訳は、中国44人、台湾6人、インド、ベトナム、タイ各4人、バングラデシュ、韓国、ロシア各3人、モンゴル2人、イタリア、ポーランド、フィリピン、マレーシア、チリ、ベルギー、ブラジル、インドネシア各1人である。また、所属別の内訳は、理工学教育部15人、人文学部14人、経済学部13人、経済学研究科11人、工学部10人、人間発達科学部6人、人文科学研究科、医学薬学教育部、生命融合科学教育部各3人、理学部2人、芸術文化学部、人間発達科学研究科、和漢医学総合研究所各1人である。

なお、協定校からの短期留学生については、ライデン大学からの交換留学生を除き、日本語課外補講中級・上級クラスで開講されている科目を総合日本語コースの科目として受講している(詳細は、総合日本語コース報告を参照のこと)。ライデン大学からの短期留学生は、ライデン大学短期日本語研修プログラム用に開講されている科目以外に、日本語課外補講中級クラスで開講されている科目をライデン大学短期日本語研修プログラムの科目として受講している(詳細は、ライデン大学短期日本語研修プログラム報告を参照のこと)。

3 授業担当者

2018年度前期は、国際機構専任教員5人（小木曾左枝子，副島健治，田中信之，バハウ・サイモン・ピーター，濱田美和），および，非常勤講師6人（田上栄子，中野香保里，藤田佐和子，松岡裕見子，要門美規，横堀慶子），2018年度後期は国際機構専任教員5人（小木曾左枝子，副島健治，田中信之，バハウ・サイモン・ピーター，濱田美和），および，非常勤講師6人（高島智美，田上栄子，中河和子，中野香保里，藤田佐和子，要門美規）が授業を担当した。コーディネーターについては，前期は専任教員（当時）の小木曾左枝子，後期は専任教員の田中信之が担当した。

4 授業日程

前期は2018年4月11日（水）～7月30日（月）を授業期間とした。曜日調整のため，5月2日（水）は月曜日の授業を行った。後期は2018年10月9日（火）～2018年2月8日（金）を授業期間とした。曜日調整のため，11月21日（水）は月曜日の授業，11月22日（木）は金曜日の授業を，1月15日（火）は月曜日の授業を行った。また，12月25日（火）～1月4日（金）は冬季休業，1月18日（金）は大学入試センター試験準備日のため，休講とした。

オリエンテーションは，前期は4月4日（水），後期は10月3日（水）に開催した。専任教員5人（小木曾左枝子，副島健治，田中信之，バハウ・サイモン・ピーター，濱田美和）がオリエンテーションを行った。オリエンテーションの案内は，国際機構のホームページに掲載する他，日本語，英語，中国語の3カ国語表記で作成した案内を五福キャンパス内の各学部及び国際機構棟談話室に掲示した。国際機構のホームページでは，時間割や授業概要（日本語，英語版を用意）の閲覧，そして，受講申請書をPDFファイルとしてダウンロードできるようにした。オリエンテーションでは，受講希望者一人一人と国際機構専任教員が面談し，受講者の日本語習熟度に応じたクラスを紹介し，受講申請書の提出により，登録を行った。ただし，来日時期が遅れる学生等については，各クラスの担当者（初級クラスは田中信之，中級クラスは小木曾左枝子（前期）・副島健治（後期），上級クラスは濱田美和）が面談を行った上で，開講期間の途中からの受講も認めた。

5 授業内容

5.1 時間割

前期，後期ともに週35コマ授業を行った。前期の時間割を表1，後期の時間割を表2に示す。

表1 2018年度前期 日本語課外補講（五福）時間割

曜	限	初級クラス		中級クラス	上級クラス
月	1		文法 A1（横堀）	文法 B1（小木曾）	
	2		文法 A1（横堀）	文法 B1（小木曾）	表現技術 C1（濱田）
	3		漢字 A1（小木曾）		漢字 C1（濱田）
	4			漢字 B1（濱田）	
火	1		文法 A1（中野）	文法・表現 B1a（要門）	
	2	生活日本語 A1a（バハウ）	文法 A1（中野）	文法・表現 B1a（要門）	作文 C1（松岡）
	3		聴解・会話 A1（藤田）	聴解・会話 B1b（田中）	会話 C1（松岡）
	4			プレゼンテーション B1（濱田）	読解 C1a（藤田）

水	1		文法 A1 (要門)	文法・表現 B1b (田上)	
	2		文法 A1 (要門)	文法・表現 B1b (田上)	
	3				日本文化 C1 (松岡)
	4				聴解 C1 (要門)
木	1		文法 A1 (田中)	文法・読解 B1a (副島)	
	2	生活日本語 A1b (小木曾)	文法 A1 (田中)	文法・読解 B1a (副島)	文法 C1 (濱田)
	3				
	4				読解 C1b (田中)
金	1		文法 A1 (横堀)	文法・読解 B1b (松岡)	
	2		文法 A1 (横堀)	文法・読解 B1b (松岡)	
	3			作文 B1 (田中)	

* 1限 8:45～10:15, 2限 10:30～12:00, 3限 13:00～14:30, 4限 14:45～16:15

表2 2018年度後期 日本語課外補講 (五福) 時間割

曜	限	初級クラス	中級クラス	上級クラス	
月	1		文法 A2 (田上)	文法 B2 (副島)	
	2		文法 A2 (田上)	文法 B2 (副島)	表現技術 C2 (濱田)
	3			漢字 B2 (濱田)	作文 C2 (田上)
	4				漢字 C2 (濱田)
火	1		文法 A2 (田中)	文法・表現 B2a (高島)	
	2	生活日本語 A2a (バハウ)	文法 A2 (田中)	文法・表現 B2a (高島)	
	3		聴解・会話 A2 (藤田)	聴解・会話 B2 (副島)	会話 C2 (高島)
	4				読解 C2a (藤田)
水	1		文法 A2 (要門)	文法・表現 B2b (中河)	
	2		文法 A2 (要門)	文法・表現 B2b (中河)	
	3				聴解 C2 (要門)
	4				日本文化 C2 (中河)
木	1		文法 A2 (中野)	文法・読解 B2a (副島)	
	2	生活日本語 A1b (小木曾・バハウ)	文法 A2 (中野)	文法・読解 B2a (副島)	文法 C2 (濱田)
	3		漢字 A2 (小木曾)	作文 B2 (濱田)	
	4				読解 C2b (田中)
金	1		文法 A2 (田中)	文法・読解 B2b (中野)	
	2		文法 A2 (田中)	文法・読解 B2b (中野)	

* 1限 8:45～10:15, 2限 10:30～12:00, 3限 13:00～14:30, 4限 14:45～16:15

5.2 初級クラスの授業内容

初級クラスでは、前期、後期ともに、午前は月曜日から金曜日まで毎日2コマ連続で「文法」の授業を行った。午後は「聴解・会話」、「漢字」の授業を各科目とも週1回1コマ行った。また、毎日、日本語の授業に出席することが困難な学生のために、「生活日本語」を開講し、前期と後期ともに週2

コマ、授業を行った。

「文法」の授業週（10コマ）では、『みんなの日本語 初級』Ⅰ、Ⅱ第2版（スリーエーネットワーク）をメインテキストとして、教科書を1日1課ないしは2日に1課のペースで初級文型の導入及びその定着のための練習を行った。授業の最初に、『毎日の発音練習』（独自開発教材）を用いた発音練習、語彙テスト（前課のディクテーションを含む）も適宜取り入れた。

表3 初級クラス「文法」（『みんなの日本語 初級』）の授業進度

第1週	1課～3課		第9週	28課～30課	
第2週	4課～6課	1課～6課試験	第10週	31課～33課	26課～32課試験
第3週	7課～12課		第11週	34課～37課	
第4週	13課～14課	7課～12課試験	第12週	37課～39課	33課～38課試験
第5週	15課～18課		第13週	40課～43課	
第6週	19課～21課	13課～18課試験	第14週	44課～45課	39課～45課試験
第7週	22課～25課		第15週	47課～50課	
第8週	26課～27課	19課～25課試験			

「聴解・会話」の授業では、初級クラス「文法」の時間に学んだ文法事項を定着させるため、『みんなの日本語初級 聴解タスク25』（スリーエーネットワーク）を中心に様々な聴解練習を行った。また、応用会話練習を行い、聞く力と話す力、コミュニケーション能力を伸ばすことを目指した。

「漢字」の授業では、『(新版) Basic Kanji Book Vol.1』（凡人社）をメインテキストとし、漢字を勉強するために必要な知識を身につけると同時に、漢字の読み書きが正確にできるようになることを目指した。また、自分に適した漢字学習ストラテジーを身につけるためのディスカッション等も行った。「生活日本語 a」の授業では、『Basic Japanese for Students はかせ』〈1〉（スリーエーネットワーク）をメインテキストとして、1回の授業で1課進むペースで初級文型の導入及び会話力を伸ばすための練習を中心に行った。

「生活日本語 b」の授業では、文字学習も行いながら、日常生活に必要な日本語を身につけることを目標とした。教科書は使わず、メニューなどの生教材や自作教材を用いたりし、入門期に必要な基本的な文型や語彙・表現を学びながら、かなを認識できるようにし、そして身近な話題で対話ができるようにすることを目指した。

5.3 中級クラスの授業内容

中級クラスでは、前期は、「文法・表現」、「文法・読解」の授業を各科目とも週2日2コマ連続で各4コマ、「文法」の授業を週2コマ、「聴解・会話」と「漢字」「プレゼンテーション」の授業を各科目週1コマ行った。後期は、「文法・表現」、「文法・読解」の授業を各科目週2日2コマ連続で各4コマ、「文法」の授業を週2コマ、「聴解・会話」、「漢字」、「作文」の授業を各科目週1コマ行った。

「文法・表現」の授業では、『ジェイ・ブリッジ』（凡人社）をメインテキストとして、3コマの授業で1課進むペースで、初級の文型や表現を整理、復習するとともに、中級の文型や表現を導入し、それらを大学生活で遭遇する場面や様々なトピックに合わせて、運用できるよう談話練習なども行った。「文法・読解」の授業では、『日本語中級 J301』、『日本語中級 J501』（スリーエーネットワーク）をメインテキストとして、『日本語中級 J301』は1日（2コマ）の授業で1課進むペース、『日本語中級 J501』は2日（4コマ）の授業で1課進むペースで、それぞれ中級の語彙や文法事項を導入し、主に読解の力を伸ばすための練習を行った。

「文法」の授業では、『中級へ行こう』（スリーエーネットワーク）をメインテキストとして、2コマ

の授業で1課進むペースで、初級文型の確認をしながら、初中級レベルの文型・表現の導入及び練習を行った。また、学習項目の定着をはかるために作文や会話などの応用練習も行った。

「聴解・会話」の授業では、日本の社会や文化を題材としたニュース、友人同士、学生と教員、初対面の人同士の会話などを教材として使用し、聴解を中心に練習を行った。

「漢字」の授業では、『INTERMEDIATE KANJI BOOK 漢字 1000PLUS』Vol.1 (凡人社) を用いて、漢字・漢字語の読み方、書き方及び意味・用法の全体的な指導を行った。

「作文」に関しては、前期の授業では、自分の考えを、根拠を挙げて筋道を立てて書けるようにすること、文法・語彙・表現を適切かつ効果的に使用できるようにすることを目標とし、作文の基礎を学び、協働的作業も行いながら、論理的な文章が書けるように練習を行った。後期の授業では、『小論文への12のステップ』(スリーエーネットワーク) をメインテキストとして、論理的な文章を書くための構成や表現を学び、練習を行った。

「プレゼンテーション」の授業では、大学での学習や研究で必要となる、日本語での情報収集と基本的なプレゼンテーションの行い方を指導した。

5.4 上級クラスの授業内容

上級クラスでは、前期、後期ともに、「読解」の授業を週2コマ、「作文」、「聴解」、「会話」、「文法」、「表現技術」、「日本文化」の授業をそれぞれ週1コマ行った。上級クラスの授業は、2期連続して受講する学生のために、以前から前期と後期で扱うテーマや教材等を変えて対応しているが、授業目的や進め方等の授業概要は同じであるため、以下、まとめて報告する。

「読解」の授業は、前期は「読解 C1a」と「読解 C1b」の授業名で、後期は「読解 C2a」と「読解 C2b」の授業名で2科目を設けた。「読解 C1a」は『絶対合格！日本語能力試験徹底トレーニング N1 読解』(アスク出版) を、「読解 C2a」は『新完全マスター読解 日本語能力試験 N1』(スリーエーネットワーク) をメインテキストとし、文章のしくみを理解し、細かい部分を正確に読み取る練習を行った。また、各人の漢字語彙力向上のサポートとして、語彙マップを用いての漢字語彙の導入、自宅学習後の小テストをクラス内で行った。「読解 C1a」「読解 C2b」は、協働的な活動を通して批判的に読む能力を身につけることを目標とし、テキストの理解を深め、クラスメイトへの理解を深め、自分自身の考えを深め、自分のことを振り返ることができるように練習を行った。

「作文」の授業では、コンピュータを使用しながら、レポートや論文を書く際に必要となる論理的な文章の書き方の練習を行った。『留学生と日本人学生のためのレポート・論文表現ハンドブック』(東京大学出版会)、『大学・大学院留学生の日本語4 論文作成編』(アルク) 等を参考書とし、練習問題等はプリント、または電子ファイルで提供した。

「聴解」の授業では、聴解教材とあわせて、テレビやラジオ、インターネットなど、様々なメディアを用いて、大学生活や日常生活に必要な聴解練習を行った。

「会話」の授業では、ロールプレイ等を通して、大学生活や日常生活で出会う場面、状況での会話を伸ばす練習を行った。また、様々なトピックについて日本語で的確に説明・描写する練習、意見や感想を述べる練習を行った。

「文法」の授業では、前期は『新完全マスター文法 日本語能力試験 N1』(スリーエーネットワーク)、後期は『日本語能力試験レベルアップトレーニング N1』(アルク) をメインテキストとし、大学での学習、研究生生活に必要な上級レベルの文法・表現について、演習形式で確認した。日本語能力試験の受験対策もあわせて行った。

「表現技術」の授業では、目上の人とのやり取りや、不特定多数の人に対して情報発信する際に必要となる、フォーマルな場で用いられる日本語の表現を確認した後、メールやメモなど日常的・実用的な文章の書き方やプレゼンテーション・スライドを利用しての口頭発表の練習を行った。

「日本文化」の授業では、テレビ番組、アニメ映画、漫画、新聞・雑誌記事、自治体広報などの様々なメディアを使用して、現代日本の流れ、若者の声、教育問題、ジェンダーといった視点から現代日本社会の問題を考えた。

「漢字」の授業では、『漢字 1000PLUS INTERMEDIATE KANJI BOOK』Vol.2 (凡人社) を使用して、読み方、書き方及び意味・用法の全体的な指導を行った。

6 試験

初級クラス「文法」「聴解・会話」では、7回の定期試験を実施した。定期試験の内容は、筆記試験、聴解試験、会話試験である。初級クラス「生活日本語 a」及び「生活日本語 b」では中間試験と期末試験を、「漢字」では数回の確認テストと期末試験を実施した。

中級クラスでは、「文法・表現」「文法」「聴解・会話」「作文」はそれぞれ中間試験と期末試験を、「文法・読解」は3回の定期試験を実施した。「漢字」は毎回の授業での確認テストと2回の定期試験を実施した。「プレゼンテーション」は口頭発表を課した。

上級クラスでは、「読解 C1a」「読解 C2a」「文法」「聴解」「表現技術」はそれぞれ期末試験を実施した。「漢字」は毎回の授業での確認テストと2回の定期試験を実施した。「読解 C1b」「読解 C2b」「作文」は期末レポートを、「会話」「表現技術」「日本文化」は発表を課した。

7 カリキュラムについてのアンケート結果

日本語課外補講の受講者に対して、授業内容とカリキュラムに関するアンケート調査を前期と後期の授業期間中に実施したが、ここではカリキュラムに関するアンケート結果をまとめる。

カリキュラムに関するアンケート調査は、1人の学生が複数の科目を受講している場合も、1回のみ回答する形とした。表4に前期、表5に後期の結果をまとめた。なお、自由記述については、基本的に学生が記述した通りに掲載している。

表4 前期のカリキュラムについてのアンケート結果 (回答者 20人)

1. どこでオリエンテーションのことを知ったか (複数回答)	オリエンテーション出席者 (20人) ・オリエンテーションの掲示を見た (2人) ・専門の先生にきいた (5人) ・国際機構の先生にきいた (4人) ・事務の人にきいた (2人) ・友だちにきいた (4人) ・その他 (2人) : 県庁の人 2人 ・無回答 (2人)
日本語課外補講をどこで知ったか (複数回答)	オリエンテーション欠席者 (0人) ・専門の先生にきいた (0人) ・国際機構の先生にきいた (0人) ・友だちにきいた (0人) ・その他 (0人) :
2. どのクラスに出席したか	初級 : 8人 初級と中級 : 1人 中級 : 9人 上級 : 2人
3. 授業科目数の希望	今のままでいい (18人) : 初級 7人, 初級と中級 1人, 中級 8人, 上級 2人 今のままでいいと多くしてほしい (1人) : 初級 1人… (無記入 1人) 多くしてほしい (0人) 少なくしてほしい (1人) : 中級 1人… (無記入 1人)
4. 授業科目の希望	今のままでいい (20人) : 初級 8人, 初級と中級 1人, 中級 9人, 上級 2人 新しい科目を作ってほしい (0人)
5. 来期の授業時間帯の希望	いつでもいい (9人) : 初級 3人, 初級と中級 1人, 中級 4人, 上級 1人 専門の時間割がわからないので答えられない (3人) : 初級 1人, 中級 1人, 上級 1人 午前 1・2限 (8人) : 初級 4人, 中級 4人 午後 3・4限 (0人) その他 (0人) :

その他

コメントなし

表5 後期のカリキュラムについてのアンケート結果 (回答者 28 人)

1. どこでオリエンテーションのことを知ったか (複数回答)	オリエンテーション出席者 (20 人) ・オリエンテーションの掲示を見た (1 人) ・専門の先生にきいた (6 人) ・国際機構の先生にきいた (6 人) ・事務の人にきいた (8 人) ・友だちにきいた (2 人) ・その他 (2 人) : 県庁の人 2 人 ・無回答 (1 人)
日本語課外補講をどこで知ったか (複数回答)	オリエンテーション欠席者 (8 人) ・専門の先生にきいた (1 人) ・国際機構の先生にきいた (1 人) ・友だちにきいた (2 人) ・事務の人にきいた (1 人) ・その他 (2 人) : 前学期に 1 人 県庁の人 1 人 ・無回答 (1 人)
2. どのクラスに出席したか	初級 : 15 人 中級 : 10 人 上級 : 5 人
3. 授業科目数の希望	今のままでいい (26 人) : 初級 14 人, 中級 9 人, 上級 3 人 多くしてほしい (1 人) : 初級 1 人 If the numbers of classes is more these is more chance for the practice. 少なくしてほしい (1 人) : 中級 1 人
4. 授業科目の希望	今のままでいい (28 人) : 初級 15 人, 中級 10 人, 上級 3 人
5. 来期の授業時間帯の希望	いつでもいい (7 人) : 初級 4 人, 中級 3 人 専門の時間割がわからないので答えられない (14 人) : 初級 6 人, 中級 6 人, 上級 2 人 午前 1・2 限 (4 人) : 初級 4 人 午後 3・4 限 (2 人) : 初級 1 人, 上級 1 人 その他 (1 人) : 中級 1 人… (帰国する 1 人)

その他

- ・充実しています。(初級)
- ・ All the teacher are very helpful. (初級)
- ・ Please next semester it all same teacher. I love them. (初級)
- ・ I have a time for learn Japanese class only morning because afternoon and night I have experiment. (初級)
- ・ Nice class. (初級)
- ・ 日本語をおぼえるために、日本語のゲームがあったほうがいいです。(中級)
- ・ いろいろなことを教えてもらって、お世話になりました。生活など役に立ちます！(中級)

アンケート結果から、オリエンテーション出席者は、専門の教員や国際機構教員、あるいは事務から情報を得ていることがわかる。オリエンテーションの掲示を見て出席したという回答は少数である。一方、オリエンテーション欠席者は友人などから情報を得ている。授業科目数や内容については「今のままでいい」という回答が多く、現在の日本語課外補講の授業科目や内容に満足していることが窺える。授業時間帯については、「いつでもいい」と「専門の時間割がわからないので答えられない」という回答が多かった。在籍身分の違いにより、専門の授業数が大きく異なるためだと思われる。

8 おわりに

昨年度よりライデン大学短期日本語研修プログラムが開始し、今年度は外国人研究員が受講する等、日本語課外補講の受講生は増加し、その学習目的も多様化している。一方で、昨年度から授業数が減少し、受講生のレベルやニーズに合った授業を開講することが難しくなっている。授業アンケートや各教員からのフィードバックに基づいて、授業の改善、カリキュラムの評価・改善を行っていかなければならない。

ライデン大学短期日本語研修プログラム報告 (2018年4月～6月)

小木曾 左枝子

1 はじめに

ライデン大学短期日本語研修プログラムは、オランダのライデン大学からの交換留学生のために、2017年度4月に開設したプログラムである。通常、富山大学に交換留学生として来日する学生は、受け入れ学部で富山での生活に関する支援や助言を受けながら、国際機構で日本語課外補講若しくは総合日本語コースを受講し、日本語を学習する形となっている。ライデン大学からの留学生については、形式上は人間発達科学部の交換留学生ではあるが、生活・修学の全ての責任を国際機構が持ち、3ヶ月間の短期日本語研修プログラムを設け、受け入れを行っている。

以下、2期目となった、2018年度ライデン大学短期日本語研修プログラムの実施状況について報告する。

2 受講者

2018年度ライデン大学短期日本語研修プログラムには、14人の学生が参加した。学生の出身国は、13人がオランダ、1人がドイツだった。

3 授業担当者

2018年度は、国際機構専任教員5人（田中信之、副島健治、バハウ・サイモン・ピーター、濱田美和、小木曾左枝子）、及び非常勤講師3人（要門美規、田上栄子、松岡裕見子）が授業を担当し、専任教員の小木曾左枝子がコーディネートをを行った。

4 スケジュール

2018年度は、参加学生14人が4月8日に富山に到着し、7月3日にオランダへ帰国するというスケジュールで行った。日本語研修コース、日本語課外補講、総合日本語コースなど、国際機構における日本語コースは、1学期15週間にわたり開講されているが、ライデン大学の学生は3ヶ月の短期滞在となるため、2018年度は11週間ほどでプログラムを組み、開講した。以下は2018年度に開講したプログラムの主なスケジュールである。

- 2018年 4月 8日（日）富山に到着
- 4月10日（火）開講式、オリエンテーション、学内案内
- 4月11日（水）授業開始
- 4月20日（金）スタディー・エクスカーション：となみチューリップフェア訪問
- 5月 9日（水）課外授業：高岡キャンパス訪問
- 5月16日（水）富山市役所訪問・森市長との懇談（富山市からの招待）
- 5月23日（水）課外授業：高岡高校生徒との交流
- 5月24日（木）富山市ガラス工房訪問・制作体験（富山市からの招待）
- 5月31日（木）課外授業：若鶴酒造大正蔵訪問
- 6月 5日（火）経済学部ゼミナール参加（合同授業）
- 6月25日（月）富山・日本・オランダの文化紹介発表会
- 6月28日（木）授業終了
- 6月29日（金）遠藤学長と呉羽山公園散策・水墨美術館見学

6月29日(金)修了式

7月3日(火)オランダへ帰国

5 授業内容

授業は、月曜日から金曜日まで1日2コマから4コマで、中級クラスの科目を受講する形とした。必修科目として受講するものは、日本語課外補講、総合日本語コースとの合同クラスから「文法・表現 B1ab」,「文法・読解 B1ab」,「聴解・会話 B1」,「漢字 B1」,「プレゼンテーション B1」,「作文 B1」の6科目、ライデン大学短期日本語研修プログラム専用科目から「異文化間コミュニケーション B1」の1科目とした。また、初中級レベルの文法項目の復習を希望する学生には、選択科目として「文法 B1」(日本語課外補講、総合日本語コースとの合同クラス)の受講も可能とした。そして、通常の授業の他に、学生個人の学習状況やニーズに合わせた指導、生活上の問題への対応や相談を行うことを目的に、特別指導の時間も設け、個別ないしはグループで指導を行った。以下の表1に時間割を示す。

表1 2018年度ライデン大学短期日本語研修プログラム時間割

	1限 (8:45~10:15)	2限 (10:30~12:00)	3限 (13:00~14:30)	4限 (14:45~16:15)
月曜日	文法 B1 (小木曾)	文法 B1 (小木曾)		漢字 B1 (小木曾)
火曜日	文法・表現 B1a (要門)	文法・表現 B1a (要門)	聴解・会話 B1 (田中)	プレゼンテーション B1 (濱田)
水曜日	文法・表現 B1b (田上)	文法・表現 B1b (田上)		
木曜日	文法・読解 B1a (副島)	文法・読解 B1a (副島)	異文化間コミュニケーション B1 (小木曾)	特別指導 (田中・副島・ バハウ・濱田・小木曾)
金曜日	文法・読解 B1b (松岡)	文法・読解 B1b (松岡)	作文 B1 (田中)	

* 網掛けはライデン大学短期日本語研修プログラム専用クラス、それ以外は日本語課外補講・総合日本語コースとの合同クラスである。

* 特別指導は、担当教員が学生と相談の上、別の曜日・時限に設定する場合もある。

各科目の授業内容は、「文法・表現 B1ab」,「文法・読解 B1ab」,「聴解・会話 B1」,「漢字 B1」,「プレゼンテーション B1」,「作文 B1」,「文法 B1」については、「日本語課外補講報告」の「中級クラスの授業内容」を参照していただきたい。

「異文化間コミュニケーション B1」では、3ヶ月間の留学生活における日本語学習・日本文化学習について、自らの学びを客観的に観察し、内省を深めることを目的とした。他学部ゼミナール参加や他キャンパス訪問を通しての本学日本人学生との交流、課外授業やスタディー・エクスカージョンを通しての地域の日本人との交流、高校生との交流などを授業の一環に組み込み、様々な日本人との交流や文化体験を通して、日本語でのコミュニケーション、そして異文化体験について考える機会を提供した。

「特別指導 B1」は、専任教員5人(田中信之、副島健治、バハウ・サイモン・ピーター、濱田美和、小木曾左枝子)がそれぞれ2人ないしは3人の学生を担当し、学生の希望や必要に応じて、個別若しくはグループで指導を行った。

6 成績評価

ライデン大学短期日本語研修プログラムにおける成績評価は、必修科目から6科目(「文法・表現 B1ab」,「文法・読解 B1ab」,「聴解・会話 B1」,「漢字 B1」,「プレゼンテーション B1」,「作文 B1」)の点数をまとめ、総合成績を出す形とした。

「聴解・会話 B1」と「作文 B1」では1回の定期試験を、「文法・表現 B1ab」と「文法・読解 B1ab」では2回の定期試験を実施した。「漢字 B1」は毎回の授業での確認テストと1回の定期試験を実施した。

「プレゼンテーション B1」では口頭発表が課された。これらの7科目の点数から総合成績を出した。その他の科目については、総合成績とは別に、学業成績通知書に評価を記載した。「異文化間コミュニケーション B1」については、2回のレポートを課し、評点は付さず、合格・不合格の2段階で評価し、課題を規定に従い提出した場合に合格とした。「特別指導 B1」については、評価は行わず、出席率を学業成績通知書に示す形とした。

「文法 B1」を選択科目として受講した学生については、総合評価には含めず、別途、点数を学業成績通知書に記載した。

7 プログラムについてのアンケート結果

ライデン大学短期日本語研修プログラムの参加者に対して、授業内容及びプログラム改善のために、各授業科目について、そしてプログラム全体に関するアンケート調査を、プログラム終了時に実施した。「文法・表現 B1lab」、「文法・読解 B1lab」、「聴解・会話 B1」、「漢字 B1」、「プレゼンテーション B1」、「作文 B1」、「文法 B1」のアンケート結果まとめは、「日本語プログラム授業アンケート 中級クラス」を参照していただきたい。

「異文化間コミュニケーション B1」については、通常の日本語授業と形式が異なるので、プログラム全体のアンケート調査に質問項目を含める形とした。プログラム全体に関するアンケートには、上記の「異文化間コミュニケーション B1」について問う質問以外に、プログラム全体、日本語の上達度、授業科目数、特別指導、授業以外で自主的に参加した活動、国際機構のサポート体制等について尋ねる質問項目を用意した。

以下、表2にプログラム全体についてのアンケート結果をまとめた。これは、ライデン大学短期日本語研修プログラムに参加した14人のうち13人から得られた回答をまとめたものである。なお、自由記述については、基本的に学生が記述した通りに掲載しているが、間違いに応じて適宜修正を加えている場合もある。

表2 ライデン大学短期日本語プログラムについてのアンケート結果 (回答者 13人)

質問及び回答結果 (延べ数)	自由記述
1. プログラム全体 とても満足 (2人) 満足 (6人) 普通 (4人) 少し不満 (0人) 不満 (1人) 理由: 授業の内容はどの授業も 大体同じだったから、集 中するのは難しかった	<ul style="list-style-type: none"> ・ As a language course, it served its purpose very well. Lots of grammar, new vocabulary and kanji. ・ 授業に出てきた文法は少し簡単すぎたと思う。 ・ It was a very fun experience, and I learned a lot. Also, the support was great. ・ はじめは少し簡単すぎたと思いますが、後半はとてもよかったです。 ・ It was okay. There were a lot of things we already knew but also some things we didn't. So I learned some new things here.
2. 日本語の上達度 とても上手になったと思う (4人) 上手になったと思う (4人) 少し上手になったと思う (5人) あまり上手にならなかったと思う (0人) ぜんぜん上手にならなかったと思う (0人)	<ul style="list-style-type: none"> ・ Especially when it comes down to talking, I feel I've grown a lot in comparison to three months ago. ・ 毎日、日本語で話したから、特に会話の能力が上達したと思う。 ・ 日本語を話すことができるようになりました。 ・ It's hard to assess your own skill level, especially when you're at intermediate level where you are aware of the mistakes you're making but don't yet have the knowledge and fluency to correct yourself. However, outside of the expected technical improvement I have also noticed improvements like confidence and willingness to experiment. ・ I still have a long way to go, and it usually takes me a long time and a lot of experience before I can comfortably say I'm fluent or really good at a language, but I think coming to Toyama has improved my Japanese a lot. ・ I still have trouble with speaking but it has improved since I've come to Japan.

<p>3. どのスキルが上達したか (1人が1つだけ回答を選ぶところ、 2つ以上選んでいたため、以下は 13人のうち12人の回答である。)</p> <p>聞くこと (2人) 話すこと (6人) 読むこと (1人) 書くこと (1人) その他 (2人)：日本語で考えるこ と1人、漢字1人 *回答を2つ選んだ1名の学生は 「聞くこと」と「話すこと」を選 択していた</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ Spending everyday listening to people speaking Japanese has improved my listening skills a lot. ・ Because you have to speak a lot of Japanese in Japan, every conversation here becomes an opportunity to train your speaking skills. ・ Before coming to Japan, speaking Japanese was kind of scary, but now, since you have to do it so often, it feels a lot more natural and not scary anymore. Since speaking is such a huge part of language, I'm very glad. ・ I used to be pretty afraid to talk, because I didn't want to make a mistake. But here I was forced to just talk and not worry as much about mistakes. ・ 漢字は特に上達しました。
<p>4. 授業科目数</p> <p>ちょうどいい (4人) もっと多いほうがいい (1人) どの授業を増やしたほうがいいか 日本研究 (1人) もっと少ないほうがいい (8人) どの授業がなくてもいいか (複数回答)</p> <p>文法・表現 B1ab (4人) 文法・読解 B1ab (3人) プレゼンテーション B1 (3人) 作文 B1 (1人) 聴解・会話 B1 (1人)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 90-minute classes are really hard to get used to. Since the classes aren't passive classes, instead having to participate actively, I lose focus after about 45 minutes. Besides the length, I think the classes were okay. ・ 「文法・表現」と「文法・読解」は週2回あるが、新しい文法は少ないので、授業は1回だけでもいいと思う。 ・ 「会話」と「プレゼンテーション」のクラスは要らないです。日本語力を上げることにつながる。これらのクラスを受けるのは時間もったいない。 ・ We're not used to three hours of classes with only 15 minutes of break in between. So perhaps it's not so much that the classes need to be less, but perhaps separate them, so we have more of a break in between. Then one and a half hour classes were tough, but doable after a week or two. ・ オランダの大学や高校で、もうプレゼンテーションすることを習いました。更に、プレゼンテーションを、富山大学のパソコンで作るのはすごく大変でした。富山大学のパソコンはちょっと遅いし、Microsoft Internet ExplorerはGoogle ChromeやMozilla Firefoxより遅くて、使いにくいですから。Google ChromeやMozilla Firefoxのほうが特別な“Browser extensions”をダウンロードすることができるから、すごく便利です。I also didn't understand why we had to hand in printed documents of our text along with the PowerPoint slides. It was also very unclear as to what we would be graded on exactly. Pronunciation? Structure? Our PowerPoint slides? Fluency? Or maybe the contents of our presentation? Another class that could perhaps be scrapped or at least be reduced in size was 「聴解・会話」, we didn't really practice speaking that much during that class, especially compared to a lot of our other classes and the final test was kind of confusing. ・ 「文法・表現」と「文法・読解」の授業はなくてもいいと思います。毎週、「文法・表現」と「文法・読解」の授業が全部で12時間(90分x8コマ)ありました。時間数が多すぎると思います。 ・ 「文法・表現」 in my opinion. We spend too much time on one subject in the class. We use two whole hours (コマ), but it could easily fit into one I think.
<p>5. 特別指導</p> <p>とても役に立った (4人) 役に立った (3人) 普通 (5人) あまり役に立たなかった (1人) 理由：問題がなかった ぜんぜん役に立たなかった (0人)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ It was very enjoyable and made for a good opportunity to talk about anything you want/need to talk about. ・ I really liked the personal attention. Even though I at times dreaded the classes - because it was a lot of talking - they gave me a lot of practice and a space to just talk without worrying too much about mistakes, while at the same time being corrected if I did make mistakes. ・ 最初は「どうしてこんなことをしなければならないのか」と思いましたが、今は「特別指導があってよかった」になりました。 ・ I never had any problems so used the tokubetsu-shido for conversation practice. ・ 特別指導の先生は優しく、困った時助けてくれる先生がいるのはいいと思う。しかし、一般的に私たちは問題がなくて、特別指導では自分の小さい研究をする時間になった。コンセプトは良いと思うけど、実はその小さい研究するのはけっこう時間かかって、ちょっとストレスになってしまった。 ・ 実際は、あまり役に立たなかった。授業が多すぎて、特別指導の準備はいつもぎりぎりになった。「特別指導」は「会話」と「プレゼンテーション」の授業より役に立つのに… ・ It was nice to talk to my Tokubetsu-shido-sensei every week, and it was good practice, but since most of the problems I had were related to the apartment, which were things I had to discuss with Kurimoto-san and Ogiso-sensei, most times I had to come up with something to talk about.

<p>6. 何か困ったことや心配なことがあった時、特別指導の先生に相談したか はい (8人) いいえ (3人) 誰に相談したか： プログラムコーディネーター (3人)、 プログラムコーディネーター と国際機構事務員 (1人) 困ったことや心配なことはなかった (3人)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ I could always talk to Ogiso-sensei. She made me feel really welcomed and supported. ・ The problems had to do with the apartment, so they weren't things my tokubetsu-shido-sensei could necessarily help with, since those were things Kurimoto-san and Ogiso-sensei mostly deal with. I did tell tokubetsu-shido-sensei about it during tokubetsu-shido, but mostly afterwards. ・ 印刷しなければいけない時、特別指導の先生に印刷してもらいました。
<p>7. 国際機構のサポート体制 とても満足 (7人) 満足 (3人) 普通 (3人) 少し不満 (0人) 不満 (0人)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ All of the problems with the apartment etc. were fixed very quickly, and the help was great. ・ I didn't use 機構's support much, since I mostly spoke about problems during 特別指導. But when I wanted to get an extra matrass underneath my futon, Kurimoto-san was very helpful, and I think that if I ever I had asked any other questions in 機構 I would've been helped immediately.
<p>8. 「異文化間コミュニケーション」 授業 とても満足 (0人) 満足 (5人) 普通 (6人) 少し不満 (1人) 不満 (0人) 無回答 (1人)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ Even though the actual classes on Thursday could be a little short on content sometimes, discussion and reflection on the katsudou made the Thursday classes quite enjoyable. In addition, all katsudou had something different to offer which made for a varied experience. ・ I thought it was fun and interesting to do all these activities. ・ The fieldtrips were interesting and fun most of the time, but they did take up a lot of time, which, in addition to the long classes (which I am still not used to, 90 minutes is just too long...), made it kind of tiring. ・ 「このクラスの目標は何なんだろう」という感じがよくありました。 ・ 満足かどうか答えにくいです。
<p>9. 「異文化間コミュニケーション」 授業で一番よかった活動 1位 高岡キャンパス訪問 2位 高校生との交流 3位 となみチューリップフェア 訪問 4位 酒蔵見学 5位 経済学部ゼミナール参加</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 高岡キャンパスの訪問、高校生との交流はライデンの大学生たちにはあまり関係がないと思う。もちろん高校生やほかのキャンパスの学生にとって英語を話すいいチャンスだけど、ライデンの学生は何も得ない。
<p>10. 文化学習のために、授業でどんな活動がしたいか</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本の伝統的な美術や建物など見に行けば楽しいと思う。 ・ Perhaps something related to traditional Japanese music? ・ I can't really think of something. ・ この質問には全然答えられません。 ・ ディスカッションしたり、ビデオを見たりしたらいいと思います。 ・ 何か同じ歳くらい日本人と友達になるチャンスがいいと思う。日本人の友達と過ごすのが異文化学習のために一番いい方法だ。今回、そういうチャンスがあっても時間が短すぎたか、少なかった。 ・ More recreational trips like trips to the museum, tours, etc., which don't feel as much as a school assignment. It makes it a lot more fun to participate and listen. ・ もっと部活動がしたいです。 ・ 神社や寺へ行って、宗教について勉強したいです
<p>11. 授業以外で自主的に参加した活動で、よかったものは何か</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 部活動は異文化コミュニケーションよりいい練習になりました。 ・ 小学校に行ったとき、とても楽しかったと思う。子供は皆元気で、英語で頑張っていて、今、日本人の子供が好きなことについてなど、いろいろなことを学んだ。そして、小学校に行ったときの小さい祭りみたいなイベントはとても面白かった。小さい子供でも日本の文化についていろいろを知っていて、すごいと思った。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ Though I did complain a lot about the kendo-bu, I did find that training there improved my kendo technique and mindset greatly, taught me a lot of useful Japanese and it allowed me a glimpse of old-fashioned jouge-kankei. Furthermore, it allowed me to interact with Japanese people that aren't used to interacting with foreigners. Towards the end, the social aspect got a lot easier, so it is a little sad that I have to leave right when the other members are starting to feel comfortable around me. ・ Making glass was super fun. It was really interesting to see the process of everyone's designs coming together, and the people were very nice and explained the steps clearly. Having your own unique glass as a souvenir is very cool. ・ 小学校訪問はととてもよかったですと思います。楽しかった、そして若い日本人と話すのはいい勉強になりました。 ・ ガラス制作体験と小学校訪問は楽しかったです。 ・ Some things were fun, however, it did not really broaden my knowledge of Japanese culture. ・ 国際機構の談話室でいろいろな国から来た人と一緒に昼ご飯を食べたり、話したりするのはよかったです。 ・ I quite liked these trips (= trips to the museum, tours, etc.), because as stated in the previous question, they didn't really have a "school" feel to it. They were more casual, loose, and recreational-orientated. ・ サークルに入部したことはよかったです。日本語で書くのが前より上手になりました。 ・ ガラス制作体験と小学校訪問が一番よかったですと思います。その理由は楽しくて、オランダであまりできない経験だからです。 ・ 小学校に行ったことは本当によかったです。子供たちは文化についていろいろ教えてくれました。ガラス制作体験もすごく楽しかったです。私はヨーロッパのガラス作りは、よく旅行の時見ました。今、日本のガラス作りと比べることができます。だいたい同じですけど。 ・ I really enjoyed the glass making. the number one thing I liked the most was going to the elementary school.
<p>12. その他、国際機構の日本語研修プログラムについて気がついたことや感じたこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ You must understand that 1.5 hours feels like two full classes to us, and we generally get a short break in between those hours. This can make two consecutive jugyou of one subject (=4 of the same classes with half the breaks) rather tiring; combined with a rather full lecture schedule, tsuyu and the large amount of katsudou/bukatsu activities in my case/own plans, everyone just started to feel a little tired out towards the end. That's not to say I disliked my time here, not at all. It was just very intense. One small thing that rubbed me the wrong way was the signing of our apartment hiring contracts. Instead of allowing us time to read through the contract (perhaps with the help of the sensei and the employees there) we were told to sign immediately. I understand that nothing questionable would have been in those contracts, but I would still like to know what I'm signing. Regardless of all these complaints, I would like to finally state my deep gratitude towards everyone that made this experience possible. It was a once in a lifetime opportunity, and I wouldn't trade it for anything in the world. It has made me fall in love with Japan and Japanese all over again, and has strengthened my resolve to one day teach English in Japan. ・ 先生に敬語で話すことはあまり大切じゃなかった。もっと厳しくそのことを入れたらいいと思う。あと、国際機構で使ったパソコンとかはすごく使いにくかった。 ・ 富山に来たライデン大学生はお互いをよく知らない学生もいた。それに、留学生同士で友達になったり、日本人と交流したりするチャンスがあまりなかった。それが原因で、ライデン大学生だけにいるとき以外は、雰囲気がいいつも硬かった。 ・ Thank you for everything! I had a lot of fun here, and I'm so glad I came to Toyama these three months!! ・ We received a lot of hand-outs from the teachers, which made it hard to keep track of what exactly was needed for what class. It would have been useful if the handouts would have just been stapled together and be given at the first lesson of the class, than to receive all those loose pieces of paper every week.

	<p>I would also like to say that it was very frustrating how we were often not informed long in advance of the plans for certain days. I had made all sorts of plans to do on the last Thursday, and then we were all of a sudden told that we would be busy with all sorts of formalities during that day. The things we would be graded on for tests (especially kaiwa, presentation and sakubun) were very unclear and we were never really told how exactly we would be graded for a lot of those. With sakubun we were told we would be graded heavily on the structure of our essays, but we would always only receive feedback on our grammar and vocabulary when the teacher would give us back our homework, so we never really knew whether we were on the right track regarding the structure of our essays. The length of the classes was also too long in my opinion. We are used to having classes for 45 minutes and then getting a 15 minute break after that, but here we have class for 90 consecutive minutes, and at least for me, that's way too much and I end up not being able to focus on the lessons anymore.</p> <p>・授業はあまり難しくなくて、新しく学んだことがあまりないと思います。</p>
--	---

昨年度に続き、授業科目によっては、オランダで既に学習した項目を勉強することもあったようで、そういった点についての不満が評点やコメントに表れているものもある。これは、教員側は、文型や文法表現をただ知識として分かっているだけではなく、それを適切に使える運用能力を身につけてもらいたいと考え、授業を行っていたが、それを伝えても学生にとって理解するのが難しかったからだと思われる。授業形態や授業進度が自国とは異なり、3ヶ月という短期間では、それに慣れるのも難しいかとも思われるが、プログラム開始時のオリエンテーションなどで、各授業の目的を学生にきちんと伝えるなどして、改善を図る努力を続けたい。

8 おわりに

このライデン大学短期日本語研修プログラムは、日本語の授業といった修学面だけではなく、住居での問題や病気・怪我への対応等、生活面での支援も国際機構が責任を持って行っているが、2018年度も大きな問題なく、プログラムを無事終了することができた。ここでは結果の掲載を省略するが、学生たちが入居したアパートについてもアンケート調査を行った。アンケート調査結果は、留学支援課と改善すべき点を検討し、次年度の受け入れに役立てたい。

また、3ヶ月という短期間の留学中に、学生たちには多くの日本人と交流し、様々な体験をしてもらいたい。「異文化間コミュニケーションB1」で行う活動も、それが目的であるが、相手側の都合等もあり、また他の授業も多数ある中、計画を立てるのがなかなか難しく、スケジュール的に学生からの不満の声等もあった。その中で全員の学生が楽しみ非常に喜んでいたのが富山市から招待を受け可能になったガラス工房訪問・ガラス制作体験である。富山市のご厚意により可能となった活動であるが、来年度も学生が楽しみ学べる活動を組み入れていきたい。また、希望学生のみ参加した富山大学附属小学校への訪問も参加学生が非常に満足していた。

この日本語研修プログラムを開始して2年であるが、アンケートなどを通して聞いた学生からの声も考慮に入れ、希望学生だけが参加できる課外活動なども取り入れ、今後、学生たちが短期間の富山での滞在を有意義に過ごせるように、さらなる改善を図りたい。

総合日本語コース報告 (2017年10月～2018年8月)

濱田 美和

1 はじめに

総合日本語コースは、日本語・日本文化研修留学生のために、2004年10月に開設した日本語プログラムである。富山大学の外国人留学生全体の中で、日本語・日本文化研修留学生の占める割合は低い。そのため、本コースの授業科目はいずれも日本語課外補講上級及び中級クラスとの合同授業として開講している。2005年9月に初めて本コースの修了生を送り出し、2017年10月に14期目の学生を迎えた。

以下、2017年度秋期(2017年10月～2018年2月)及び春期(2018年4月～8月)の総合日本語コースの実施状況について報告する。

2 受講者

2.1 日本語・日本文化研修留学生

「2017年度富山大学日本語・日本文化研修留学生プログラム」に参加した学生は4人で、秋期、春期ともに総合日本語コースを受講した。学生の出身国・地域はインドネシア2人、ウクライナとベトナム各1人で、所属は人文学部と人間発達科学部各2人だった。

総合日本語コースの授業科目として、2017年度は秋期と春期、各期上級9科目と中級8科目を提供した。総合日本語コースの授業科目は必修科目ではないが、本学の日本語・日本文化研修留学生プログラムの修了要件の一つとして、学部や教養教育の授業科目及び総合日本語コースの授業科目の中から各期8科目以上の履修が義務づけられている。2017年度の日本語・日本文化研修留学生の総合日本語コースの受講状況は9科目(秋期5, 春期4)が1人, 8科目(秋期4, 春期4)が1人, 6科目(秋期4, 春期2)が1人, 4科目(秋期2, 春期2)が1人だった。

2.2 協定校からの短期留学生

総合日本語コースは、日本語・日本文化研修留学生のために開設した日本語プログラムであるが、2006年10月より、本学との学術交流協定に基づく短期留学生も総合日本語コースに参加可能となり、中級レベル以上の日本語力を有する短期留学生は総合日本語コースを受講している。短期留学生については、留学期間が1年の学生が大半であるが、一部半年の学生がいること、また、留学期間が1年の学生についても秋期、春期のいずれかの期のみを受講する学生もいることから、期ごとに受講状況を述べる。

受講者数については、秋期は21人で、出身国・地域別の内訳は中国が9人、韓国と台湾が各5人、ベトナムが2人、所属別の内訳は人文学部が12人、経済学部が6人、人文科学研究科が2人、人間発達科学部が1人だった。春期は20人で、出身国・地域別の内訳は中国が7人、台湾が6人、韓国が4人、ベトナムが2人、ロシアが1人、所属別の内訳は人文学部が9人、経済学部が5人、経済学研究科が4人、人間発達科学部と人文科学研究科が各1人だった。

履修科目数については、秋期は4科目が7人, 3科目が5人, 2科目が8人, 1科目が1人, 春期は7科目が2人, 5科目が5人, 4科目が8人, 3科目が1人, 2科目が4人だった。

3 担当者

秋期は専任教員4人(小木曾左枝子, 副島健治, 田中信之, 濱田美和), 及び, 非常勤講師5人(高島智美, 中河和子, 藤田佐和子, 松岡裕見子, 要門美規), 春期は専任教員4人(小木曾左枝子, 副島

健治, 田中信之, 濱田美和), 及び, 非常勤講師 4 人 (田上栄子, 藤田佐和子, 松岡裕見子, 要門美規) が授業を担当した。いずれの期も専任教員の濱田がコースのコーディネートをを行った。

4 スケジュール

秋期は, 2017 年 10 月 10 日 (火) ~ 2018 年 2 月 8 日 (木) を授業期間, 2 月 9 日 (金) ~ 2 月 19 日 (月) を補講期間とした。12 月 25 日 (月) ~ 1 月 4 日 (木) は冬季休業, 1 月 12 日 (金) は大学入試センター試験準備日のため, 休講とした。また, 曜日調整のため, 1 月 11 日 (木) と 1 月 9 日 (火) は月曜日の授業を行った。春期は, 2018 年 4 月 11 日 (水) ~ 7 月 30 日 (月) を授業期間, 7 月 31 日 (火) ~ 8 月 6 日 (月) を補講期間とした。曜日調整のため, 5 月 2 日 (水) は月曜日の授業を行った。

学期ごとにコーディネーターの濱田がオリエンテーションを行った。実施日は, 秋期は 2017 年 10 月 4 日 (水), 春期は 2018 年 4 月 5 日 (木) である。オリエンテーションでは, 学生に各授業科目の目的, 理解達成目標, 授業計画等を掲載した授業概要の冊子 (授業概要は国際機構ホームページ上にも掲載, Web 版は日本語と英語での閲覧が可能) を渡し, コースの内容, 各授業科目の詳細について説明を行った。春期のオリエンテーションでは, 履修の際の参考となるよう, 秋期の学業成績通知書を学生に渡している。履修登録は, 授業開始後 1 週間以内に行い, 履修登録を行った授業科目について学期終了時に成績を出すシステムとしている。

5 授業内容

総合日本語コースは, 上級及び中級レベルの日本語課外補講の授業と合同で授業を行っているが, 日本語課外補講は成績評価が必要でないため, 授業科目によっては必要に応じ, 総合日本語コースの受講者だけに別課題や試験を課すなどの方法を取っている。科目別の授業概要は表 1 の通りである。科目名に C のついた授業は上級レベル, B のついた授業は中級レベルである。多くの科目が秋期と春期で同一の授業概要 (目的) となっているが, 上級レベルの授業については, 秋期に履修した科目を春期に続けて履修できるように, 授業で取り上げるトピックやタスクの内容は期ごとに変えている。

表 1 総合日本語コース授業概要 (2017 年 10 月 ~ 2018 年 8 月)

授業科目名 (開講曜限)[担当]	授業概要
秋期: 読解 C2a (火 4)[藤田] 春期: 読解 C1a (火 4)[藤田]	文章全体の意味を捉えたり, 文章の細かい部分を読み取る練習をすることにより, 大学での学習や研究に必要な日本語の基本的な読解能力と日本語能力試験に合格するために役立つ力を身につける。秋期は『新完全マスター読解 日本語能力試験 N 1』(スリーエーネットワーク), 春期は『日本語能力試験徹底トレーニング N 1 読解』(アスク出版)を主教材として使用する。
秋期: 読解 C2b (木 4)[田中] 春期: 読解 C1b (木 4)[田中]	大学での研究活動に必要な専門書, 論文の読解能力の養成を目指して, 様々な話題に関する文章を読み, 仲間との対話を通して内容の理解を深める。さらに, 新聞・雑誌記事や教養書を要約し, その内容をグループで討論することによって, 批判的思考力を身につける。
秋期: 文法 C2 (木 2)[濱田] 春期: 文法 C1 (木 2)[濱田]	大学での学習, 研究に必要な上級の文法・表現を整理し, 多くの練習問題を解きながら習得する。日本語能力試験受験対策も行う。秋期は『日本語能力試験レベルアップトレーニング 文法 N 1』(アルク), 春期は『新完全マスター文法 日本語能力試験 N 1』(スリーエーネットワーク)を主教材として使用する
秋期: 作文 C2 (火 2)[松岡] 春期: 作文 C1 (火 2)[松岡]	論理的な文章を書くために必要な構成, 表現, 文法の基本を学び, 学習した項目を用いてまとまった文章を書くことで, レポートや論文を書くための基礎力をつける。文章を書く練習にはコンピュータを使用する。

秋期：聴解 C2 (水 3) [要門] 春期：聴解 C1 (水 4) [要門]	大学で講義を聞いたり、演習や研究会に参加したりする際に必要な聴解力や、日常生活に必要な聴解力を身につけるために、様々な種類の聴解練習を行う。日本語の聴解教材とあわせて、テレビやラジオ、インターネットなど、様々なメディアを用いた練習を行う。
秋期：会話 C2 (火 3) [松岡] 春期：会話 C1 (火 3) [松岡]	ロールプレイ等での会話練習を通して、大学生活や日常生活で出会う場面や状況での会話力を伸ばす。また、人や物、経験など様々なトピックについて日本語で的確に説明・描写する力、意見や感想を述べる力を養う。
秋期：漢字 C2 (月 3) [濱田] 春期：漢字 C1 (月 3) [濱田]	日常生活や大学の講義で用いられている漢字・漢字語の意味を理解し、正しく読み、使う力を身につける。プレースメントテストの結果をもとに選んだテキスト (『INTERMEDIATE KANJI BOOK 漢字 1000PLUS』 Vol.2 (凡人社) 等) を用い、大学での学習、研究生生活に必要な漢字を習得する。
秋期：表現技術 C2 (月 2) [濱田] 春期：表現技術 C1 (月 2) [濱田]	目上の人や初対面の人とやりとりする、あるいは、不特定多数の人に対して情報発信する際に必要となる、フォーマルな場で用いられる日本語の表現、日常的・実用的な文章の書き方、日本語での口頭発表のスキルを習得する。
秋期：日本文化 C2 (水 4) [中河] 春期：日本文化 C1 (水 3) [松岡]	留学生として日本社会を分析する試み (情報の読み取り、整理など) を TV 番組、新聞・雑誌記事、自治体広報などの様々なメディアを用いてする。日本社会を読み解くための身の回りのリソースを活用する手だてを与え、そこから得たものを日本語で発信する力を養成する。
秋期：文法・表現 B2a (火 1・2) [高島], b (水 1・2) [中河] 春期：文法・表現 B1a (火 1・2) [要門], b (水 1・2) [田上]	指定されたトピックについて自分の力で話を組み立てていくことを通して、大学生活・日常生活に必要な中級の日本語能力を身につける。『ジェイ・ブリッジ』 (凡人社) を主教材として使用する。
秋期：文法・読解 B2a (木 1・2) [副島], b (金 1・2) [松岡] 春期：文法・読解 B1a (木 1・2) [副島], b (金 1・2) [松岡]	様々なトピック内容の読み物を日本語学習の教材とし、大学での学習や研究に必要な日本語の言語能力の基礎力をつけ、同時にトピックの内容などを通して考える力を養成する。『日本語中級 J301』、『日本語中級 J501』 (スリーエーネットワーク) を主教材として使用する。
秋期：文法 B2 (金 2) [小木曾] 春期：文法 B1 (月 1・2) [小木曾]	初級の文法を復習しながら様々なトピックの読み物を読み、中級への足がかりとなる文法を学ぶ。また、大学での学習や研究に必要な考えをまとめる力を養うために、各トピックについての作文課題などを通して書く力を養成する。『中級へ行こう』 (スリーエーネットワーク) を主教材として使用する。
春期：作文 B1 (金 3) [田中]	自分の考えを根拠を挙げて筋道立てて書けるようになること、また、協働的な活動を通して自律的な書き手となることを目指して、作文の基礎を学んだ後、意見文、要約文、説明文を書く練習を行う。
秋期：聴解・会話 B2a (月 2) [小木曾], b (火 3) [小木曾]	中級レベルに必要なオーラル・コミュニケーション能力を伸ばすことを目的として、話すことと聞くことに焦点を置き、ロールプレイ、ディスカッション、ショート・プレゼンテーションなど様々な活動を行う。
春期：聴解・会話 B1 (火 3) [田中]	中級の文法事項や語彙の習得を意識しながら、日本の大学で学生生活を送る上で必要となる日本語能力の中で、特に聴く力を身につける。友人同士、学生と教員、初対面の人同士の会話を聞き取る練習をしながら、口語的な表現への理解を深め、それらを場面や人間関係に応じて使えるよう練習する。
秋期：漢字 B2 (月 4) [濱田] 春期：漢字 B1 (月 4) [濱田]	日常生活や大学の講義で用いられている漢字・漢字語の意味を理解し、正しく読み、使う力を身につける。プレースメントテストの結果をもとに選んだテキスト (『INTERMEDIATE KANJI BOOK 漢字 1000PLUS』 Vol.1 (凡人社) 等) を用い、大学での学習、研究生生活に必要な漢字を習得する。
春期：プレゼンテーション B1 (火 4) [濱田]	大学での学習や研究で必要となる、日本語での情報収集と基本的なプレゼンテーションの行い方を学ぶ。学期末に行う発表会に向けて、情報収集、発表原稿の作成、プレゼンスライドの作成を行う。

*1 限 8 : 45 ~ 10 : 15, 2 限 10 : 30 ~ 12 : 00, 3 限 13 : 00 ~ 14 : 30, 4 限 14 : 45 ~ 16 : 15

*1 回 90 分 (上級レベルの全科目、文法 B2、作文 B1、聴解・会話 B2ab・B1、漢字 B2・B1、プレゼンテーション B1) あるいは 180 分 (文法・表現 B2ab・B1ab、文法・読解 B2ab・B1ab、文法 B1) の授業を全 15 回行っている。

なお、学生による授業評価アンケートは、日本語課外補講上級及び中級クラスとまとめて実施した。授業評価アンケートの結果については、日本語プログラム授業アンケートを参照いただきたい。

6 成績評価

成績評価の方法については、成績評価の基準を授業概要に明記するとともに、オリエンテーションでも説明している。この基準をもとに授業担当者が、秀（90点以上）、優（80点～89点）、良（70点～79点）、可（60点～69点）、不可（59点以下）で判定を行うが、総合日本語コースの授業科目については単位が出ないことになっている。8月（留学期間が半年の学生については3月）に成績を記した履修証明書の発行を国際機構長名で行った。

7 学生からの評価

前述の通り、各授業科目に関する授業評価アンケートは日本語課外補講とまとめて実施し、これ以外に、総合日本語コース全体についてはインタビュー調査（実施日：2018年2月5日（月）、2月7日（水）、7月20日（金）、7月23日（月）～26日（木）、調査対象：2017年度日本語・日本文化研修留学生（4人）、協定校からの短期留学生（18人））を行った。この結果を表2に示す。

表2 総合日本語コースインタビュー調査結果

1. 総合日本語コース：科目について	<ul style="list-style-type: none"> ・十分だった。（18人） ・日本語の授業と専門の授業の時間が重なっていたので、日本語は3つしか取れなくて残念だった。 ・中級は少なかったが、上級は大丈夫だった。「文法・読解B」を受講したが、上級のように「文法」と「読解」で分かれているほうが良かった。「文法」は難しいが、「読解」はわかるので、別々のほうが効率的に勉強できると思う。 ・十分だと思うけど、もっと上のレベルを目指した授業もあったらいいと思う。 ・生活に関する日本語の授業があったらいいと思う。たとえば会話の授業が増えるといいと思う。
2. 総合日本語コース：レベルについて	<ul style="list-style-type: none"> ・ちょうどよかった。（12人） ・上級の科目を選んだので、自分の力にぴったりだと思う。 ・全体的にちょうどよかった。科目は母国の大学と違うが、母国では単語や文法を中心として、ここでは会話や聴解の力が伸びた。 ・母国の大学より簡単で私にとってよかった。母国では日本語の古典文法の授業もある。 ・この授業は易しいほうが良いかな。ちょうどよかったと思う。 ・中級と上級を受けたけど、自分の力はその真ん中ぐらいなので、勉強がちょっと大変だった。 ・中級クラスはN3レベルで、上級クラスはN1レベルで難しいので、N2レベルのクラスがあったらいいと思う。 ・私にとって上級レベルはちょっと高かったと思う。日本語の知識は大丈夫だけど、秋期は日本の経済、歴史、文化などが難しいと思った。 ・「文法C」はちょっと難しすぎた。 ・上級クラスの授業も全体的にちょっと簡単だった。 ・漢字はもっと難しいものを勉強するクラスがあるとよかった。
3. 科目選択の際に重視したこと	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の弱い点を伸ばすことができるような科目を選んだ。（4人） ・興味がある科目、自分の弱いところが勉強できる科目を選んだ。 ・苦手なところを選んだ。また、学部の先生から勧められた科目を選んだ。 ・まずは自分の苦手なところを選んだ。そして、先生の優しさとか先輩からの紹介で選んだ。 ・秋期は自分の苦手な科目、春期は前期の授業を受けた人の意見をきいて選んだ。 ・自分の能力で弱い点を強くしようと思って選んだが、文法の数はいくらでも覚えられないと思って、していても終わりが見えないから文法の授業は選ばなかった。 ・身につけたい能力のために、会話や聴解など弱い部分を補強するために、授業を選んだ。 ・日本語の能力を高めたいという点で選んだ。留学生と一緒に勉強することを楽しんだ。 ・先輩にその先生が優しいと聞いて、あとは時間割や自分の興味があるかで選んだ。 ・まず時間が空いているのか、次に私に役に立つかどうかで選んだ。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ 時間帯がちょうどよかったのと、漢字が最初は読めなかったので、選んだ。 ・ まずは修了レポートを書くために作文を取った。それから、専門の時間と重ならないように、どのような能力を高めたいかということで選んだ。 ・ 生活で使える日本語を勉強したいと考えて、選んだ。 ・ 日本語が話せるように、他の人と雑談とか普通の話をしたと思って選んだ。また、専門の授業内容がわかるようにと考えると、選んだ。 ・ 将来仕事で使える授業と日常会話で役に立つ授業を選んだ。 ・ 最初は話す力と聞く力を勉強したかった。次は書く力と読む力を伸ばそうと思った。 ・ 自分がやりたい科目、春期は日本語能力試験を受けるから、能力試験のための科目を取った。秋期は自分の知識を高めるための授業を取った。 ・ まず日本語能力試験を受けたいから、その目標のために選んだ。あと母国で勉強する機会のない科目も選びたいと思った。会話の授業は日本のほうが深く勉強できる。上級向けの会話が母国ではない。 ・ 最初は時間割、2番目は内容で、自分のやりたい内容と合っているかどうかで選んだ。そして、単位があるかどうかについても考え、単位がない総合日本語コースの科目はそんなにたくさん取らなかった。
<p>4. 自身の日本語力について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 伸びたと思う。しゃべることができる。昔はしゃべることは怖いと思ったが、今は怖いと思わない。 ・ 伸びたと思う。前より考えなくても話せるようになった。 ・ 伸びたと思う。聞き取りと話し言葉が伸びたと思う。 ・ 伸びたと思う。会話の授業で他の留学生と話し合っって自分の意見も言えるようになった。 ・ 伸びたと思う。授業で日本語でスピーチやディベートをする力が伸びた。 ・ 伸びたと思う。会話能力が伸びた。特に、「読解」や「聴解」や「日本文化」の授業で話す機会が多かった。 ・ 伸びたと思う。会話や聴解の力が伸びた。「日本文化」の授業を通して日本人の気持ちをもっと理解できるようになった。 ・ 伸びたと思う。会話や作文の力が伸びた。 ・ 伸びたと思う。最初は作文を取っていて、書くのに必要なテクニックなどがわかったので、作文が進歩した。作文の練習は自分でできないので最初は下手だったけど、今は論文も書けるようになった。もともと会話は国でも日本人と話していたので、日本に来てあまり問題がなかったのはそのおかげだと思う。文法も作文の助けになった。 ・ 伸びたと思う。話す力と書く力が伸びた。前が全然書くチャンスがなかったので、レポートもそんな練習していなかったもので、構成とかも勉強になった。 ・ 絶対に伸びた。もともと日本語学科でなくて、最初は日本語を話すのが怖かったけど、乗り越えて、こちらでの生活の言葉も話せるようになって、発表や書く力はまだまだけど進んでいると思う。 ・ 伸びたと思う。特に日本人と話すときその内容がわかるようになった。読むときも知らない漢字が少なくなった。 ・ 伸びたと思う。読解能力が伸びた。以前N1を受けたときは、読解でいくつも間違えた。今回の結果はまだわからないけれど、普通に読むことができた。聞く能力も高まったと思う。ただ、専門の授業で日本語で話すチャンスは想像より少なく、日本人の学生と友達になるような時間も専門の授業であまりなかった。 ・ 伸びたと思う。言葉遣い、敬語の使い方がだんだんわかるようになった。他には文法、話す順番とか動詞の使い方がわかるようになった。 ・ 伸びたと思う。漢字が読めるようになった。でも、しゃべることはまだまだで、国際機構談話室で日本人と話すときも、ずっと携帯で言葉を調べた。日本人の話すスピードが速い。 ・ 伸びたと思う。一番感じたのは読める漢字が増えたこと。ゼミやセンター（国際機構談話室）の日本の友達と話すうちに、自分の話すレベルもだんだんよくなってきた。 ・ 伸びたと思う。特に専門に関する語彙の力は伸びたが、日常生活の語彙はまだ難しい。 ・ 伸びたと思う。聴解の授業のおかげで、ニュースがもっとわかるようになった。まだ力不足のところもある。 ・ 伸びたと思う。聴解の能力も伸びたし、話す力も伸びたと思う。日本に来る前は漢字に自信を持っていたが、日本に来てからは手書きで書く機会が少なかったもので、漢字を書く力については前のほうが自信があった。 ・ そんなに変わらないと思う。会話は少し伸びたと思う。 ・ N1の文法は勉強したけど、その文法は実際には使わないので、ちょっと難しかった。会話と読解と聴解の授業はおもしろかった。いろいろなことが勉強になった。会話能力も高められた。読解は下手だが、みんなとたくさん話して自分の意見を述べることも上手になったと思った。たくさん話したので、話す力は伸びたと思う。 ・ あまり伸びなかった気がする。もしかしたら昔の私と比較したら、わかるかもしれない。他人からすればもっと正確な情報が得られるかもしれない。

<p>5. 富山での留学生活について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・楽しかった。 ・楽しかった。いろいろな友達と話し合ったりして充実していた。富山に来てよかった。大都市に行くと、同国人が多いし、語学の勉強にもよくないと思うので、留学するなら田舎のほうが良いと思う。4年間の留学だったら都会が良いけれど、1年間だったら田舎のほうが良いと思う。 ・楽しかった。もともと富山がどういうところかわからなかったが、来たら住むのにいいところだと思った。自然もあるし、空気もきれいだし。富山大学での勉強は専門の勉強にもなったし、日本語も進歩したし楽しかった。この1年は本当にかけがえのない経験だった。 ・当然楽しかった。いろいろな友達に会った。そして、先生たちもとても優しい。新しい視点から自分の生活を見ることができた。新しいものが見つかった。自分について新しい発見があった。 ・日本人の学生と他の国の留学生と一緒に交流して、たくさん話したので、とても楽しかった。いい思い出になった。富山の生活も暮らしやすいと思う。食べ物、空気、満足できた。 ・生活のんびりして、先生も優しく、授業の内容もとてもおもしろかった。富山に来てよかった。 ・はじめて富山に着いたとき、緑が多くて静かな町だと思った。のんびりで心地よく生活できた。そして、学校での授業もとても充実して、時間も早く過ぎたと思う。富山の人は親切。 ・とても満足だった。個人的に日本語の能力は一部分高められたし、新しい同じ国の友達もできた。指導教員の先生は日本語が専門でないので、最初はびっくりしたけど、1人で生活するときは悩みもいろいろあったが、とても優しくしてくれて本当に感動した。 ・富山はとてもきれいな町だと思った。富山での生活で困るのは交通。特に冬。富山の人はまじめ。いろいろお世話になって、特にコンビニでアルバイトするとき、迷惑をかけたけど、みんな優しくかった。 ・よかった。生活はそんなに忙しくないし、物価もそんなに高くないと思うから。子供のころから地下鉄がある便利なところに住んでいたのだから、富山はバスとか交通機関が少なかったのが不便だった。1人暮らしもはじめてだったが、何かあったら指導教員の先生や両親に助けてもらったので大丈夫だった。 ・最初は都会が良いと思ったが、富山の生活に慣れると、田舎の雰囲気が良いと思うようになった。春の田んぼの風景とか東京ではこんな風景は見られないと思った。一般の人の日常生活を見る機会があった。会社員の生活だけでなく、農業をしている人たちの生活も見ることができた。富山からどこかに行くことは運賃とか高くなってしまっているのでそんなに簡単じゃないけど、富山のことは好きだ。 ・辛くないと思う。問題点は交通機関の不便さだけど、これは大学の問題じゃないので、仕方がないと思う。大学生活は特に問題なかった。 ・交通に対する不満がいっぱいあるが、それ以外はよかった。友達もできたし、実は国で専攻は日本語だけど、富山大学では経済学部で勉強して、大学院で学ぶ専攻について考えることができた。 ・富山は車があったらいいと思う。静かな雰囲気でもいいけど、去年と今年と天気が大変だった。それ以外は、留学して日本の文化とか祭りとか感じる機会が多くていいと思う。 ・寮が遠い。雪がいっぱい降っているから大変だった。いろいろな場所に旅行して楽しかった。金沢で着物を着たのがよかった。富山で日本人の友達できて、いっぱい話して、それが良かった。 ・天気以外はよかったと思う。天気が悪いとき、通学には本当に困った。 ・いい年に来た。雪も多くて、夏はとても暑くて…いいタイミングに。自分の国では経験できないときに…。でも、なんとかなった。特に問題なかった。食べ物も全部食べられたし。富山県内いろいろなところへ行った。 ・大変なことが多かった。富山の天気は今年は冬も夏も。でも、他に生活費もあまりかからないし、ありがたい。指導教員にいろいろお世話になったので、この1年間も楽になった。 ・夏は暑すぎて大変だった。それだけであととはとても楽しかった。富山は静かで、忙しくなくて、ゆっくりできていい感じだった。ただ、交通機関は不便だった。 ・富山はきれいなところだけれど、寒かった。電気代が高かった。国際交流会館と学校の距離が遠くて、雪が多くて大変だった。学校のバスがあったらよかった。大学での生活は、チューターはあまり話さない人で、とても楽しかったけど、チューターのほうから話すことが少なかった。優しすぎる人だったからだと思う。他の日本人の友達と話した。
------------------------	---

	<ul style="list-style-type: none"> ・大変なことが多かった。車がないと行動しにくい。交通費も高いし、イベントの情報などを得るのが難しかった。日本文化体験のイベントももっとあったらいいと思った。学部によって留学生への対応も違う。日本語の授業を取るとき、どうしたらいいかわからなかった。国際機構談話室で日本人と交流したりできてよかった。授業で日本人と交流するのはみんな授業が終わったらすぐ帰るし難しいと思う。 ・少し残念なのは、今までの先輩、今度来る後輩は奨学金があったのに、今年だけなかったこと。天気も今年の冬と夏はどうして極端なのか。この他は大丈夫だった。富山の生活はゆっくりでいい。
--	---

まず、コースの開講科目数については十分だったという学生が多かった。次に、コースのレベルについてはちょうどよかったという学生が多かったが、中級クラスと上級クラスの間レベルのクラスを望む声も複数の学生から聞かれた。科目選択の際に重視した点として多かったのは、自身の苦手な点について力を伸ばそうと考えて選んだという回答が最も多く、他には時間帯、自身の興味、日本語能力試験対策のため、将来の仕事のため、日常生活のため、といった回答があった。自身の日本語能力については大半の学生が伸びたと答え、特に聞く、話す力の伸びを挙げる学生が多かったが、漢字・語彙力、読む力、書く力の挙げる学生も一定数いた。最後に、富山での留学生活については、静かな環境、豊かな自然、ゆとりのある生活、日本人学生や他の留学生との交流、周囲の人からのサポートを良さとして挙げる学生が多かった。一方、困った点としては、天候と公共交通機関の不便さを挙げる学生が多く、特に第14期は冬は雪が多く、夏は猛暑だったため、暑さ寒さへの不満の声が例年より多く聞かれた。

8 おわりに

総合日本語コースは、第12期より上級クラスに加えて新たに中級クラスの提供を始め、今回第14期はその3年目である。総合日本語コースは上級クラスの受講者が多く、第14期についても秋期は上級クラスが23人、中級クラスが3人（うち1人は上級クラスも受講）、春期は上級クラスが20人、中級クラスが5人（うち1人は上級クラスも受講）と、中級クラスの受講者は少なかった。しかし、7学生からの評価で述べたように、中級クラスでは易しすぎ、上級クラスでは難しすぎるという学生が一定数見られる。第13期の報告でも「上級レベルの科目は難しすぎるが、中級レベルでは簡単すぎるという学生が以前よりも増えているように思われる」と述べた。この中級クラスと上級クラスの間レベルの学生への対応が大きな課題である。そこで、第15期については試行的に春期開講の上級クラス「文法C1」についてレベル別に2科目開講することにした。今後もコース受講者の日本語力やニーズをアンケート調査やインタビュー調査を通じて詳細に把握しながら、よりよいコースを提供の在り方を検討していきたい。

日本語プログラム授業アンケート 初級クラス (2018 年度)

田中 信之

初級クラスは、2018 年度前期と後期にそれぞれ「文法 A」、「聴解・会話 A」、「漢字 A」、「生活日本語 A a」、「生活日本語 A b」の 5 科目を開講した。前期は 20 人（日本語研修コース 1 人、日本語課外補講 19 人）、後期は 27 人（日本語課外補講 27 人）が受講した。

各学期末に受講者に対して授業改善のためのアンケートを行った。アンケートは科目ごとに実施し、授業の内容、難易度、進度、教材、教え方について 5 段階評価と自由記述で回答を求めた。この他に、学生自身の出席状況と欠席理由、予習復習の状況についても質問した。

以下、表 1 に 2018 年度前期、表 2 に 2018 年度後期の集計結果をまとめた。1 人の学生が複数の授業科目に答えているため、括弧内の人数はいずれも延べ人数を表す。評点は 5 段階評価で、値が大きいほど良い評点であることを示す。「とてもよかった」を 5 点、「よかった」を 4 点、「ふつう」を 3 点、「あまりよくなかった」を 2 点、「ぜんぜんよくなかった」を 1 点として、その平均点を出したものである。

なお、自由記述の日本語の表記や助詞等の間違いは修正して掲載した。

表 1 2018 年度前期初級クラスの授業内容についてのアンケート結果 (回答 21 人)

質問項目 (回答者数)	評点	自由記述
1. 授業内容 とてもよかった (17 人) よかった (2 人) ふつう (1 人) あまりよくなかった (1 人) ぜんぜんよくなかった (0 人)	4.7	
2. 授業のレベル ちょうどよかった (14 人) よかった (5 人) ふつう (10 人) あまりよくなかった (0 人) ぜんぜんよくなかった (1 人)	4.5	
3. 授業の進度 ちょうどよかった (14 人) よかった (5 人) ふつう (1 人) あまりよくなかった (1 人) ぜんぜんよくなかった (0 人)	4.5	
4. 教科書・プリント とてもよかった (17 人) よかった (2 人) ふつう (2 人) あまりよくなかった (0 人) ぜんぜんよくなかった (0 人)	4.5	<ul style="list-style-type: none"> ・ However, additional reading materials(texts) would be very useful to memorize new words and kanjis. (文法 A1) ・ I personally don't like the textbook used. (生活日本語 A1a) ・ Teaching materials was provided during class, no need for buying. (生活日本語 A1b)
5. 教え方 とてもよかった (20 人) よかった (1 人) ふつう (0 人) あまりよくなかった (0 人) ぜんぜんよくなかった (0 人)	4.7	<ul style="list-style-type: none"> ・ 先生の授業がいちばんおもしろいです。すきです。(文法 A1)

6. どのぐらい出席したか 80%～100% (16人) 60%～80% (3人) 40%～60% (1人) 20%～40% (0人) 0%～20% (1人)	-	欠席した理由 ・専門の授業やゼミがあったから (12人) ・アルバイトがあったから (0人) ・病気のため (1人) ・その授業に興味がなかったから (0人) ・その他 (2人)…Out of city for experiments.
7. 予習・復習をしたか かなりした (12人) すこした (6人) ぜんぜんしなかった (1人)	-	・専門の授業があるので、毎日とても忙しいけど、充実感があります。 ・ときどき復習をしなかった。

その他

- ・この授業も、先生も、最高だと思っています！今までありがとうございます！ (文法 A1)
- ・Although the progress of learning Japanese is a little difficult, but it is very interesting and enjoying it. (文法 A1)
- ・Teachers are very kind and take care of everyone. (文法 A1)
- ・わたしの会話がよくなりました。ありがとうございます。(聴解・会話 A1)
- ・日本語で会話が上手になりました！今までありがとうございます！フランスの留学生にあえなかったですけど…(聴解・会話 A1)
- ・In my opinion, I think that music is the others way to improve the Japanese level. (漢字 A1)
- ・二回このじゅぎょううけたけど、勉強をたのしみました。いろいろなことをならってありがとうございます。(漢字 A1)
- ・Very interactive class. (生活日本語 A1a)
- ・Excellent interaction built up between teacher and student. (生活日本語 A1b)

表2 2018年度後期初級クラスの授業内容についてのアンケート結果 (回答 18人)

質問項目 (回答者数)	評点	自由記述
1. 授業内容 とてもよかった (10人) よかった (3人) ふつう (0人) あまりよくなかった (0人) ぜんぜんよくなかった (0人)	4.6	<ul style="list-style-type: none"> ・ The courses was taught from the most beginning, so that I can easily understand the grammar. Making a great path for the more difficult part. (文法 A2) ・ I think it might be good if we can talk about nowadays situation, news and interesting things by using the content from the class. It might be help to remember vocabulary and sentence easily. (文法 A2) ・ All of teachers teach very well. I appreciated for all of teacher. (文法 A2) ・ 毎日充実しています。先生の説明は詳しいです。(文法 A2) ・ 先生はともしんせつです。(文法 A2) ・ The content might be relate to JLPT test. (漢字 A2)
2. 授業のレベル ちょうどよかった (7人) よかった (5人) ふつう (1人) あまりよくなかった (0人) ぜんぜんよくなかった (0人)	4.3	<ul style="list-style-type: none"> ・ 今の授業はちょうどいいです。(文法 A2) ・ Because I skipped some class which I'm so sorry about it. I still learn a lot from classes. Compared to the first time I got here. I felt I learn a lot. (文法 A2) ・ But a little fast. (文法 A2) ・ It would be little bit difficult for 50 lessons in this short time. If the period of the classes may long, it would be easy. (文法 A2)
3. 授業の進度 ちょうどよかった (6人) よかった (5人) ふつう (1人) あまりよくなかった (1人) ぜんぜんよくなかった (0人)	4.6	<ul style="list-style-type: none"> ・ ゆっくりですから、よかったです。(文法 A2) ・ 速さはちょうどいいです。充実しています。(文法 A2) ・ ことばをたくさん おぼえなければなりません (per lesson)。たくさん ことばをわすれるとき、じかんがかかります。(文法 A2) ・ Sometimes it goes too fast, and there is no time to ask questions about content that I've learned. It's not a big problem, every teacher tried to answer everyone but it's depend on the time. (文法 A2) ・ For me, I think the progress of the class a little bit fast if could be slower than this will be very good. For example, 1 lesson could divide into 2 times. (文法 A2)

<p>4. 教科書・プリント とてもよかった (11人) よかった (2人) ふつう (0人) あまりよくなかった (0人) ぜんぜんよくなかった (0人)</p>	4.8	<ul style="list-style-type: none"> ・ ちょうどいいです。教科書は詳しいです。(文法 A2) ・ とても はっきり。(文法 A2) ・ みんなの日本語 is a great textbook for people who learn Japanese for first time. It use a lot of daily vocabulary so that we can use it in our daily life easily. (文法 A2) ・ It's was very good that we can learn from another materials and content except from the main book. (文法 A2)
<p>5. 教え方 とてもよかった (8人) よかった (5人) ふつう (0人) あまりよくなかった (0人) ぜんぜんよくなかった (0人)</p>	4.6	<ul style="list-style-type: none"> ・ 先生はとても真面目です。優しい人です。(文法 A2) ・ 先生の説明は役に立ちます。先生の教え方は好きです。(文法 A2) ・ 先生は熱心で真面目です。(文法 A2) ・ It would be better for the students to explain Grammar Notes more clear than in the textbook with daily life situations, it would be better for the remembering better to learn quickly. (文法 A2)
<p>6. どのぐらい出席したか 80%～100% (10人) 60%～80% (6人) 40%～60% (2人) 20%～40% (0人) 0%～20% (0人)</p>	-	<p>欠席した理由</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 専門の授業やゼミがあったから (7人) ・ アルバイトがあったから (1人) ・ 病気のため (3人) ・ その授業に興味がなかったから (0人) ・ その他 (3人) …Experiments. (文法 A2) <p>Spend a lot of time to do experiment and finished very late (12:00 am.) So could not wake up. (文法 A2)</p> <p>In the winter holiday I go to my country at that time I absent for 4-5 classes. (文法 A2)</p>
<p>7. 予習・復習をしたか かなりした (8人) すこした (10人) ぜんぜんしなかった (0人)</p>	-	<ul style="list-style-type: none"> ・ よく復習したら、はやく進歩します。(文法 A2) ・ 充実しています。役に立ちます。(文法 A2) ・ 時間がちょっと、でもがんばって。(文法 A2) ・ Vocabulary test is help a lot to remember the word and to review what I've learned before. (文法 A2) ・ I don't have time to much to prepared but I try to prepared before have a class. (文法 A2) ・ I don't know about how to prepare for this class. It takes much time to adjust with the lessons. It would be better to explain the way/ how to prepare / how to learn the Japanese language. (文法 A2) ・ But sometimes I cannot fully prepared. (文法 A2) ・ ときどき ちょっと いそがしいです。けんきゅうと 日本語の しゅくだい です。(漢字 A2)

その他

- ・ 本当にありがとうございます。毎回の授業はたのしみ。充実しています。先生は本当にねっしんに教えてくれます。(文法 A2)
- ・ It's already half year past. I learn a lot from it. いつもお世話になって、ほんとうにありがとうございました。(文法 A2)
- ・ じぶんのレベルはだんだんよくなります。先生はとても熱心で親切です。そして、いつも授業に行きたいですね。(文法 A2)
- ・ ① Thank you all of teacher. Even I don't have a time to join too much because of I had experiment even in the holiday. So I'm really sorry for absence the class. ② Although, I don't have a time too much but I always want to learn Japanese class. (文法 A2)
- ・ Before the commencement of classes please explain the program pattern and students preparation plan and about the exams. (文法 A2)
- ・ Grammar class: 1 lesson / 2days (文法 A2)
- ・ If the conversation video is viewed again, it will help to understand more. (文法 A2)
- ・ Our class teacher teaches us very well. I am happy to have Bahau Sensei's class. He tried to make understand with his best ability. (生活日本語 A2ab)

アンケート結果を見ると、2018年前期と後期とともに高い評点を得られた。特に「教え方」、「授業内容」「教科書・プリント」が高い評価となっている。自由記述も肯定的な意見が多く見られるが、授業への希望も見られた。一つは、学習した文型を用いて、ニュースなどのトピックを話し合いという希望である。興味のあるトピックで話すことにより、語彙も覚えられると述べている。もう一つは、会話DVDを再度視聴したいという希望である。「会話」と「聴解」のクラスが「聴解・会話」に統合

されるなど、授業時間数が限られている中、できるだけ効率の良い授業を行わなければならない。また、会話 DVD については、「聴解・会話」でも扱うことを検討していきたい。

一方で、自由記述には授業を欠席した反省の言葉も見られた。後期の学生数はここ数年では多く、クラスの雰囲気もよく、活発に活動した。しかしながら、学期の中盤以降は欠席が目立つ学生が増えてきた。大学院への進学を目指す学生より、半年や1年のみ日本に滞在する短期留学生のほうがこのような傾向があるように思われる。今後は学生の動機づけが高まるように授業を工夫し、また、授業外では声がけをしていきたい。

日本語プログラム授業アンケート 中級クラス (2018年度)

小木曾 左枝子
副島 健治

2018年度日本語プログラム(中級)を受講した受講生は、前期においては、課外補講32人(うちライデン大学からの短期研修留学生14人)、総合日本語コース14人(全員が協定校からの交換留学生)、計46人であった。後期においては、課外補講16人、総合日本語コース4人(日本語・日本文化研修留学生2人、協定校からの交換留学生2人)、計20人であった。

そして前期、後期のそれぞれの日本語プログラム(中級)が終了する時期に、受講した学生に授業アンケートを実施した。そのアンケートの結果について報告する。ただし、ライデン大学からの交換留学生については、別途報告があるので、ここでは除く。

表1は2018年度前期、表2は2018年度後期に実施したアンケートの結果をまとめたものである。なお、表中の人数は延べ人数を示す。(回答者の延べ人数は、前期37人、後期39人だが、無答もあったので表中の数字と一致しない場合がある。)

評点は「とてもよかった」を5点、「よかった」を4点、「ふつう」を3点、「あまりよくなかった」を2点、「ぜんぜんよくなかった」を1点として、その質問項目の平均値を出したものである。「その他」は、アンケート回答者の自由記述であるが、記述の助詞の誤り等は直した。

表1 前期中級クラスの授業内容についてのアンケート結果

※ アンケート回答者数(延べ数): 37人

質問項目(回答者延べ数)	評点	自由記述
1. 授業内容 とてもよかった(24人) よかった(13人) ふつう(0人) あまりよくなかった(0人) ぜんぜんよくなかった(0人)	4.5	・たくさん勉強になりました。(文法・読解 B1) ・授業の内容がとても生活に役立っています。(聴解・会話 B1)
2. 授業のレベル ちょうどよかった(16人) よかった(13人) ふつう(6人) あまりよくなかった(1人) むずかしすぎた(1人) やさしすぎた(0人) ぜんぜんよくなかった(0人) 無回答(1人)	4.3	・文法表現は難しいです。(文法・表現 B1) ・最初は難しかったんですが、慣れてきました。(文法・表現 B1) ・少し難しい。(文法・読解 B1)
3. 授業の進度 ちょうどよかった(16人) よかった(13人) ふつう(6人) あまりよくなかった(1人) はやすぎた(1人) おそすぎた(0人) ぜんぜんよくなかった(0人) 無回答(1人)	4.2	・ちょっと遅かった。(作文 B1)

4. 教科書・プリント とてもよかった (20人) よかった (14人) ふつう (2人) あまりよくなかった (0人) ぜんぜんよくなかった (0人) 無回答 (1人)	4.5	<ul style="list-style-type: none"> ・ The textbook was difficult for me to learn. I could not get into a pattern of studying, and I didn't find the textbook interesting. (文法・表現 B1) ・ 教科書はちょっと古いです。(文法・読解 B1)
5. 教え方 とてもよかった (24人) よかった (12人) ふつう (0人) あまりよくなかった (0人) ぜんぜんよくなかった (0人) 無回答 (1人)	4.7	
6. どのぐらい出席したか 80%～100% (28人) 60%～80% (6人) 40%～60% (3人) 20%～40% (0人) 0%～20% (0人)	—	出席率が80%以下の学生9人の欠席した理由 (複数回答) <ul style="list-style-type: none"> ・ 専門の授業やゼミがあったから (6人) ・ アルバイトがあったから (0人) ・ 病気のため (4人) ・ その授業に興味がなかったから (0人) ・ その他 (4人)：実験があったから (2人), 研究があったから (1人), 日本に5月25日に来ました (1人)
7. 予習・復習をしたか かなりした (22人) すこしした (14人) ぜんぜんしなかった (1人)	—	

その他

- ・ いろいろなことを習って、ありがとうございます。(文法・表現 B1)
- ・ 先生は我慢強い。ありがとうございます。(文法・表現 B1)
- ・ 初級から中級の授業は苦手です。(文法・読解 B1)
- ・ 授業のレベルは少し難しいと思います。(文法・読解 B1)
- ・ 小木曾先生、ありがとうございます！(文法 B1)
- ・ 教材と先生が役に立って、ありがとうございます！いろいろなことを習って、本当にありがとうございます。(文法 B1)
- ・ 田中先生はいい先生です。(聴解・会話 B1)
- ・ 心からありがとうございます。(聴解・会話 B1)
- ・ ありがとうございます。(聴解・会話 B1)
- ・ 聴解の部分が一番好きでした。特に、話す言葉の説明は役に立ちました。(聴解・会話 B1)
- ・ 他の授業で習わないことをこの授業で習いました。お疲れさまです。本当にありがとうございます。(聴解・会話 B1)
- ・ 時間があったら、日本のアニメとか映画を見せてほしいです。(聴解・会話 B1)
- ・ 内容はよかったです。グループを分けるとき、グループメンバーのレベルを考えたほうがもっといいと思います。お疲れさまでした！(作文 B1)
- ・ 田中先生、本当にありがとうございます。(作文 B1)
- ・ 田中先生はいい先生です。(作文 B1)
- ・ この作文の授業を受けたので、自分は自分の意見がうまく書けるようになってきて、よかったです。(作文 B1)

表2：前期後期クラスの授業内容についてのアンケート結果

※ アンケート回答者数 (延べ数)：39人

質問項目 (回答者数)	評点	自由記述
1. 授業内容 とてもよかった (29人) よかった (9人) ふつう (0人) あまりよくなかった (0人) ぜんぜんよくなかった (0人)	4.8	<ul style="list-style-type: none"> ・ 先生が大好きです。(文法・表現 B1) ・ 良いです。(文法・読解 B1) ・ 良かったのですが授業は、とても難しいからゆっくり教えた方がいいです。(文法・読解 B1) ・ 良かったです。(聴解・会話 B1)

2. 授業のレベル ちょうどよかった (26人) よかった (11人) ふつう (1人) あまりよくなかった (0人) ぜんぜんよくなかった (0人)	4.7	・難しすぎた。(聴解・会話B1)
3. 授業の進度 ちょうどよかった (21人) よかった (16人) ふつう (1人) あまりよくなかった (0人) はやすぎた (0人) おそすぎた (0人) ぜんぜんよくなかった (0人)	4.5	・ちょっと早いと思う。(文法・読解B1) ・早すぎた。(聴解・会話B1)
4. 教科書・プリント とてもよかった (24人) よかった (13人) ふつう (1人) あまりよくなかった (0人) ぜんぜんよくなかった (0人)	4.6	・勉強の内容がない。わからない単語がなかった。(文法・読解B1) ・教科書はとても役に立ちました。(作文B1) ・教科書が重かったです。(聴解・会話B1) ・教科書の内容が別のクラスの内容と20%程同じところがあった。(文法・読解B1) ・教科書の説明は分かりやすかったと思います。(文法・読解B1) ・とても便利で、論文に役立ちます。(作文B1) ・J 501の教科書の方がJ 301より複雑です。J 301は分かりやすい。(文法・読解B1) ・今まで「総まとめ」や「みんなの日本語」だけで勉強したので、この授業で使用した教科書はとても分かりやすく、役に立ちました。(文法・読解B1)
5. 教え方 とてもよかった (13人) よかった (7人) ふつう (0人) あまりよくなかった (0人) ぜんぜんよくなかった (0人)	4.8	・詳しい説明があるのでとても分かりやすい。とても良いと思います。(文法・表現B1) (文法・読解B1) (作文B1) ・とても詳しい、どうもありがとうございます。(文法・表現B1) (文法・読解B1) (文法B1) (聴解・会話B1) (作文B1) ・わかりやすく、先生の教え方はとてもありがたいです。(漢字B1) ・教科書外の事も習って、分かりやすくなりました。(文法・読解B1) ・先生は優しいです、良い人です。(聴解・会話B1) ・教え方はだいたい分かりました。しかし、教えるのが速く、70%理解した。(文法・読解B1) ・時間が短いと思いますが、先生が全部教えることが出来てありがとうございました。(作文B1)
6. どのぐらい出席したか 80%～100% (28人) 60%～80% (7人) 40%～60% (3人) 20%～40% (1人) 0%～20% (0人)	-	出席率が80%以下の学生11人の欠席した理由 ・専門の授業やゼミがあったから (7人) ・アルバイトがあったから (0人) ・病気のため (2人) ・その授業に興味がなかったから (0人) ・その他 (2人)
7. 予習・復習をしたか かなりした (17人) すこした (21人) ぜんぜんしなかった (1人)	-	・時々テストで、復習をしてほしいです。また、宿題も必要だと思います。(聴解・会話B1) ・初めての時時間がないので、予習や復習が少ししか出来なかった。(聴解・会話B1) ・予習や復習をする時間が少ない。(文法・読解B1)

その他

- ・色々なことを習えて本当にありがとうございます。生活などに役に立ちました。(作文 B1) (文法・読解 B1)
- ・先生方は優しくとても親切です。(文法・読解 B1) (文法 B1)
- ・授業はとても面白いです。(文法・表現 B1)
- ・見学の機会が必要だと思います。(文法・読解 B1)
- ・お疲れさまです。ありがとうございました。(作文 B1) (文法 B1) (文法・読解 B1) (文法・表現 B1)
- ・作文 B1 の教科書の内容は少し難しいと思います。(作文 B1)
- ・「J301」の教科書は、中国語版がないので、勉強するときはちょっと難しいです。(文法・読解 B1)
- ・毎回の復習は役に立ちました。今までそんなに漢字を覚えられなかった特に書き方の方は、ですから非常に勉強になりました。(漢字 B1)

評点を見ると、前期、後期ともに学生から高く評価されており、自由記述のコメントも肯定的なブ

ラスの内容が多い。ただし、「中級」というレベルの特性上、中級の初期・中期・後期のレベルの学生が混在しており、授業レベルや進度について、「速い」「難しい」と感じる学生もいて、「遅い」「易しい」と感じる学生も同時にいる。指導する側にとっては難しい問題ではあるが、できるだけ細かく個々の学生に対応した授業が求められていると言える。また教員の情報交換など、さらなる連携も必要と言えるであろう。

日本語プログラム授業アンケート 上級クラス (2018年度)

濱田 美和

上級クラスは、2018年度前期と後期にそれぞれ「読解Ca」、「読解Cb」、「文法C」、「作文C」、「聴解C」、「会話C」、「漢字C」、「表現技術C」、「日本文化C」の9科目を開講した。前期は30人（日本語課外補講10人、総合日本語コース20人）、後期は38人（日本語課外補講20人、総合日本語コース18人）が受講した。

各学期末に受講者に対して授業改善のためのアンケートを行った。アンケートは科目ごとに実施し、授業の内容、難易度、進度、教材、教え方について5段階評価と自由記述で回答を求めた。この他に、学生自身の出席状況と欠席理由、予習復習の状況について問うた。

以下、表1に2018年度前期、表2に2018年度後期の集計結果をまとめた。1人の学生が複数の授業科目に答えているため、括弧内の人数はいずれも延べ人数を表す。評点は5段階評価で、値が大きいほど良い評点であることを示す。「とてもよかった」を5点、「よかった」を4点、「ふつう」を3点、「あまりよくなかった」を2点、「ぜんぜんよくなかった」を1点として、その平均点を出したものである。なお、自由記述の日本語の表記や助詞等の間違いは修正して掲載した。

表1 2018年度前期上級クラスの授業内容についてのアンケート結果（回答者65人）

質問項目（回答者数）	評点	自由記述
1. 授業内容 とてもよかった(38人) よかった(25人) ふつう(2人) あまりよくなかった(0人) ぜんぜんよくなかった(0人)	4.6	<ul style="list-style-type: none"> ・確かに授業の前に漢字テストを実施して、語彙力が向上したと思う。問題を解いて1人ずつ読むことも発音の練習に役に立った。(読解C1a) ・漢字圏の留学生は特に外来語の語彙の力が弱いので、これから漢字はもちろんですけども、外来語の量を増やしていただければ助かると思います。前期ありがとうございます!(読解C1a) ・ただ読解だけじゃなくて漢字の勉強にもなりました。(読解C1a) ・読解C1の授業によって読解の力だけでなく、日本語の話す力も伸びた。先生と他の留学生と一緒に解決したので楽しかった授業を受けた。(読解C1b) ・範囲が広くて、どの分野もあって、視野を広めた。(読解C1b) ・今学期のテキストはちょっと難しいですけど、哲学、語学、生物学、社会学などいろいろな分野の知識に触れ、勉強になって、とてもよかったと思います。(読解C1b) ・毎週違うテーマの内容を扱って興味深かった。(読解C1b) ・ときどき難しいですが、グループ内でいろいろ話し合っ、他のグループも聞いて、どんな問題でも大丈夫でした。(読解C1b) ・いろいろなテーマが含まれて、いろいろな知識を勉強しました。(読解C1b) ・N1の文法をいろいろ学んで、能力試験にとっても役に立ちました。(文法C1) ・能力試験にちゃんと出るから勉強してよかった。(文法C1) ・内容が深くて勉強になった。(文法C1) ・内容がいっぱい、充実した授業時間を過ごしました。(文法C1) ・暗記するべきものばかりで大変だったけど、いい勉強になりました。(文法C1) ・文法の授業でN1の文法を教えていただき、復習して、文法の知識を広げられた。しかし、実際にあまり使わないので、ちょっと覚えにくい。(文法C1) ・N1の文法を勉強しても実際のテストにおける課題とかなり違います。(文法C1) ・たくさんの新しい文法を覚えてよかったと思います。文法的に私の日本語が上達したかと思っています。(文法C1)

		<ul style="list-style-type: none"> ・先生に見せてもらったビデオやテレビ番組はとてもおもしろくて、日本の文化についていろいろ勉強になって、聴解力も高まりました。(聴解C1) ・授業の内容がおもしろくて、楽しかった。(聴解C1) ・聴解しながら日本文化を体験できます。(聴解C1) ・日本のテレビドラマやビデオなど、また、N1の模擬試験を受けて、よかったと思います。(聴解C1) ・この授業を取ってよかったです。(聴解C1) ・ビデオの授業方式はとてもよかったですと思います。特に日本文化と関係ある内容はとても勉強になりました!(聴解C1) ・授業中、様々なテーマをグループで話し合うのは、とても楽しかったです。お互いの意見を知ることだけではなくて、皆の国についての知識を深めることもできたので、うれしいです。この半年、どうもありがとうございました!(会話C1) ・会話の授業では他の留学生と一緒にたくさん話したり、自分の意見を述べることができました。1年後、日本語の話す力が伸びた。本当にいい経験でした。(会話C1) ・学生の人数が多いため、1人ずつ直すことはできないのですが、発表の機会はかなりあります。(会話C1) ・授業でいろんなテーマについて勉強しました。生活の中で活用できると思います。(会話C1) ・おもしろくて楽しかった。充実した勉強時間だと思う。(会話C1) ・楽しかったです。いろいろな新しいことを習いました。(会話C1) ・様々なテーマについて勉強になりました。話すことによって、会話する時にもっと自由に感じるようになりました。(会話C1) ・会話の授業でたくさん話したので、いい練習と勉強になりました!(会話C1) ・授業を受けるから、内容に含められている漢字が生活の中でよく見えた。(漢字C1) ・私は日本に来る前に漢字を書くチャンスはあまりなかったので、本当に勉強になりました。たぶん半年でしたから、レベルはそんなに高まっていないのですが、授業の形も、先生の教え方もとてもよかったです、以前よりうまく書けるようになったと思います。ありがとうございます。(漢字C1) ・全体的にはいいです。いい勉強になりました。ただし、レベルは上級でないです。(表現技術C1) ・本国ではあまり学習機会がない表現を学んで、難しかったが、いいと思います。(表現技術C1) ・敬語の使い方がよりわかるようになりましたので、うれしいです。メールの書き方もとても役に立つと思います!(表現技術C1) ・授業の内容はおもしろいと思います。知識が増やせます。(日本文化C1) ・様々なテーマによってたくさん新しい言葉を勉強しました。知らなかった日本における問題について先生が教えてくれました。(日本文化C1) ・とてもおもしろいテーマもあり興味ないテーマもありましたが、全体的によかったと思います。(日本文化C1) ・日本の経済、文化などいろいろ勉強しました。とてもおもしろくて、役立つと思います。(日本文化C1) ・日本の女性、日本の若者の感性、日本の経済などのテーマについていろいろ勉強しました。また、他の国の状況も交流した時に少し理解してよかったですと思います。(日本文化C1) ・この授業を通して、日本の歴史、文化、日本人の気持ちなどいろいろ勉強になって、本当によかったと思います。(日本文化C1) ・内容をちゃんと説明してくれるので、わかりやすくなって、よかった。このままの調子でいいです。(日本文化C1)
<p>2. 授業のレベル ちょうどよかった(41人) よかった(15人) ふつう(7人) あまりよくなかった(2人) ぜんぜんよくなかった(0人)</p>	<p>4.3</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・哲学に関するテキストは難しいですが、言語やメディアなど日常生活にかかわる話題はよりわかりやすく、みんなと話し合いやすいです。(読解C1b) ・はじめて授業に参加した時は難しいと考え、やめようかと考えた。でも、どんどん適応して、最後には放棄しなくてよかったと思った。(読解C1b) ・難しいテキストもあって、易しいものもあります。(読解C1b) ・私は政治や歴史などの文化系の知識が苦手です。しかし、勉強になりました。(読解C1b)

		<ul style="list-style-type: none"> ・難しすぎた。私はやっぱり上級ではないので、レベルはぜんぜん違いました。たぶん別の授業を取ったらよかったが、N1を紹介してもらってありがとうございます！これから一生懸命がんばっていきますよ！（文法C1） ・やっぱり中級→上級はN3→N1の感じがあって難しかった。漢字や読解はよかったが、文法は何回見ても、テストの時、思い出せない…。a, b, cの中で選ぶのはだいたいできるけど、確信が低くて、自分で書くのは難しかった。（文法C1） ・難しいところがありますが、だいたいはよかったと思います。（文法C1） ・N1はもうパスしたので、はじめは易しい授業だと思いましたが、見知らぬ文法ばかりでびっくりしました。勉強はまだまだですね。（文法C1） ・表現が難しく、覚えにくいと思います。（文法C1） ・難しすぎた。自分のレベルとちょっと外れると思います。（作文C1） ・授業のレベルはちょうどいいです。（聴解C1） ・授業の内容はだいたい聞き取りやすくて、わかりやすかったです。（会話C1） ・敬語のところは難しかったですが、いい勉強になりました。（会話C1） ・ちょうどわからないところを勉強するのでぴったりです。（漢字C1） ・レベルがちょうどよかったおかげで、漢字をいっぱい習いました！お疲れ様でした！（漢字C1） ・ちょっと簡単です。（表現技術C1） ・はじめに聞くときは、難しい感じがあったが、今は適応できました。よかったと思う。（表現技術C1） ・わからなかった場合には、先生が説明してくれました。（日本文化C1） ・たぶん少しだけより難しかったらよかったんですが…。（日本文化C1） ・私にとってすべては理解できないけど、だいたいわかります。その過程で日本語を勉強しました。（日本文化C1） ・シートやビデオはそんなに難しくなくて、私にとってよかったと思います。（日本文化C1） ・授業のレベルはちょうどよかったと思います。（日本文化C1）
<p>3. 授業の進度 ちょうどよかった(40人) よかった(16人) ふつう(4人) あまりよくなかった(5人) ぜんぜんよくなかった(0人)</p>	<p>4.4</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・今学期は今週の内容を来週に残させないようにみんなちゃんと時間を守って、できるだけ1週1回のスピードで、話し合う、発展の時間も十分で、ちょうどよかったと思います。（読解C1b） ・討論する時間は一応決まっていて、早く終わったら発表に入ります。時間が足りなかったら、延長できます。（読解C1b） ・今学期は先学期よりそんなに急がないです。楽だと思います。（あまり予習シートがないからだと思う。）（読解C1b） ・速すぎた。（文法C1） ・ちょうどいいスピードです。（文法C1） ・授業中、3~4つのユニットを勉強するのは少し難しかったです。（文法C1） ・教科書を全部終わるために毎回の範囲が多くてペースが速かったと思います。しかし、先生のおかげで全冊を読み終わって、いい勉強になりました。（文法C1） ・ちょっと速いです。しかし、仕方ないとわかります。（文法C1） ・ちょっと速かったです、チャレンジするのにいい機会でした。（文法C1） ・もうちょっと小さい練習ができればいいかもしれません。（作文C1） ・授業の速さはちょうどいいです。そんなに難しくなくて、聞き取りやすいです。（聴解C1） ・模擬テストをもっとやりたいなと思いました。（聴解C1） ・みんなと一緒に話し合う時間、発表する時間を十分に与えてくれて、授業の速さはちょうどいいです。（会話C1） ・速すぎた。（漢字C1） ・この調子でいいと思います。（漢字C1） ・ちょっと遅いです。（表現技術C1） ・よかったですが、ちょっとより速くしたらいいと思います。（日本文化C1） ・1つのテーマはだいたい3回やって、速さはちょうどよかったと思います。（日本文化C1） ・授業の速さはちょうどよかったです。聞き取りやすいです。（日本文化C1）

<p>4. 教科書・プリント とてもよかった(39人) よかった(21人) ふつう(5人) あまりよくなかった(0人) ぜんぜんよくなかった(0人)</p>	<p>4.5</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・後期に使う教科書(完全マスター)のほうが良いと思います。(読解C1a) ・前の期に使った教科書のほうが留学生の生活に関係があります。(読解C1b) ・様々な分野のテキストが含まれていて、内容も興味深いです。哲学に関する文章はちょっと難しいですが、文章を繰り返し読んでいるうちに、読解力がだんだん高まっていると感じました。しかし、文章の主旨がなかなか見つからなかった時もある。予習シートに文章の流れを明らかにするためのいくつかの問題をちょっと作っていただいたほうが良いと思います。(読解C1b) ・縦書きの文章だから、ちょっと読みにくいと思います。(読解C1b) ・プリントがとても役に立つと思います。ただし、文章が縦書きなので、ちょっと読みにくいと思います。(読解C1b) ・この本はちょっと難しいですが、本当にN1の文法を勉強しました。自信も持っています。(文法C1) ・文法の教科書は説明がわかりやすく、良いと思う。(文法C1) ・新しいドラマや番組を見たほうが良いです。授業で見るとはちょっと古いです。(聴解C1) ・ビデオの内容がおもしろくて、勉強になりました。(聴解C1) ・プリントの内容は充実していて、わかりやすかったです。(会話C1) ・プリントをなくしやすいので、できればまとめて配ったほうが良いと思います。(会話C1) ・授業の中でゲーム?などの方法で復習してよかった。(漢字C1) ・簡単です。(表現技術C1) ・わかりやすいです。(日本文化C1) ・文章を読んだり、ビデオを見たりして、授業の内容はとても豊かで、おもしろいです。(日本文化C1)
<p>5. 教え方 とてもよかった(46人) よかった(16人) ふつう(3人) あまりよくなかった(0人) ぜんぜんよくなかった(0人)</p>	<p>4.7</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・先生はとてもやさしいです。1人1人の発表をちゃんと聞いたり、自分の経験をみんなと分かち合ったりして、先生の授業で、テキストの内容以外にもいろいろ勉強になりました。(読解C1b) ・いつもいいです。(読解C1b) ・グループで話し合っって、文章を理解するという方法が良かったです。そして、私も好きです。(読解C1b) ・わかりやすく、ちゃんとLCDを使っています。(文法C1) ・先生はいつもゆっくり話してくださっています。(文法C1) ・先生はとてもやさしいです。この授業を通して聴解力がかなり伸びました。(聴解C1) ・先生、この1年間ありがとうございました!(聴解C1) ・聴解の授業ではビデオを見ながら、聞くことが行われたので、よかったと思う。わかりやすいように、この教え方を扱ったら、効果が高いだろう。(聴解C1) ・先生はとてもやさしいし、いろいろ教えていただきました。(会話C1) ・わかりやすく説明しましたので、理解できました。(漢字C1) ・わかりやすい。(表現技術C1) ・説明がわかりやすいです。(日本文化C1) ・みんなは日本語のレベルがちょっと違うので、適当な流れを選ぶのは難しいですが、先生のおかげで内容がとてもわかりやすかったですし、みんなは平等に参加できたと思います。(日本文化C1) ・先生がみんながわかりにくいところを何度も繰り返して、みんなが十分に理解できます。(日本文化C1) ・みんなと一緒にビデオを見たり、文章を読んだりしてよかったと思います。(日本文化C1) ・先生はとてもやさしいです。プリントを用意し、難しい用語を解釈していただいて、本当に助かりました。(日本文化C1) ・ちゃんと授業の内容やわからないところを説明しているので、内容が理解できました。(日本文化C1)
<p>6. どのくらい出席したか 80%~100%(61人) 60%~80%(3人) 40%~60%(1人) 20%~40%(0人) 0%~20%(1人) 無回答(1人)</p>	<p>—</p>	<p>欠席した理由</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門の授業やゼミがあったから(1人) ・アルバイトがあったから(0人) ・病気のため(2人) ・その授業に興味なかったから(0人) ・その他(1人):就職活動

<p>7. 予習・復習をしたか かなりした(33人) すこした(31人) ぜんぜんしなかった(1人)</p>	<p>—</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・事前に予習して授業もスムーズに進むことができる。(読解C1b) ・毎回先生が予習シートや提出シートを用意してくれて、それを通して、よく予習や復習をしました。(読解C1b) ・予習シートと提出シートを毎週事前に提出しなければなりません。(読解C1b) ・授業でグループの人と話し合うので、予習が必要です。ちょっと大変ですが、役割だと思っています。宿題は今学期がちょうどいいと思います。予習シートがないほうが楽だと思っています。(読解C1b) ・よりたくさん復習したらよかったのに…。(文法C1) ・文法は復習が重要なものだと思う。他の日本語授業の科目は伸びる感じがあって復習を一生懸命したが、文法はあまりやる気がなかった。(文法C1) ・特にわからない部分は少し読んだ。(文法C1) ・授業中解くための時間がない課題を宿題として、してよかったと思います。(文法C1) ・復習することで文法を覚えるのも易くなった。(文法C1) ・授業の後、ビデオの感想を書くことによって、内容をよく復習しました。(聴解C1) ・ニュースやネット上の情報を調べることによって、よく予習や復習をしました。(会話C1) ・発表の準備のために必要だと思っています。そして、授業で勉強した内容が生活に役立つと思うので、覚えたほうがいいと思います。(会話C1) ・課題があって、事前に準備することが役立つ。(会話C1) ・いろいろな場面の会話のために、原稿を用意して発表しました。よかったと思います。(会話C1) ・漢字とか語学は何よりも復習が重要だと思う。(漢字C1) ・毎週小テストと漢字チェックがあるので、1時間ぐらい予習しました。(漢字C1) ・毎週テストがあったので、復習しないとだめでした。(漢字C1) ・授業の中で内容を十分に理解することができて、予習と復習についてそんなに時間がかかりません。(日本文化C1)
--	----------	--

その他

- ・今学期は前の学期より時間を守って、オーバーしませんでした。グループ討論を通して、皆と仲良くなりました。クラス全員と話すチャンスがあって、1人1人の性格も理解できました。毎週授業の前に（特に課題が難しい時）やりたくない気持ちを持ちました。しかし、授業に入ると、活発な雰囲気になって、自分も元気になって、一所懸命に討論しました。ときどきにぎやかすぎました。(読解C1b)
- ・期末テストだけではなく、教科書の半分ぐらい終わって、1つのテストが行われたらよかったかもしれません。期末テストのための復習は難しいです。毎週復習をしても、N1の文法をあまり使っていないので、テストまで半分以上忘れてしまうためです。(文法C1)
- ・文法は本当に暗記しなければならないと思いました。大変でしたが、より正確に日本語を使うために、文法も不可欠だと考えます。今後も続けて勉強します。(文法C1)
- ・就活に対しての日本語コースを開設していただきたいです。(作文C1)
- ・授業の終了5～10分前にタブレットを使ってゲームをしたのがすぐ復習できるのでいいと思う。(漢字C1)
- ・この授業を取ってとても勉強になりました。日本語の勉強だけではなく、日本社会の現状についても詳しく知ることができ、本当によかったと思います。(日本文化C1)
- ・この授業は留学にとっても役に立ったと思います。(日本文化C1)
- ・先生が超やさしいと思います！先学期日本文化という授業を受けたけど、今学期の日本文化がもっと好きで、もっと授業の内容を理解して、勉強しました。ありがとうございます！(日本文化C1)
- ・先生は超やさしいと思います。この半年間ありがとうございました！帰国した後、日本語の研修をしなくても、もっと一生懸命勉強します。(日本文化C1)
- ・この授業でビデオを見ながらプリントを参照して、授業の内容はとても聞き取りやすいです。先生が選んだテーマもおもしろいし、日本の文化についていろいろ勉強になりました。(日本文化C1)

表2 2018年度後期上級クラスの授業内容についてのアンケート結果（回答者63人）

質問項目（回答者数）	評点	自由記述
<p>1. 授業内容 とてもよかった(45人) よかった(16人) ふつう(2人) あまりよくなかった(0人) ぜんぜんよくなかった(0人)</p>	4.7	<ul style="list-style-type: none"> ・ある文章の内容はちょっと難しいです。(読解C2b) ・授業で読んだ文章は一見理解できないが、深く考えるとほかの意味もあるのいいと思う。少し難しい。(読解C2b) ・授業はとてもいいと思います。(読解C2b) ・テキストの構成はいいと思います。(文法C2) ・日本語能力試験に非常に役に立ったです！(文法C2) ・テストのとき、したことがない項目がほしい。(文法C2) ・理解しやすく、自分の読解能力をいろいろ助けてもらいました。(作文C2) ・授業を通していろいろなレポートで使われる表現を身につけました。どうもありがとうございます。(作文C2) ・おもしろかった。(作文C2) ・先生が見せてくださった番組を通じて、日本についていろいろな知らない細かい点を身につけられた。本当に勉強になる。日本への興味も増えた。先生、ありがとうございます。(聴解C2) ・授業を通して、日本に関する事情と文化について紹介されました。それで、聴解の能力は向上したというのを自分でも感じられました。どうもありがとうございます。(聴解C2) ・学生たちが知りたい内容に合わせて構成されていていいと思います。(会話C2) ・熟語を覚えるのが少し大変ですが、とても役に立ちました。(漢字C2) ・難しいですが、授業で勉強できた漢字は新聞とか本を読むときに多く出てくるから、勉強は本当に役立つと思う。(漢字C2) ・ニュースを聞いたり、新聞を読んだりするための言葉がたくさんあったから、役に立ったと思います。(漢字C2) ・授業のおかげで、漢字の言葉の量が増えました。漢字がわかって、読解能力も向上しました。どうもありがとうございました。(漢字C2) ・授業の内容はとてもいいです。このあと、よく使えるように感じます。(表現技術C2) ・内容がたくさんあって、つまらない感じがありません。(日本文化C2) ・異文化理解にも日本語能力にも非常に役に立ちました。(日本文化C2) ・日本に留学する理由の1つは、日本人あるいは日本の学生はどう自分の歴史を考えているかに興味を持っているので、今学期の授業では少し触れられたが、もっと深く討論すればよかったと思います。(日本文化C2) ・授業の時間が足りなかったほどおもしろいチームでした！本当はもっと話したかったです。親しいことがわかることもできてうれしいです。毎週この授業を楽しみにしていました。(日本文化C2) ・日本語学科の学生として、国で取っていた授業は日本語に関するものが多かったです。日本文化という授業は単語、文法にかかわらず、毎回独特のテーマで学生たちに考えさせることは非常にすばらしいと思います。(日本文化C2) ・好きなテーマもあまり好きではないテーマもありました。でも、いろいろな話題について考えるのが大切だから、よかったと思います。(日本文化C2)
<p>2. 授業のレベル ちょうどよかった(34人) よかった(21人) ふつう(8人) あまりよくなかった(0人) ぜんぜんよくなかった(0人)</p>	4.4	<ul style="list-style-type: none"> ・すべての文の表現は難しくないけど、ある文の意味は確認しにくいと思います。(読解C2b) ・自分の考えを多く表せました。(読解C2b) ・レベルはちょうどいいと思います。私のような中級または上級の学生に非常に合うと思います。(読解C2b) ・わかりやすく、勉強にもなったレベルです。(作文C2) ・論文を書くための知識をいっぱい学んだ。(作文C2) ・教科書の漢字のうち、20～30%ぐらい知っていたから、ちょうど良かったです。(漢字C2) ・日本語がときどき難しかったが、それはいいトレーニングになりました。(日本文化C2) ・あるテーマは、もし授業の前にプリントや講義があれば先に読んで、みんながもっと討論できるようになると思います。(日本文化C2)

		<ul style="list-style-type: none"> ・私の日本語能力は十分でないにもかかわらず、この授業でいろいろなことができました。最後のテストは難しかったですが、それもおもしろかったです！（日本文化C2） ・上級の授業として、レベルはよかったですと思います。ニュースの内容を全部聞き取るのは難しいですが、単語の説明があって助かりました。（日本文化C2） ・ちょっと自分自身チャレンジしました。（日本文化C2）
3. 授業の進度 ちょうどよかった(39人) よかった(20人) ふつう(4人) あまりよくなかった(0人) ぜんぜんよくなかった(0人)	4.6	<ul style="list-style-type: none"> ・私にとって話すスピードがちょうどいいです。(読解C2b) ・1回で全部終わるのではなく、次回でまた復習できて、いいと思う。(読解C2b) ・授業の進み方がちょうどいいと思います。(読解C2b) ・先生はやさしくて、初心者のお話を話すことができますので、ちょうどいいです。(作文C2) ・速くも遅くもない。ちょうどいい。(作文C2) ・だんだん難しくなってきたが、N1の能力試験を受けるためにこの授業を取りました。N1の漢字がわかるようになりました。ありがとうございました。(漢字C2) ・もっと時間があればちょうどよかったと思います！（速さとは関係なく）(日本文化C2) ・授業のリズムはよかったですと思います。ときどきおもしろい話があったから、話が長くなったこともあります。全体的な速さは私にとってよかったです。(日本文化C2)
4. 教科書・プリント とてもよかった(44人) よかった(12人) ふつう(6人) あまりよくなかった(1人) ぜんぜんよくなかった(0人)	4.6	<ul style="list-style-type: none"> ・テキストは文学的な文章が多いので、たぶんあるとき筆者によって難易度の差があります。具体的な議題について話したいなら、もっと論理的なテキストを選んだほうがいいと思います。(読解C2b) ・ある文章の内容はちょっと難しいです。中に面白い文章があるといいと思います。(読解C2b) ・あまりよくなかった。もっと近年の新しい文章を読みたい。(読解C2b) ・難しさがちょうどいいと思います。私のような日本語レベルの学生に助かりました。(読解C2b) ・私たちのレベルにちょうど合うと思います。このテキストは中級または中級以上のレベルの日本語学習者に合うと思います。勉強すると思います。(作文C2) ・先生からももらったプリントはとてもいい資料だと思いました。各部分の重要な内容をまとめて、私たちにとってわかりやすい資料です。(作文C2) ・はっきりしていてわかりやすい。(作文C2) ・新しい言葉のリストがあって、とても便利でしたし、覚えやすかったです。(日本文化C2) ・各々のテーマはあまり結論がありません。終わらないままで次のテーマに入る感じです。(日本文化C2) ・番組がとてもおもしろかったです。(日本文化C2) ・毎週単語の説明をしていただいて、本当に助かりました。(日本文化C2)
5. 教え方 とてもよかった(52人) よかった(11人) ふつう(0人) あまりよくなかった(0人) ぜんぜんよくなかった(0人)	4.8	<ul style="list-style-type: none"> ・もし書き方と話し方について、もっと直されたいと思います。授業を受ける利点は、自分が気づかなかった間違いを訂正できることです。この数ヶ月の授業でお世話になりました。ありがとうございました。(読解C2b) ・学生に自身の感想を押しつけることはないのいいと思う。先生はとてもいい先生だ。この授業を通して文章を読んで、また人生、勉強や他人との関係などを改めて考えられて、他の学生にもおすすめしたいです。先生、ありがとうございました。(読解C2b) ・先生はやさしく、詳しく授業を進め、交流や質問の機会がたくさんあります。(読解C2b) ・もし似ている表現の比較もしたら、ありがたいと思います。先生、ありがとうございました。(文法C2) ・詳しくて、わかりやすかったです。(文法C2)

		<ul style="list-style-type: none"> ・先生はやさしい。いろいろ教えてくださいました。ありがとうございました。(文法C2) ・学生の勉学のサポートだけでなく、教えてもらったことがたくさんあります。(作文C2) ・先生の教え方はわかりやすいと思いました。わかりにくい部分は例を挙げて、できるだけ全部理解できるように教えてくださいました。とてもやさしい先生です。(作文C2) ・おもしろかった。(作文C2) ・学生の意見を聞いていただいてとてもよかったですと思います。(聴解C2) ・先生は本当にやさしくて、いろいろ勉強になりました。(聴解C2) ・授業中いろいろな教材(教科書、予習ワークシート、チェックテスト、クイズもやって)何度も繰り返しながら、勉強しました。これは一番いい覚える方法だと思います。(漢字C2) ・先生の教え方は本当によかったです。いつもゆっくり説明してくれて、わかりやすかったです。ありがとうございました。(表現技術C2) ・先生がやさしくてありがたいです。(表現技術C2) ・先生の笑い声が好きです。ハハハハ。(日本文化C2) ・最高でした! どうもありがとうございました!(日本文化C2) ・先生はいろいろなことを考えている人らしいから、ときどき私の考えもぐっと広げられた感じがします。おもしろい話、例えば、社会、文化、政治のこともいろいろ留学生に聞かせてください。(日本文化C2) ・先生の授業はとてもおもしろいと思います。雰囲気も活発で、皆さんと交流するのも楽しいと思います。(日本文化C2)
6. どのぐらい出席したか 80%~100%(58人) 60%~80%(4人) 40%~60%(1人) 20%~40%(0人) 0%~20%(0人)	-	<p>欠席した理由</p> <ul style="list-style-type: none"> ・専門の授業やゼミがあったから(0人) ・アルバイトがあったから(1人) ・病気のため(4人) ・その授業に興味がなかったから(0人) ・その他(0人)
7. 予習・復習をしたか かなりした(27人) すこしした(28人) ぜんぜんしなかった(8人)	-	<ul style="list-style-type: none"> ・宿題が少し多い。(読解C2b) ・宿題の量はちょうどいいと思います。(読解C2b) ・いつも授業の前に準備をしたので、授業の進み方が円滑だったと思います。(作文C2) ・授業がすごくわかりやすいので、復習してわからないところがない。(作文C2) ・N1の漢字はかなり難しいから、予習と復習をしなければ覚えにくい。(漢字C2) ・敬語をよく学びました。うれしいです。ちょっと難しいので、復習しなければならぬと思います。(表現技術C2) ・1週間に1回の授業なので、復習しないと内容を覚えにくいです。(日本文化C2) ・毎回映像やテキストの難しい語彙を確認したことはとてもよかったですと思います。(日本文化C2) ・日本文化の授業は比較的宿題が少ないです。でも、授業自体はおもしろくて、毎回楽しみにしています。(日本文化C2)

その他

- ・会話と聴解、まだ勉強しなければならないです。(読解C2a)
- ・非常に満足しています。(読解C2a)
- ・授業を通して、読解能力だけでなく、漢字もたくさん身につけられました。(読解C2a)
- ・この授業を受けた後、自分の読解力が向上できた気がする。先生に教えてもらった読解方法のおかげである。(読解C2a)
- ・この授業は私の希望にちょうどいいと思います。(読解C2b)
- ・N1の文法は大変難しいと思う。しかし、この授業を受けた後、新しい文法をたくさん覚えた。(文法C2)
- ・N1の文法は難しいですが、先生の授業を通して、いろいろな文法を身につけました。どうもありがとうございました。(文法C2)
- ・先生、よい本を紹介してくれて、どうもありがとうございました。この授業に満足でした。(文法C2)
- ・すごくいい授業でした。ありがとうございました。(文法C2)
- ・いろいろなことが勉強になりました。(文法C2)
- ・今期はいろいろ勉強になりました。ありがとうございました! また、ご迷惑もいろいろかけました。本当に申し訳ございません。(作文C2)

- ・この後、研究を続けるつもりだから、非常に役に立ちました。(作文C2)
- ・いろいろ勉強になりました。ありがとうございました。(聴解C2)
- ・総合日本語コースの授業の中で、話したり書いたりする機会がありますが、もっと先生たちが学生が間違えた部分を直すほうがいいと思います。みんなよく間違った日本語をしゃべっていて、直してもらいたいと思っています。(聴解C2)
- ・日本について今まで知らなかったことについて十分な情報を教えていただいて、たぶん留学中で一番おもしろくて役に立った授業だと思います。ありがとうございました！(日本文化C2)
- ・みんなが発表するとき、先生が私たちの言い方と文法を直すといいと思います。(日本文化C2)
- ・次の学期の日本文化の授業に参加できなくて残念です。先生のお話や先生に教えていただいたことは本当におもしろかったと思います。心から感謝しています！(日本文化C2)
- ・普段私たちがあまり考えないことを日本文化という授業でいろいろ接することができて本当によかったと思います。先生を選んだテーマ、気になること、ぜひそのおもしろさをたくさんのお学生にお伝えください。(日本文化C2)

前期、後期ともにいずれの項目も4点以上となっており、概ね良い評価を得ていると言ってよいだろう。数は少なかったが、今後のコース改善に向けての検討材料とするために、「よくなかった」「あまりよくなかった」と「ぜんぜんよくなかった」という回答を詳しく見ておきたい。前期については授業の進捗で4人、授業のレベルで2人が「よくなかった」と回答し、授業のレベルで「よくなかった」と回答した2人が授業の進捗でも「よくなかった」と回答している。4人とも「速すぎた」、「難しすぎた」ことを理由に挙げていた。後期については教科書・プリントで1人が「よくなかった」と回答し、「もっと近年の新しい文章を読みたい」という意見だった。ここ数年上級クラスにおける受講者間の習熟度の開きへの対応が課題となっているが、特に前期について対応が必要であることが窺われる。日本語・日本文化研修留学生や短期留学生の多くは10月に来日して1年間留学するが、来日時に中級クラスを受講した学生が4月から上級クラスの授業を受ける場合、特に文法や作文の授業で困難を感じるようである。そこで、2019年度は前期開講の文法の授業において、従来の日本語能力試験N1対策に加えてN2対策の授業を試行的に開講することにした。今後も継続的に授業アンケートを実施して学生のニーズの把握に努めながら、より良いクラス運営のありかたを探っていききたい。

日本語学習支援サイト RAICHO 報告 (2018 年 4 月～2019 年 3 月)

濱田 美和

1 日本語学習支援サイト RAICHO の概要

「日本語学習支援サイト RAICHO」(以下、「RAICHO サイト」, <http://www3.u-toyama.ac.jp/raicho/>) は、富山大学に在籍する留学生の日本語学習を総合的に支援するための一つの手段として、国際機構が運営しているサイトである。本サイトのねらいは、富山大学で学ぶ留学生の学習を支援するという点にあり、ターゲットを富山大学の留学生に限定することで、サイトに掲載する情報を絞り込み、利用者が必要な情報に容易にアクセスできるようにするという点に重点を置いている(サイト自体は学内外を問わず利用可)。本稿では、RAICHO サイトの 2018 年度の整備状況について報告し、今後の課題を述べる。

2 2018 年度 RAICHO サイト整備状況

RAICHO サイトはセキュリティ上の問題点が生じたため、2013 年 12 月より始めた外部サーバでの運用を 2016 年度末に一旦停止した。その後、他会社のサーバ利用も検討したが、外部サーバでの運用はセキュリティ面、予算面から非常に厳しいことがわかり、学内の外部公開サーバの利用に切り替えることにした。外部公開用サーバでは MySQL(データベース)が利用できないため、日本語自己学習コンテンツの解答履歴の参照機能を外して、クイズ・テスト作成ソフト「THiNQ Maker」(ロゴスウェア株式会社)を用いて、新たにコンテンツを作り直すことにした。2017 年度は日本語自己学習コンテンツのうち、日本語入力に関するクイズを「THiNQ Maker」で作り直し、2017 年度末に学内の外部公開用サーバを利用して RAICHO サイトを再公開した。

2018 年度は RAICHO サイトの一部をスマートフォン対応とするためのリニューアル作業を行った。「THiNQ Maker」で作成した日本語自己学習コンテンツのクイズ自体はスマートフォン対応となっているが、クイズにアクセスするまでの RAICHO サイトのトップページやクイズの一覧を示したページはスマートフォン対応となっていなかった。そこで、これらのページを Web 制作会社プロヴィデデザイン株式会社に依頼して、更新しやすいページデザイン、ページ構成とすることを第一条件にリニューアルを行い、2018 年度末にリニューアルページを公開することができた。

3 今後の課題

2016 年度末の外部サーバでの運用停止以降、2 年をかけて新たな運用体制を少しずつ整備してきた。しかし現在再公開できているのは 2016 年度までに公開していたコンテンツのごく一部である。今後も継続してコンテンツの作り直しの作業を進めていく必要がある。



図 1 RAICHO サイトトップページ (リニューアル後)

3. 国際機構関連行事 (2018年4月～2019年3月)

2018年

- 4月 2日(月) 2018年度前期日本語プログラム講師ミーティング
- 4月 3日(火) 平成30年度4月入学新入留学生のためのオリエンテーション
- 4月 4日(水) 日本語研修コース オリエンテーション
前期日本語課外補講 オリエンテーション
- 4月 5日(木) 春期総合日本語コース オリエンテーション
- 4月 6日(金) 平成30年度学生生活オリエンテーション (各学部 (医・薬を除く))
学部新入留学生のための時間割作成オリエンテーション
- 4月 9日(月) 平成30年度学生生活オリエンテーション (医・薬学部)
- 4月10日(火) ライデン大学短期日本語研修プログラム開講式・オリエンテーション
- 4月18日(水) 第1回国際機構スタッフ会議
- 4月20日(金) スタディーエクスカージョン (となみチューリップフェア)
- 4月24日(火) 平成30年度 第1回短期派遣留学プログラムWG
- 4月25日(水) 第1回国際機構運営会議外国人留学生奨学金等専門委員会
及び第1回同五福キャンパス部会
- 5月16日(水) 第2回国際機構スタッフ会議
- 5月16日(水) 平成30年度チャールストンカレッジ英語研修プログラム参加者募集説明会
- 5月18日(金) スタディーエクスカージョン (五百羅漢・富山市民族民芸村)
- 5月23日(水) 第1回国際機構運営会議短期留学生修了論集編集専門委員会
- 5月28日(月) 第2回国際機構運営会議外国人留学生奨学金等専門委員会
及び第2回同五福キャンパス部会
- 5月29日(火) グローバルカフェ実施WG主催 2018 Global Café (第1回)
- 5月31日(木) 第1回国際機構運営会議
- 6月 2日(土)～6月3日(日) 国際機構日本語研修コース留学生ホームステイ
- 6月11日(月) 第3回国際機構運営会議外国人留学生奨学金等専門委員会
及び第3回同五福キャンパス部会
- 6月13日(水) 交換留学オリエンテーション
- 6月20日(水) 第3回国際機構スタッフ会議
- 6月20日(水)～28日(木) 第4回国際機構運営会議外国人留学生奨学金等専門委員会 (メール会議)
- 6月22日(金) 第1回日本語・日本文化研修留学生プログラム検討WG
2018年度日韓共同理工系学部留学生事業協議会
- 6月26日(火) グローバルカフェ実施WG主催 2018 Global Café (第2回)
- 6月27日(水) 平成30年度第2回短期派遣留学プログラムWG
平成30年度第1回富山大学国際機構運営会議学生海外留学支援専門委員会
- 6月28日(木) ライデン大学短期日本語研修プログラム修了式
- 7月 2日(月)～7月13日(金) オルレアン大学短期研修「日本語・日本文化理解」プログラム
- 7月 6日(金) 平成30年度第1回TOEFL等対策検討WG
- 7月11日(水) 海外に渡航する富山大学生のための海外危機管理オリエンテーション

- 7月13日(金)～7月27日(金) 短期留学プログラム事前英語研修
- 7月18日(水)～7月20日(金) 平成30年度第3回短期派遣留学プログラムWG(メール会議)
- 7月24日(火) グローバルカフェ実施WG主催 2018 Global Café (第3回)
- 7月25日(水) 平成30年度春季短期派遣留学プログラム参加者募集説明会
- 7月27日(金) 第4回国際機構スタッフ会議
- 7月30日(月)～8月3日(金) 第2回国際機構運営会議短期留学生修了論集編集専門委員会 (メール会議)
- 7月30日(月) 第5回国際機構運営会議外国人留学生奨学金等専門委員会
及び第4回同五福キャンパス部会
- 8月 9日(木)～8月23日(木) 第2回国際機構運営会議 (メール会議)
- 9月 2日(日) 2018年度日韓プログラム留学推進フェア (韓国) 資料参加
- 9月 3日(月) 第5回国際機構スタッフ会議
- 9月 7日(金), 10日(月), 14日(金) 第1回国際機構フロント会議 (3回に分けて開催)
- 9月21日(金) 第2回日本語・日本文化研修留学生プログラム検討WG
- 9月28日(金) 第3回国際機構運営会議
第34期日本語研修コース修了式
第6回国際機構スタッフ会議
- 10月 2日(火) 2018年度後期日本語プログラム日本語プログラム講師ミーティング
- 10月 2日(火) 平成30年度後期全学チューター説明会
- 10月 3日(水) 日本語研修コース オリエンテーション
後期日本語課外補講 オリエンテーション
- 10月 3日(水) 第6回国際機構運営会議外国人留学生奨学金等専門委員会
- 10月 4日(木) 秋期総合日本語コース オリエンテーション
- 10月16日(火) 第3回日本語・日本文化研修留学生プログラム検討WG
- 10月16日(火)～10月23日(火) 第4回国際機構運営会議 (メール会議)
- 10月17日(水) 平成30年度 10月入学新入留学生のためのオリエンテーション
第7回国際機構スタッフ会議
- 10月23日(火) グローバルカフェ実施WG主催 2018 Global Café (第3回)
第2回国際機構フロント会議
- 10月24日(水) 平成30年度第4回短期派遣プログラムWG
国際機構教育部門ワークショップ「国際人としてのグローバル日本語」
オリエンテーション
- 10月25日(木) 第7回国際機構運営会議外国人留学生奨学金等専門委員会
- 10月31日(水) 国際機構教育部門ワークショップ「国際人としてのグローバル日本語1」
- 11月14日(水) 交換留学オリエンテーション
- 11月14日(水)～2月19日(火) 留学試験対策講座
- 11月14日(水)～2月19日(火) 留学準備コース
- 11月20日(火) グローバルカフェ実施WG主催 2018 Global Café (第5回)
- 11月22日(木) スタディーエクスカッション (五百羅漢・富山市民民族民芸村)
- 11月28日(水) 第8回国際機構スタッフ会議
国際機構教育部門ワークショップ「国際人としてのグローバル日本語2」
- 12月11日(火) 平成30年度第2回富山大学国際機構運営会議学生海外留学支援専門委員会
グローバルカフェ実施WG主催 2018 Global Café (第6回)
- 12月19日(水) 第9回国際機構スタッフ会議

- 12月19日(水) 海外に渡航する富山大学生のための海外危機管理オリエンテーション
国際機構教育部門ワークショップ「国際人としてのグローバル日本語3」
- 12月27日(木) 第5回国際機構運営会議

2019年

- 1月 9日(水)～2月21日(木) 短期留学プログラム事前英語研修
- 1月15日(火) 第8回国際機構運営会議外国人留学生奨学金等専門委員会及び第5回同
五福キャンパス部会
- 1月16日(水)～2月21日(木) 国際機構・教養教育院連携科目「異文化コミュニケーション」
- 1月17日(木)～1月21日(月) 第6回国際機構運営会議(メール会議)
- 1月22日(火) グローバルカフェ実施WG主催 2018 Global Café (第7回)
- 1月23日(水) 第10回国際機構スタッフ会議
- 1月28日(月)～2月4日(月) 第6回国際機構運営会議外国人留学生奨学金等専門委員会
五福キャンパス部会(メール会議)
- 1月31日(木) 第3回国際機構フロント会議
- 2月 5日(火)～2月7日(木) 平成30年度第5回短期派遣留学プログラムWG(メール会議)
- 2月20日(水) 第11回国際機構スタッフ会議
- 2月22日(金) 平成30年度第3回富山大学国際機構運営会議学生海外留学支援専門委員会
- 2月28日(木) 第9回国際機構運営会議外国人留学生奨学金等専門委員会
- 3月 1日(金)～ 5日(火) 第4回国際機構フロント会議(メール会議)
- 3月 8日(金) 第7回国際機構運営会議
- 3月13日(水) 第4回日本語・日本文化研修留学生プログラム検討WG
- 3月17日(日)～3月18日(月) 教養教育院主催国際シンポジウム
「『哲学対話教育』実践と応用のための公開シンポジウム」(国際機構共催)
- 3月18日(月) 第3回国際機構運営会議短期留学生修了論集編集専門委員会
- 3月25日(月) 第12回国際機構スタッフ会議
- 3月27日(水) 第10回国際機構運営会議外国人留学生奨学金等専門委員会

2018 年度外国人留学生と地域との交流状況

No.	行 事 名	期 日	主 催 団 体 名	参加人数 (留学生)
1	五箇山散策と和紙すき体験	6月3日(日)	富山市民国際交流協会	4
2	書道体験	7月8日(日)	富山市民国際交流協会	5
3	ゆかた着付け教室	7月29日(日)	富山市民国際交流協会	3
4	富山まつり 「越中おわら踊り」	8月4日(土)	富山市民国際交流協会	6
5	みんなで作ろう世界とつながる架け橋 in 金屋 幻の滝	8月18日(土) ～19日(日)	(公財) J C I 富山青年会議所 次世代育成委員会	7
6	富山市総合防災訓練	9月29日(土)	富山市民国際交流協会	3
7	ガラスで作ろう	10月21日(日)	富山市民国際交流協会	1
8	国際交流フェスティバル (各国のブース担当、踊り、ゲーム)	11月11日(日)	富山市民国際交流協会	38
9	年賀状づくり	11月17日(土)	富山市民国際交流協会	1
10	富山大学留学生と小学生との文化交流	11月28日(水)	富山昭和ライオンズクラブ	12

国際機構教員担当業務 (2018 年度)

富山大学国際機構では、2018 年度において、機構長以下、副機構長、グローバルフロント長、部門長、専任教員 5 人の教員体制で、次のような業務を行った。

【国際機構教員】

機 構 長	畑中 保丸 (理事, 副学長兼任)
副 機 構 長	篠原 寛明 (工学部兼任)
フロント長	篠原 寛明 (工学部兼任)
交流部門長	バハウ サイモン ピーター (国際機構専任教員)
教育部門長	田中 信之 (国際機構専任教員)
専 任 教 員	副島 健治
	バハウ サイモン ピーター
	濱田 美和
	田中 信之
	小木曾 左枝子

【コースコーディネーター】

日本語研修コース	田中 信之 (前期), 副島 健治 (後期)
	バハウ サイモン ピーター
日本語課外補講	小木曾 左枝子 (前期), 田中 信之 (後期)
日韓共同理工系学部留学生プログラム	副島 健治
総合日本語コース	濱田 美和
ライデン大学短期日本語研修プログラム	小木曾 左枝子
英語授業	小木曾 左枝子 (後期)

【授業担当】

㊦：日本語研修コース, ㊧：日本語課外補講, ㊨：総合日本語コース,
 ㊩：ライデン大学短期日本語研修プログラム, ㊪：英語授業, ㊫：交流部門開講講座
 国際機構外の授業 ㊬：教養教育, ㊭：人文学部オルレアン大学短期研修プログラム
 ㊮：人間発達科学部授業

	前期	後期
副島 健治	㊧㊨㊩ 中級「文法・読解 B」(木曜 1 限) ㊧㊨㊩ 中級「文法・読解 B」(木曜 2 限) ㊪ 外国語科目「日本語リテラシー I」 (月曜 3 限) ㊩ 中級「特別指導 B1」(木曜 4 限) ㊦ 初級「特別指導 A1」(木曜 4 限) ㊭ オルレアン大学「日本語」(集中)	㊧㊨ 中級「文法 B」(月曜 1 限) ㊧㊨ 中級「文法 B」(月曜 2 限) ㊧㊨ 中級「文法・読解 B」(木曜 1 限) ㊧㊨ 中級「文法・読解 B」(木曜 2 限) ㊧㊨ 中級「聴解・会話 B」(火曜 3 限) ㊪ 外国語科目「日本語リテラシー II」 (月曜 3 限) ㊮ 「国際交流活動論」(集中講義)

バハウ サイモン ピーター	<ul style="list-style-type: none"> 補「生活日本語 A1 a」(火曜 2 限) ㊦中級「特別指導 B1」(木曜 4 限) 補中級「特別指導 A1」(木曜 4 限) 教総合科目系「日本事情 / 自然社会」(火曜 5 限) 教人文科学系「異文化理解」(水曜 1 限) 	<ul style="list-style-type: none"> 補「生活日本語 A2 a」(火曜 2 限) 交「留学のための教養講座」(水曜 3 限) 交「多文化交流活動講座」(水曜 4 限) 人「国際交流活動論」(集中講義)
濱田 美和	<ul style="list-style-type: none"> 補初級「特別指導 A1」(水曜 4 限) 総補㊦中級「漢字 B1」(月曜 4 限) 総補㊦中級「プレゼンテーション B1」(火曜 4 限) ㊦中級「特別指導 B1」(月曜 5 限, 木曜 4 限) 総補上級「表現技術 C1」(月曜 2 限) 総補上級「文法 C1」(木曜 2 限) 総補上級「漢字 C1」(月曜 3 限) 教外国語科目「日本語 B」(木曜 3 限) 	<ul style="list-style-type: none"> 総補中級「作文 B2」(木曜 3 限) 総補中級「漢字 B2」(月曜 3 限) 総補上級「表現技術 C2」(月曜 2 限) 総補上級「文法 C2」(木曜 2 限) 総補上級「漢字 C 2」(月曜 4 限) 教総合科目系「日本事情 / 芸術文化」(火曜 5 限)
田中 信之	<ul style="list-style-type: none"> 補初級「文法 A1」(木曜 1 限) 補初級「文法 A1」(木曜 2 限) 補初級「特別指導 A1」(水曜 4 限) 総補㊦中級「聴解・会話 B1」(火曜 3 限) ㊦中級「特別指導 B1」(火曜 5 限) 総補㊦中級「作文 B1」(金曜 3 限) 総補上級「読解 C1b」(木曜 4 限) 教外国語系「日本語コミュニケーション I」(火曜 4 限) 	<ul style="list-style-type: none"> 補初級「文法 A2」(火曜 1 限) 補初級「文法 A2」(火曜 2 限) 補初級「文法 A2」(金曜 1 限) 補初級「文法 A2」(金曜 2 限) 総補上級「読解 C2b」(木曜 4 限) 補外国語系「日本語コミュニケーション II」(火曜 4 限)
小木曾 左枝子	<ul style="list-style-type: none"> 補初級「生活日本語 A1b」(木曜 2 限) 補初級「漢字 A1」(月曜 3 限) 補初級「特別指導 A1」(水曜 4 限) 総補㊦中級「文法 B1」(月曜 1 限) 総補㊦中級「文法 B1」(月曜 2 限) ㊦中級「異文化間コミュニケーション B1」(木曜 3 限) ㊦中級「特別指導 B 1」(火曜 5 限) 教外国語系「日本語コミュニケーション I」(火曜 4 限) ㊦オルレアン大学「日本語」(集中) 英短期留学プログラム事前英語研修(集中) 	<ul style="list-style-type: none"> 補初級「漢字 A2」(木曜 3 限) 補初級「生活日本語 A2b」(木曜 2 限) 教教養科目「日本語 B」(火曜 2 限) 教英人文科学系「異文化間コミュニケーション」(集中) 英留学試験対策講座(水曜 3 限) 英留学準備コース(水曜 5 限) 英短期留学プログラム事前英語研修(講義)(水曜 4 限) 英短期留学プログラム事前英語研修(会話)(集中)

【留学生指導および留学準備にかかるコンサルテーション等】

	前期	後期
バハウ サイモン ピーター	コンサルテーション (火曜 3 限・4 限)、(木曜 3 限) 国際部における活動 (木曜 1 限・2 限)	コンサルテーション (火曜 3 限)、(木曜 3 限) 国際部における活動 (木曜 1 限・2 限)

【学内委員等】

国際機構運営会議

畑中 保丸（議長）

バハウ サイモン ピーター

田中 信之

国際機構フロント会議

篠原 寛明（フロント長）

バハウ サイモン ピーター

田中 信之

国際機構運営会議留学生奨学金等専門委員会

副島 健治（委員長9月まで）

田中 信之

（7月より委員，10月より委員長）

同 五福キャンパス部会

副島 健治（委員長9月まで），

田中 信之

（7月より委員，10月より委員長）

国際機構運営会議海外留学支援専門委員会

バハウ サイモン ピーター

国際機構運営会議短期留学生修了論集編集専門委員会

濱田 美和

田中 信之

日本語・日本文化研修留学生プログラム検討WG

濱田 美和

日韓共同理工系学部留学生事業受入れ方法検討WG

副島 健治

TOEFL等対策検討WG

バハウ サイモン ピーター

教養教育初修外国語日本語

小木曾 左枝子

富山大学生生活協同組合理事会

濱田 美和（代表）

バハウ サイモン ピーター（理事）

【その他業務分担】

国際機構紀要

田中 信之

国際機構ホームページ

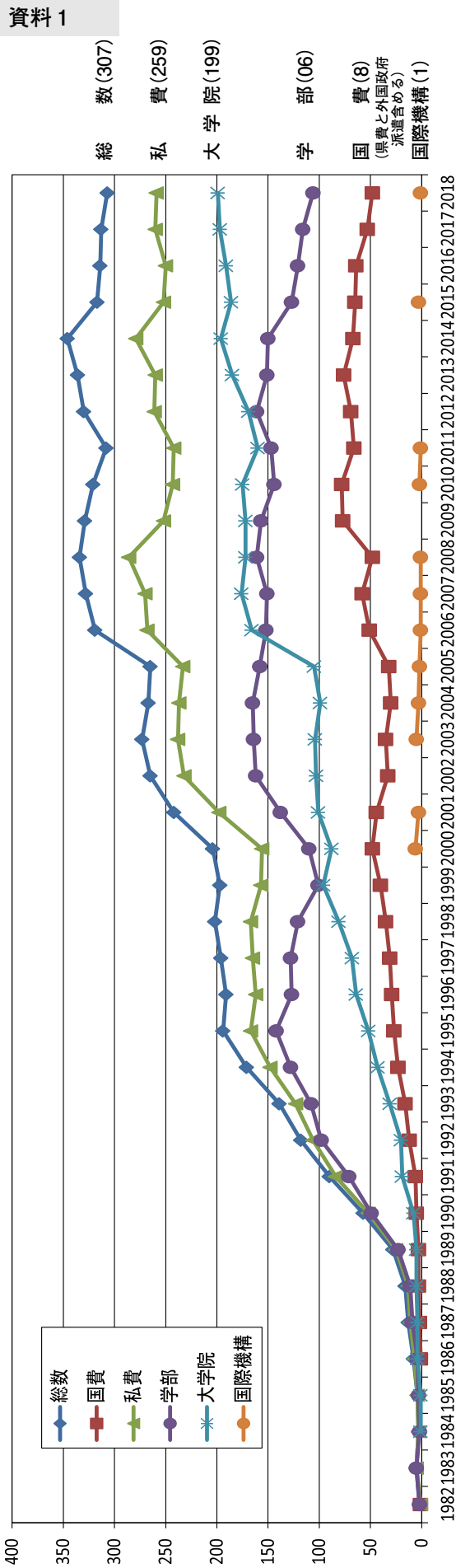
副島 健治



Ⅲ 資料

- 1 富山大学における年度別
外国人留学生数の推移
- 2 富山大学在籍外国人留学生数
- 3 富山大学国際機構規則
- 4 富山大学国際機構紀要投稿要項

富山大学における年度別外国人留学生数の推移



年	1982	1983	1984	1985	1986	1987	1988	1989	1990	1991	1992	1993	1994	1995	1996	1997	1998	1999	2000	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018
総数	2	5	3	4	4	8	13	16	28	57	90	118	139	171	194	191	196	202	197	204	242	265	273	265	319	328	329	308	330	336	346	317	314	313	307		
国費	1				1	2	3	3	5	6	12	16	23	27	29	31	35	40	48	44	33	35	32	51	58	77	78	66	69	76	67	65	64	53	48		
私費	1	5	3	4	4	7	11	13	25	52	84	106	123	148	167	162	165	157	156	198	232	238	237	268	270	286	242	243	260	279	252	250	260	259			
学部	2	5	2	3	4	9	11	23	49	71	98	108	128	142	127	128	121	110	138	162	164	165	158	152	151	161	144	147	161	151	150	127	121	116	106		
大学院			1	1	4	4	5	5	8	19	20	31	43	52	64	68	81	96	88	101	103	104	99	105	166	176	172	175	160	169	185	196	186	191	197	199	
国際機構																		6	3	3	5	3	2	1	1	1	1	2	1			3			1		

(毎年5月1日現在)

※2005年10月に旧富山大学(現五福キャンパス)、富山医科薬科大学(現杉谷キャンパス)、高岡短期大学(現高岡キャンパス)の3大学が統合して現在の富山大学となった。
 2005年度までは旧富山大学のデータである。

※外国政府派遣と県費は国費に含めた。国際機構は予備教育生を示す。

資料2

富山大学在籍外国人留学生数（2018年度）

1. 部局別

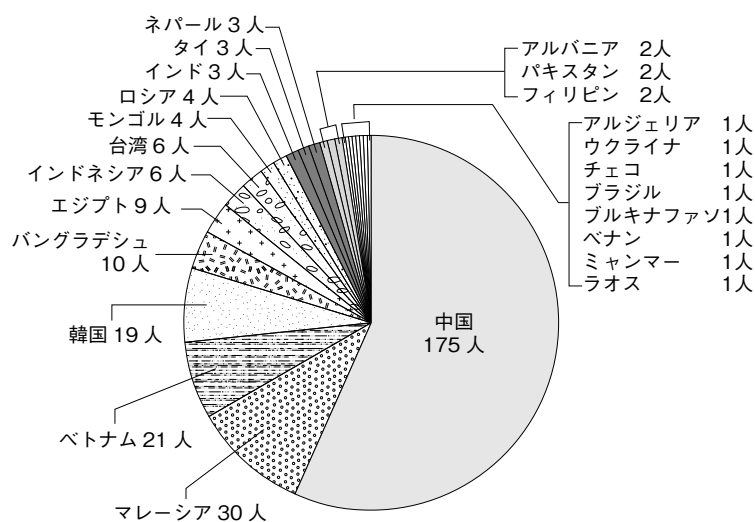
2018年5月1日現在

	学部	正規生					非正規生				合計
		国費	県費	外国政府	私費	小計	国費	県費	私費	小計	計
	人文学部				8	8	2	3	12	17	25
	人間発達科学部			1	1	2	2		2	4	6
	経済学部			3	6	9			11	11	20
	理学部				3	3					3
	医学部								1	1	1
	薬学部										
	工学部			18	20	38			7	7	45
	芸術文化学部				4	4					4
	都市デザイン学部				2	2					2
	小計	0	0	22	44	66	4	3	33	40	106
	大学院 (修士・博士前期)				5	5			2	3	7
	人間発達科学研究科				1	1			1	1	2
	経済学研究科	1			34	35			5	5	40
	医学薬学教育部	1	2		17	20					20
	理工学教育部（理学系）				8	8					8
	理工学教育部（工学系）		2		29	31			2	2	33
	芸術文化学研究科				3	3			1	1	4
	小計	2	4	0	97	103	0	0	11	11	114
	大学院 (博士・博士後期)				5	5			1	1	31
	医学薬学教育部	5			26	31			1	1	31
	生命融合科学教育部（五福）	3			3	6					6
	生命融合科学教育部（杉谷）	1			12	13					13
	理工学教育部（理学系）				2	2	1			1	3
	理工学教育部（工学系）	1			29	30			2	2	32
	小計	10	0	0	72	82	1	0	2	3	85
	国際機構						1				1
	和漢医薬学総合研究所						1				1
	合計	12	4	22	213	251	7	3	46	56	307

2. キャンパス別

五福キャンパス	233
杉谷キャンパス	66
高岡キャンパス	8
合計	307

3. 国・地域別（計25ヶ国・地域）



富山大学国際機構規則

平成30年3月27日制定

令和元年9月27日改正

第1章 総則

(趣旨)

第1条 この規則は、国立大学法人富山大学学則（以下「学則」という。）第11条の2第2項の規定に基づき、富山大学国際機構（以下「機構」という。）の組織及び運営に必要な事項を定める。

(目的)

第2条 機構は、学則第3条に規定する目的の実現に向け、富山大学（以下「本学」という。）における国際化に関する事業を統括し、本学の国際化を推進する。

(業務)

第3条 前条の目的を達成するため、機構は、次の各号に掲げる業務を行う。

- (1) 国際戦略（国際化の基本方針及び目標計画等を含む。）の策定及び国際交流の推進に関すること。
- (2) 海外学術交流協定校との連絡調整に関すること。
- (3) 外国人留学生の受入れ及び本学学生の海外派遣の支援に関すること。
- (4) 外国人研究者の受入れ及び本学職員の海外派遣の支援に関すること。
- (5) 外国人留学生の日本語教育に関すること。
- (6) 外国人留学生のキャリア支援に関すること。
- (7) 本学学生の留学及び国際キャリアのための英語能力の強化に関すること。
- (8) 外国人留学生と本学学生との交流推進に関すること。
- (9) 卒業・修了後の外国人留学生との連携・支援に関すること。
- (10) 国際交流に関する調査及び研究
- (11) 本学職員の英語能力の強化に関すること。
- (12) その他機構の目的を達成するために必要な業務に関すること。

第2章 組織

(グローバルフロント)

第4条 機構に、グローバルフロント（以下「フロント」という。）を置く。

2 フロントは、次に掲げる業務を行う。

- (1) 国際化に関する中期目標・計画，年度計画及び評価の立案に関すること。
 - (2) 機構事業推進に関わる部門間の連携に関すること。
 - (3) 部局等との連携・調整に関すること。
 - (4) 機構事業推進に関わる企画・立案，協定校等の開拓に関すること。
 - (5) 前各号に掲げるもののほか，機構の目的を達成するために必要な業務に関すること。
- 3 前項に掲げるもののほか，フロントに関し必要な事項は，別に定める。

(部門)

第5条 機構に，交流部門及び教育部門を置く。

- 2 交流部門は，次に掲げる業務を行う。
- (1) 海外学術交流協定校との連絡調整に関すること。
 - (2) 外国人留学生の受入れ及び本学学生の海外派遣の支援に関すること。
 - (3) 外国人研究者の受入れ及び本学職員の海外派遣の支援に関すること。
 - (4) 外国人留学生の就学支援体制の構築に関すること。
 - (5) 国際意識の学内普及に関すること。
 - (6) 外国人留学生のキャリア支援及び本学学生の海外インターンシップ実施協力等に関すること。
 - (7) 外国人留学生と本学学生との交流推進に関すること。
 - (8) 卒業・修了後の外国人留学生との連携・支援に関すること。
 - (9) 国際交流に関する調査及び研究
 - (10) 前各号に掲げるもののほか，機構の目的を達成するために必要な業務に関すること。
- 3 教育部門は，次に掲げる業務を行う。
- (1) 外国人留学生の日本語教育に関すること。
 - (2) 本学学生の留学及び国際キャリアのための英語能力の強化（教養教育院及び各学部が開設する英語関連の授業科目は除く）に関すること。
 - (3) 本学職員の英語能力の強化に関すること。
 - (4) 前各号に掲げるもののほか，機構の目的を達成するために必要な業務に関すること。
- 4 前各項に掲げるもののほか，部門に関し必要な事項は，別に定める。

第3章 職員

(職員)

第6条 機構に，次に掲げる職員を置く。

- (1) 機構長

- (2) 副機構長
 - (3) 部門長
 - (4) 主担当として配置される教員
 - (5) 兼務配置される教員
 - (6) フロントフェロー
 - (7) その他機構長が必要と認めた者
- 2 前項のほか、部門に、必要に応じて副部門長を置くことができる。

(機構長)

第7条 機構長は、機構の業務を統括する。

- 2 機構長は、学長が指名する理事をもって充てる。

(副機構長)

第8条 副機構長は、機構長を補佐する。

- 2 副機構長の選考は、機構長が推薦し、学長が行う。
- 3 副機構長の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、推薦した機構長の在任期間を超えないものとする。
- 4 副機構長に欠員が生じた場合、後任の副機構長の任期は、前任者の残任期間とする。

(フロント長)

第9条 フロントに、フロント長を置く。

- 2 フロント長は、フロントの業務をつかさどる。
- 3 フロント長は、副機構長をもって充てる。

(部門長)

第10条 部門長は、担当する部門の業務をつかさどる。

- 2 部門長の選考は、機構長が推薦し、学長が行う。
- 3 部門長の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、推薦した機構長の在任期間を超えないものとする。
- 4 部門長に欠員が生じた場合、後任の部門長の任期は、前任者の残任期間とする。

(副部門長)

第11条 副部門長は、部門の運営に当たり部門長を補佐する。

- 2 副部門長は、部門を担当する第6条第1項第4号又は第5号の職員のうちから機構長が指名する者をもって充てる。
- 3 副部門長の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、指名した機構長の在任期間を超えないものとする。

4 副部門長に欠員が生じた場合、後任の副部門長の任期は、前任者の残任期間とする。

(主担当配置教員)

第12条 主担当として配置される教員(以下「主担当配置教員」という。)は、フロント又は部門の業務に従事する。

(兼務配置教員)

第13条 兼務配置される教員(以下「兼務配置教員」という。)は、フロント又は部門の業務に従事する。

- 2 兼務配置教員は、本人の承諾を得た上で機構長が申請し、学系長、学術研究部長の承認を経て、学長が命ずる。
- 3 兼務配置教員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、申請した機構長の在任期間を超えないものとする。
- 4 兼務配置教員に欠員が生じた場合、後任の兼務配置教員の任期は、前任者の残任期間とする。

(フロントフェロー)

第14条 フロントフェローは、各部門と協力して部局等と連携し、事業を推進する。

- 2 フロントフェローは、機構長が部局長等及び本人の承諾を得て指名する。
- 3 フロントフェローの任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、指名した機構長の在任期間を超えないものとする。

第4章 会議

(機構運営会議)

第15条 機構に、富山大学国際機構運営会議(以下「機構運営会議」という。)を置き、次に掲げる事項を審議する。

- (1) 国際化に関する中期目標・計画、年度計画及び評価に関すること。
 - (2) 職員の配置に関すること。
 - (3) フロント及び部門の業務に関すること。
 - (4) 海外大学等との学術交流協定に関すること。
 - (5) 国際交流に係る地域連携に関すること。
 - (6) 外国人留学生の奨学金に関すること(受給者の選考を含む。)
 - (7) 学生の海外派遣に係る奨学金に関すること(受給者の選考を含む。)
 - (8) 国際交流会館の管理運営に関すること(入居者の選考を含む。)
 - (9) その他機構の目的達成に必要な事項
- 2 機構運営会議に、必要に応じて専門委員会を置くことができる。

3 専門委員会に関し必要な事項は、機構長が別に定める。

(構成員)

第16条 機構運営会議は、次に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 機構長
- (2) 副機構長
- (3) 部門長
- (4) 学部から選出された教員 各1人
- (5) 教養教育院から選出された教員 1人
- (6) 大学院生命融合科学教育部担当から選出された教員 1人
- (7) 和漢医薬学総合研究所から選出された教員 1人
- (8) 附属病院から選出された教員 1人
- (9) 国際部の部長及び課長
- (10) その他機構長が必要と認めた者

2 前項第4号から第8号まで及び第10号の委員の任期は2年とし、再任を妨げない。

ただし、任期の途中で委員の交替があった場合の後任の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(会議の招集及び議長)

第17条 機構長は、機構運営会議を招集し、その議長となる。

2 議長に事故があるときは、副機構長がその職務を代行する。

(議事)

第18条 機構運営会議は、委員の過半数の出席により成立し、議事は出席者の過半数をもって決する。ただし、可否同数のときは、議長がこれを決する。

2 前項の規定にかかわらず、第15条第1項第2号の事項を審議する会議は、委員の3分の2以上が出席しなければ開会できない。議事は、出席者の3分の2以上をもって決する。

3 第16条第1項第2号から第8号及び第10号の委員のうち教授を除く委員並びに同条同項第9号の委員は、第15条第1項第2号の審議には加わらない。

(意見の聴取)

第19条 機構運営会議が必要と認めたときは、委員以外の者の出席を求めて意見を聴くことができる。

第5章 雑則

(雑則)

第 20 条 この規則に定めるもののほか、機構の運営に関し必要な事項は、機構運営会議の意見を聴いて、機構長が別に定める。

(事務)

第 21 条 機構の事務は、国際部において処理する。

附 則

- 1 この規則は、平成 30 年 4 月 1 日から施行する。
- 2 この規則の施行後、最初に選出される第 16 条第 1 項第 4 号から第 8 号までの委員のうち人文学部、経済学部、医学薬学研究部の医学系、理工学研究部の工学系、大学院生命融合科学教育部担当及び附属病院から選出された委員の任期は、同条第 2 項の規定にかかわらず、平成 31 年 3 月 31 日までとする。

附 則

- 1 この規則は、令和元年 10 月 1 日から施行する。
- 2 この規則の施行日の前日において、改正前の第 13 条に規定する兼任教員であった者は、この規則により兼務配置教員に任命されたものとみなす。
- 3 この規則の施行日の前日において、研究部の各系から選出された委員については、理学部、医学部、薬学部、工学部及び都市デザイン学部から選出されたものとみなす。ただし、任期は第 16 条第 2 項の規定にかかわらず、人間発達科学部、芸術文化学部、理学部、薬学部及び都市デザイン学部から選出された委員は、令和 2 年 3 月 31 日までとし、人文学部、経済学部、工学部及び医学部から選出された委員は、令和 3 年 3 月 31 日までとする。

富山大学国際機構紀要投稿要項

1 目的

富山大学国際機構（以下「機構」という。）は、日本語・日本事情教育，異文化教育，留学生教育，国際交流等にかかる理論的・実践的研究に関する論文，研究資料等を発表するため，富山大学国際機構紀要（以下「機構紀要」という。）を発行する。

2 執筆者の資格

- (1) 機構の専任教員及び非常勤講師とする。
- (2) 編集委員会が特に認めた者
- (3) (1)(2)の者が筆頭著者となっている共著者については，制限しない。

3 原稿の内容

- (1) 投稿原稿は，未発表のものとする。
- (2) 原稿の種目は，論文，研究ノート（特定の主題に対する研究上及び教育上の提言，史・資料の紹介及び考察，又は萌芽的研究を記したものを指す。），研究資料（実践記録・調査結果，既成の知見の確認等研究上報告する価値のあるものを指す。），実践・調査報告，書評のいずれかとする。

4 原稿の長さ

原稿の長さは，1篇につき，図・表・写真等を含め，原則として刷り上がり20ページ以内とする。

5 原稿の体裁

富山大学国際機構紀要執筆要領（以下「執筆要領」という。）に従って，記述する。

6 編集委員会

機構紀要編集のため，国際機構長と機構の専任教員で構成される編集委員会を置く。編集委員長は国際機構長とする。

7 投稿手続き

- (1) 投稿カードに所定の事項を記入のうえ，原稿とともに国際機構長に提出する。
後日，原稿受領書を受け取る。
- (2) 提出された年月日をもって，受付年月日とする。
- (3) 原稿提出締切日は，別途定める。

8 原稿の採否

論文等の採否は、本要項及び執筆要領に基づいて、編集委員会が決定する。

9 発行回数

原則として、年1回とする。

10 その他

掲載された論文等の二次利用は、編集委員会に委ねるものとする。ただし、著者は自由に利用できるものとする。

附則

本要項の実施は、2018年4月1日から適用する。

執筆者一覧

小木曾 左枝子	富山大学国際機構 准教授 [※]
副島 健治	富山大学国際機構 教授
田中 信之	富山大学国際機構 准教授
中河 和子	富山大学国際機構 非常勤講師
バハウ サイモン ピーター	富山大学国際機構 教授 [※]
濱田 美和	富山大学国際機構 教授
水田 佳歩	富山大学国際機構 非常勤講師

※ 2019年3月時点におけるもの

富山大学国際機構紀要 第2号

発行年月 / 2019年12月

編集・発行 / 国立大学法人 富山大学国際機構

〒930-8555 富山県富山市五福 3190

印刷所 / 中央印刷(株)

Journal of the Organization for International Education and Exchange, University of Toyama

Vol.2
December
2019

Contents

I

Research Papers

- HAMADA Miwa
An Analysis of International Undergraduate Students' Written Lecture
Reflections: Focus on the Content of the Comments 1
- SOEJIMA Kenji
Encounters with Japanese language by Japanese students as their own culture :
An attempt of global mind formation for the students aiming
for the teaching profession 14
- NAKAGAWA Kazuko
HAMADA Miwa
A Report of the Workshop to Cultivate "Global Japanese" for
Japanese Students and Foreign Students 27
- MIZUTA Kaho
Foreign Language Voice Training with a Speech Recognition System 45

II

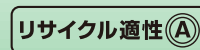
Annual Reports (April 2018~March 2019)

- 1.Report on Exchange Division 51
- 2.Report on Education Division 56
- Report on Intensive Japanese Course 57
- Report on Extracurricular Japanese Language Program 60
- Report on Short-term Japanese Language Program for Leiden University Students 67
- Report on General Japanese Language Course 74
- Student Class Questionnaire Results: Elementary Level Classes 81
- Student Class Questionnaire Results: Intermediate Level Classes 85
- Student Class Questionnaire Results: Advanced Level Classes 89
- Development and Maintenance of Japanese Language Support Website "RAICHO" 98
- 3.Calendar Year Events and Meetings 99
- 4.List of Staff and Their Responsibilities at the OIEE 103

III

- Data 107

Journal of the Organization for International Education and Exchange,
University of Toyama



この印刷物は、印刷用の紙へ
リサイクルできます。